

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-8524
(P2024-8524A)

(43)公開日 令和6年1月19日(2024.1.19)

(51)国際特許分類
A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I
A 6 3 F 7/02 3 2 0
A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

テーマコード (参考)
2 C 0 8 8
2 C 3 3 3

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全65頁)			
(21)出願番号	特願2022-110464(P2022-110464)	(71)出願人	391010943 株式会社藤商事 大阪府大阪市中央区内本町一丁目1番4号
(22)出願日	令和4年7月8日(2022.7.8)	(74)代理人	110001645 弁理士法人谷藤特許事務所
		(72)発明者	今山 武成 大阪市中央区内本町一丁目1番4号 株式会社藤商事内
		Fターム (参考)	2C088 EA06 EA10 2C333 AA11 CA29 CA44 FA05 FA09 FA19

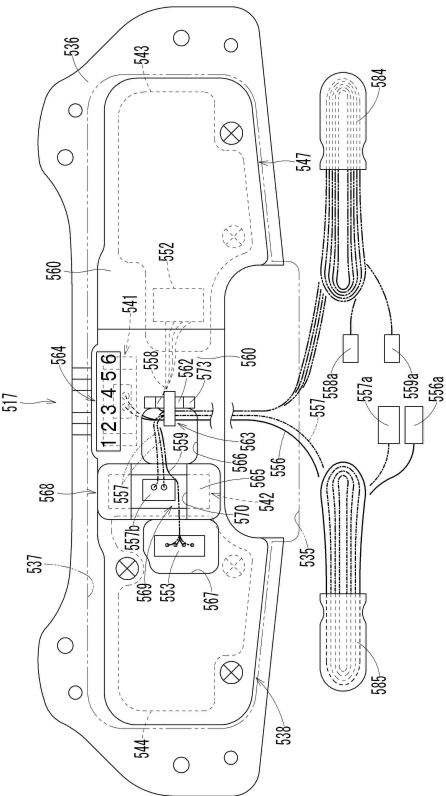
(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【要約】

【課題】遊技機の価格高騰をより適切なかたちで抑制する。

【解決手段】図柄がリーチ状態となった後、一又は複数段階のリーチ演出を経て、最後のリーチ演出において結果表示を行うリーチ変動パターンは、リーチ演出の段階が進むにつれて特定態様となる信頼度が高くなる。リーチ演出には、弱リーチ演出と強リーチ演出とがあり、リーチはずれ変動パターンでは、最後のリーチ演出が弱リーチ演出の場合よりも強リーチ演出の場合の方が結果表示の時間が長くなるように構成する。また遊技盤501に設けられた遊技部品517は、複数の電気部品541～544と、この各電気部品541～544に接続された複数のハーネス556～559とを備え、複数のハーネス556～559を遊技部品517に一纏めに留める留め具563を備える。

【選択図】図21



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

所定部位に設けられた遊技部品と、
遊技者に利益を付与するか否かを抽選する抽選手段と、
前記抽選手段による抽選結果に基づいて図柄を変動表示すると共に前記利益を付与する場合には前記図柄を特定態様で停止させる図柄表示手段と、
前記抽選結果に関する演出を、前記図柄表示手段による変動表示と共に、複数種類の変動パターンの何れかに従って実行させる演出制御手段と、を備え、
前記遊技部品は、複数の電気部品と、該各電気部品に接続された複数のハーネスとを有し、

10

前記複数種類の変動パターンは、前記図柄がリーチ状態となった後、一又は複数段階のリーチ演出を経て、最後のリーチ演出において結果表示を行うリーチ変動パターンを含み、

前記リーチ変動パターンは、前記リーチ演出の段階が進むにつれて前記特定態様となる信頼度が高くなるように構成した

遊技機において、

複数の前記ハーネスを一纏めに留める留め具を備え、

前記リーチ演出には、弱リーチ演出と、該弱リーチ演出よりも後段階に出現可能な強リーチ演出とがあり、

前記リーチ変動パターンのうち、前記図柄が前記特定態様とならないはずれ変動に対応するリーチははずれ変動パターンでは、前記最後のリーチ演出が前記弱リーチ演出の場合よりも前記強リーチ演出の場合の方が前記結果表示の時間が長くなるように構成した

20

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、パチンコ機等の遊技機に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

パチンコ機等の遊技機は、遊技者に利益を付与するか否かを抽選し、その抽選結果に基づいて図柄を変動表示すると共に利益を付与する場合には図柄を特定態様で停止させ、またその図柄変動中は、抽選結果に関する演出を複数種類の変動パターンの何れかに従って実行するように構成されている。

30

またこの種の遊技機では、遊技盤の遊技領域の略中央に遊技情報表示手段が配置されると共に、その遊技情報表示手段の周辺部分に普通入賞手段、始動口手段、大入賞手段等の遊技部品が配置されている。遊技情報表示手段には液晶表示手段が使用され、また普通入賞手段、始動口手段、大入賞手段等には、入賞スイッチ、駆動ソレノイド、LEDが使用される等、多数の電気部品が使用されている。

これらの電気部品には各電気部品毎にコネクタを介してハーネスが接続され、その各ハーネスの他端側がコネクタを介して中継基板等に接続され、更にその電気部品が遊技制御系であるか演出制御系であるかに応じて、中継基板からコネクタを介して主制御基板、演出制御基板へと夫々接続されている。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 0 5 8 7 6 5 号

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

最近では部材供給量の低下に伴って部品価格が上昇し、その結果、遊技機の価格高騰に

50

繋がっている。そのような背景から、遊技機の価格を抑える為の対策が求められている。

遊技機の価格高騰に対する対策としては、遊技部品等のハード面はもちろん、演出を含むソフト面についてもリユースや他の機種への流用を進めることが考えられる。ここで、後者については、演出を流用しても遊技者に飽きられないよう、従来よりも演出効果をより高めておく必要がある。また、リユースを促進するためには、リユースの際に配線作業等を容易化するための工夫を行うことも重要である。

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、遊技機の価格高騰をより適切なかたちで抑制することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

10

本発明は、所定部位に設けられた遊技部品と、遊技者に利益を付与するか否かを抽選する抽選手段と、前記抽選手段による抽選結果に基づいて図柄を変動表示すると共に前記利益を付与する場合には前記図柄を特定態様で停止させる図柄表示手段と、前記抽選結果に関する演出を、前記図柄表示手段による変動表示と共に、複数種類の変動パターンの何れかに従って実行させる演出制御手段と、を備え、前記遊技部品は、複数の電気部品と、該各電気部品に接続された複数のハーネスとを有し、前記複数種類の変動パターンは、前記図柄がリーチ状態となった後、一又は複数段階のリーチ演出を経て、最後のリーチ演出において結果表示を行うリーチ変動パターンを含み、前記リーチ変動パターンは、前記リーチ演出の段階が進むにつれて前記特定態様となる信頼度が高くなるように構成した遊技機において、複数の前記ハーネスを一纏めに留める留め具を備え、前記リーチ演出には、弱リーチ演出と、該弱リーチ演出よりも後段階に出現可能な強リーチ演出とがあり、前記リーチ変動パターンのうち、前記図柄が前記特定態様とならないはずれ変動に対応するリーチはずれ変動パターンでは、前記最後のリーチ演出が前記弱リーチ演出の場合よりも前記強リーチ演出の場合の方が前記結果表示の時間が長くなるように構成したものである。

20

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、遊技機の価格高騰をより適切に抑制することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【0007】

30

【図1】本発明の第1の実施形態に係るパチンコ機の全体正面図である。

【図2】同パチンコ機の制御系のブロック図である。

【図3】同パチンコ機の変動パターン選択テーブルを示す図である。

【図4】同パチンコ機の変動パターンの概略構成を示す図である。

【図5】同パチンコ機のSリーチ演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図6】同パチンコ機のSPリーチ前演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図7】同パチンコ機のSPリーチ後演出（はずれの場合）のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図8】同パチンコ機のSPリーチ後演出（大当りの場合）のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

40

【図9】同パチンコ機の通常／復活大当り可動体演出におけるレインボー発光パターンの説明図である。

【図10】本発明の第2の実施形態に係るパチンコ機のSPリーチ前演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図11】本発明の第3の実施形態に係るパチンコ機のSPリーチ前演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図12】本発明の第4の実施形態に係るパチンコ機のSPリーチ前演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図13】本発明の第5の実施形態に係るパチンコ機のSPリーチ前演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

50

【図 1 4】本発明の第 6 の実施形態に係るパチンコ機の S P リーチ後演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図 1 5】本発明の第 7 の実施形態に係るパチンコ機の S リーチ演出及び S P リーチ後演出のタイムチャートを示す図である。

【図 1 6】本発明の第 8 の実施形態に係るパチンコ機の S リーチ演出のタイムチャート及び演出内容を示す図である。

【図 1 7】本発明の第 9 の実施形態に係るパチンコ機の遊技盤の正面図である。

【図 1 8】同遊技盤の背面図である。

【図 1 9】同第 1 特別図柄始動手段の平面図である。

【図 2 0】同第 1 特別図柄始動手段の平面断面図である。

10

【図 2 1】同第 1 特別図柄始動手段の背面図である。

【図 2 2】同ハーネスの位置決め状態の側面図である。

【図 2 3】同ハーネスの接続関係の説明図である。

【図 2 4】同ハーネスの説明図である。

【図 2 5】同留め具の説明図である。

【図 2 6】本発明の第 1 0 の実施形態に係るパチンコ機の複合入賞手段の平面図である。

【図 2 7】同複合入賞手段の背面図である。

【図 2 8】同複合入賞手段の分解斜視図である。

【図 2 9】同中継基板、LED 基板等の背面図である。

【図 3 0】同中継基板、LED 基板等の側面断面図である。

20

【図 3 1】同ハーネスの配線関係の説明図である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて詳述する。図 1 ~ 図 9 は本発明をパチンコ機に採用した第 1 の実施形態を例示している。図 1 において、遊技機本体 1 は、矩形状の外枠 2 と、この外枠 2 の前側に左右一側、例えば左側のヒンジ 3 により開閉自在に枢着された前枠 4 とを備えている。前枠 4 の前側には、遊技盤 5 等が上部側に、遊技盤 5 の前側の遊技領域 5 a に向けて遊技球を発射する発射手段 6 等が下部側にそれぞれ配置され、また遊技盤 5 等の前側に対応してガラス扉 7 が、発射手段 6 等の前側に対応して前面板 8 がそれぞれヒンジ 3 と同じ側のヒンジ 9 により開閉自在に枢支されている。なお、ガラス扉 7 と前面板 8 は一体的に開閉可能な構成としてもよい。

30

【0009】

前面板 8 の前側には、払い出し手段（図示省略）から払い出された遊技球を貯留して発射手段 6 に供給する上皿 1 0 が上部側に配置され、またその上皿 1 0 の下側には、例えば上皿 1 0 が満杯のときにその余剰球を貯留する下皿 1 1 が左端側に、発射手段 6 を作動させるための発射ハンドル 1 2 が右端側に夫々設けられている。更に、例えば上皿 1 0 等を前側から覆う上皿カバー 1 3 上には、遊技者が押下操作可能な演出ボタン（所定操作手段）1 4 等が設けられている。

【0010】

遊技盤 5 の前面側には、発射手段 6 から発射された遊技球を案内するガイドレール 1 5 が環状に装着されると共に、そのガイドレール 1 5 の内側の遊技領域 5 a に、センターケース 1 7、普通図柄始動手段 1 8、特別図柄始動手段 1 9、大入賞手段 2 0、普通入賞手段 2 1 等の各種遊技部品が配置されている。

40

【0011】

センターケース 1 7 は、例えば遊技領域 5 a の略中央に配置されており、液晶式等の画像表示手段 2 2 に対応する略矩形状の表示窓 2 3 を備え、その表示窓 2 3 を取り囲む装飾枠 2 4 上に、普通図柄表示手段 2 5、特別図柄表示手段 2 6、普通保留個数表示手段 2 7、第 1 特別保留個数表示手段 2 8 等の各種表示手段の他、ステージ 2 9、可動演出手段 3 0 等が設けられている。

【0012】

50

ステージ 29 は、画像表示手段 22 の下部前側に左右方向に配置されており、センターケース 17 の側部、例えば左側に設けられたワープ入口 29 a に流入した遊技球を自由に転動させた後、例えば左右方向中央の中央落下部又はその左右両側の側部落下部から前側に落下させるようになっている。

【0013】

可動演出手段 30 は、可動体 31 と、この可動体 31 を移動可能に支持する可動体案内手段 32 と、可動体 31 を駆動する駆動手段 33 とを備えている。可動体 31 には、任意の装飾体（ここでは当該遊技機のタイトルである「カップ伝説」の文字）が例えば立体的に形成されており、後側（又は内部）に配置された LED 71 が点灯することによって所定部位（ここでは「カップ伝説」の文字部分）が任意色で発光するようになっている。

10

【0014】

可動体案内手段 32 は、可動体 31 を画像表示手段 22 の表示画面 22 a の前面側に沿って所定方向、例えば上下方向に移動可能な状態で支持するもので、画像表示手段 22 の表示画面 22 a の左右両側に沿って上下方向に配置された一対の案内レール 34 を備え、それら各案内レール 34 によって可動体 31 の左右両端部が上下方向移動可能に支持されている。この可動体案内手段 32 により、可動体 31 は、画像表示手段 22 の上側の上部位置と、画像表示手段 22 の前側の下部位置との間で上下方向に移動可能であり、通常時は原点位置である上部位置に保持されている。

【0015】





駆動手段 33 は、例えばステッピングモータで構成され、装飾枠 24 の後側に配置されており、図示しないベルト等を介して可動体 31 を所定の動作パターンに従って上下方向に移動させることが可能となっている。

20

【0016】

普通図柄始動手段 18 は、普通図柄表示手段 25 による図柄変動を開始させるためのもので、遊技球が通過可能な通過ゲートにより構成され、センターケース 17 の左側に配置されており、遊技球の通過を検出可能な遊技球検出手段（図示省略）を備えている。

【0017】

普通図柄表示手段 25 は、普通図柄を変動表示するためのもので、複数個の普通図柄（例えば「」「」の 2 種類）に対応する複数個の発光体（例えば LED）を備え、普通図柄始動手段 18 が遊技球を検出することに基づいてそれら複数の発光体が所定順序で発光するように点滅して、普通図柄始動手段 18 による遊技球検出時に取得された普通乱数情報に含まれる当り判定乱数値が予め定められた当り判定値と一致する場合には当り態様（所定態様）に対応する例えば「」側の発光体が点灯し、それ以外の場合にははずれ態様に対応する例えば「」側の発光体が点灯して停止する。

30

【0018】

普通図柄始動手段 18 による遊技球検出時に取得された普通乱数情報は、予め定められた上限個数、例えば 4 個を限度として保留記憶され、普通図柄表示手段 25 による図柄変動が開始される毎に順次消化される。普通乱数情報の記憶個数（普通保留個数）は普通保留個数表示手段 27 等によって遊技者に報知される。

【0019】

40

特別図柄始動手段 19 は、特別図柄表示手段 26 による図柄変動を開始させるためのもので、例えば上下 2 つの始動入賞手段 19 a, 19 b と、下始動入賞手段 19 b を開閉する開閉手段 36 と、始動入賞手段 19 a, 19 b に入賞した遊技球を夫々検出する遊技球検出手段（図示省略）とを備え、例えばセンターケース 17 の下側に配置されている。上始動入賞手段 19 a は開閉手段等を有しない非開閉式入賞手段で、ステージ 29 の中央落下部の真下に上向き開口状に配置されている。下始動入賞手段 19 b は、開閉手段 36 により遊技球が入賞可能な開状態と入賞不可能（又は開状態よりも入賞困難）な閉状態とに切り換え可能な開閉式入賞手段で、上始動入賞手段 19 a の下側に配置されており、普通図柄表示手段 25 の変動後の停止図柄が当り態様となった場合に発生する普通利益状態において、開閉手段 36 が所定時間閉状態から開状態に変化するように構成されている。

50

【 0 0 2 0 】

特別図柄表示手段 2 6 は、特別図柄を変動表示するためのもので、1 個又は複数個、例えば 1 個の特別図柄を変動表示可能な 7 セグメント式等の表示手段により構成されており、特別図柄始動手段 1 9 が遊技球を検出した場合（図柄始動条件が成立した場合）、即ち上下 2 つの始動入賞手段 1 9 a , 1 9 b の何れかに遊技球が入賞した場合に特別図柄を所定時間変動表示して、始動入賞手段 1 9 a , 1 9 b への入賞時に取得された特別乱数情報に含まれる大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致する場合には所定の大当り態様で、一致しない場合には例えばはずれ態様で停止するようになっている。特別図柄には、大当り態様及びはずれ態様が夫々 1 又は複数種類ずつ設けられている。なお、それら各態様には夫々数字図柄等を割り当ててもよいし、遊技者がその特別図柄の種類を容易に区別できないように、任意の線や点の組み合わせのようなそれ自体としては特別な意味を持たない図柄を割り当ててもよい。

10

【 0 0 2 1 】

特別図柄始動手段 1 9 への遊技球入賞時に取得された特別乱数情報は、予め定められた上限個数、例えば 4 個を限度として保留記憶され、特別図柄表示手段 2 6 による図柄変動が開始される毎に順次消化される。特別乱数情報の記憶個数（特別保留個数）は、第 1 特別保留個数表示手段 2 8 等によって遊技者に報知される。

【 0 0 2 2 】

大入賞手段 2 0 は、遊技球が入賞可能な開状態と入賞不可能な閉状態とに切り換え可能な開閉板 3 7 を備えた開閉式入賞手段で、例えば特別図柄始動手段 1 9 の下側に配置されており、特別図柄表示手段 2 6 の変動後の停止図柄が大当り態様となった場合に発生する特別利益状態において、開閉板 3 7 が所定の開放パターンに従って前側に開放して、その上に落下した遊技球を内部へと入賞させるようになっている。

20

【 0 0 2 3 】

また画像表示手段 2 2 は、演出図柄表示手段 3 8、第 2 特別保留個数表示手段 3 9 等を構成している。演出図柄表示手段（図柄表示手段）3 8 は、特別図柄表示手段 2 6 による特別図柄の変動表示と並行して演出図柄（図柄）P を変動表示するものである。演出図柄 P は、数字図柄その他の複数個の図柄で構成される図柄列を複数（図 1 の例では左右方向に 3 つ）備えており、またそれら各図柄列を構成する各図柄は、1 ~ 8 等の数字、その他で構成される図柄本体部 P a と、この図柄本体部 P a に付随するキャラクタその他の装飾部 P b との結合で構成されている。なお演出図柄 P は、拡大又は縮小、表示位置の変更、装飾部 P b の消去等、表示態様を任意に変化させることが可能である。

30

【 0 0 2 4 】

演出図柄 P は、特別図柄の変動開始と略同時に所定の変動パターンに従って図柄列毎に縦スクロール等による変動を開始すると共に、所定の有効ライン上の停止図柄が所定態様となるように特別図柄の変動停止と略同時に最終停止する。なお演出図柄 P では、例えば有効ライン上の全ての停止図柄が同じ場合が大当り演出態様（特定態様）、それ以外がはずれ演出態様となっており、特別図柄が大当り態様、はずれ態様となる場合には演出図柄 P は大当り演出態様、はずれ演出態様となる。

【 0 0 2 5 】

また演出図柄 P の変動パターンは、3 つの図柄列が夫々変動する通常変動で始まり、その通常変動で「2 2」、「7 7」等のリーチ状態が成立した場合には、一又は複数段階のリーチ演出を経て最終停止するように構成されており、通常変動からリーチ演出に発展して大当り演出態様又ははずれ演出態様となるのがリーチ変動パターン、通常変動からリーチ演出に発展することなくはずれ演出態様となるのが通常変動パターンである。

40

【 0 0 2 6 】

リーチ変動パターンにおける各リーチ演出では、画像表示手段 2 2 等による任意の映像演出が行われるとともに、大当り演出態様 / はずれ演出態様の何れかで変動停止するか、次段階のリーチ演出に発展するかを示す結果表示が行われるようになっている。

【 0 0 2 7 】

50

本実施形態では、図 4 に示すように、「Nリーチ演出」、「Sリーチ演出」、「SPリーチ前演出」、「SPリーチ後演出」の 4 段階のリーチ演出が設けられている。Nリーチ演出では、大当たり演出態様となる可能性は極めて低く、殆どの場合、はずれ演出態様で停止するか、次の Sリーチ演出に発展するように制御される。また、SPリーチ前演出は、SPリーチ演出の前半部分を構成するもので、ここで大当たり演出態様となって終了する場合はなく、はずれ演出態様で停止するか、次の SPリーチ後演出に発展するように制御される。SPリーチ後演出は、最終段階のリーチ演出であって次のリーチ演出に発展することではなく、大当たり演出態様 / はずれ演出態様の何れかで終了するように制御される。

【0028】

本実施形態では、図 3 (b) に示すように、大当たり演出態様で最終停止するリーチ大当たり変動パターンとして、Nリーチ演出まで発展して終了する Nリーチ大当たり変動パターン、Sリーチ演出まで発展して終了する Sリーチ大当たり変動パターン、SPリーチ後演出まで発展して終了する SPリーチ大当たり変動パターンの 3 種類が設けられており、更に SPリーチ大当たり変動パターンとしては、SPリーチ演出の異なる SPリーチ 1 ~ 3 大当たり変動パターンの 3 種類が設けられている。なお上述したように、SPリーチ前演出で大当たり演出態様となる場合はないから、SPリーチ 1 ~ 3 大当たり変動パターンでは必ず SPリーチ後演出まで発展する。

【0029】

また本実施形態では、図 3 (a) に示すように、はずれ演出態様で最終停止するはずれ変動パターンとして、リーチ演出に発展することなく終了する通常変動パターン、Nリーチ演出まで発展して終了する Nリーチはずれ変動パターン、Sリーチ演出まで発展して終了する Sリーチはずれ変動パターン、SPリーチ前演出まで発展して終了する SPリーチ前ははずれ変動パターン、SPリーチ後演出まで発展して終了する SPリーチ後ははずれ変動パターンの 5 種類が設けられている。また、通常変動パターンは変動時間が 15 s (s = 秒、以下同じ)、10 s、5 s、3 s の 4 種類設けられ、Nリーチはずれ変動パターンは、最終停止図柄とリーチ図柄との差が - 3, - 2, - 1, + 1 の 4 種類設けられ、SPリーチ前ははずれ変動パターンと SPリーチ後ははずれ変動パターンは、SPリーチ演出の異なる各 3 種類設けられている。

【0030】

第 2 特別保留個数表示手段 39 は、特別保留個数を報知するためのもので、特別保留個数分 (最大 4 個) の保留表示画像 Q4 ~ Q1 と、変動中の演出図柄 P に対応する変動中保留画像 Q0 とを表示画面 22a の所定位置、例えば下部側に表示可能となっている。第 2 特別保留個数表示手段 39 は、特別図柄始動手段 19 への遊技球の入賞によって特別保留個数が増加した場合には、保留表示画像 Q1 ~ を待ち行列の最後尾 (例えば左端側) に 1 個追加表示し、特別図柄の新たな変動が開始して特別保留個数が減少した場合には、例えば変動中保留画像 Q0 を消去すると共に、保留表示画像 Q1 ~ を待ち行列の前側 (例えば右側) に向けて 1 個分ずつシフトし、押し出された先頭の保留表示画像 Q1 を新たな変動中保留画像 Q0 に変化させるようになっている。

【0031】

図 2 は本パチンコ機の制御系のブロック図である。図 2 において、41 は主制御基板、42 は演出制御基板で、これら各制御基板 41, 42 は、遊技盤 5 の裏側の適宜箇所に、基板ケースに格納された状態で着脱自在に装着されている。なお、図 2 のブロック図では、主制御基板 41、演出制御基板 42 以外の基板については省略している。

【0032】

主制御基板 41 は、遊技動作を統括的に制御するもので、CPU, ROM, RAM 等により構成される普通乱数作成処理手段 51、普通始動口チェック処理手段 52、普通乱数記憶手段 53、普通図柄処理手段 54、普通図柄表示制御手段 55、普通保留個数表示制御手段 56、普通利益状態発生手段 57、特別乱数作成処理手段 61、特別始動口チェック処理手段 62、特別乱数記憶手段 63、特別図柄処理手段 64、特別図柄表示制御手段 65、第 1 特別保留個数表示制御手段 66、特別利益状態発生手段 67、特別遊技状態発

10

20

30

40

50

生手段 6 8、制御コマンド送信手段 6 9等を備えている。

【0033】

普通乱数作成処理手段 5 1は、変動後の普通図柄を当り態様とするか否かの判定に用いる当り判定乱数等を所定時間毎に繰り返し発生するように構成されている。普通始動口チェック処理手段 5 2は、普通図柄始動手段 1 8による遊技球の検出に基づく処理を行うもので、普通図柄始動手段 1 8が遊技球を検出することに基づいて、普通乱数作成処理手段 5 1で作成された当り判定乱数値等の普通乱数情報を 1 個取得し、その普通乱数情報を予め定められた上限保留個数（例えば 4 個）を限度として先入れ先出し式の普通乱数記憶手段 5 3に記憶させるように構成されている。

【0034】

普通図柄処理手段 5 4は、普通図柄の変動表示に関する処理を行うもので、当り判定手段 5 4 a、普通停止図柄選択手段 5 4 b、変動時間選択手段 5 4 c等を備えている。当り判定手段 5 4 aは、普通図柄の変動後の停止図柄を当り態様とするか否か、即ち普通利益状態を発生させるか否かの抽選を行うもので、普通図柄表示手段 2 5が変動表示可能な状態となり且つ普通乱数記憶手段 5 3に 1 以上の普通乱数情報が記憶されていること（普通保留個数が 1 以上であること）を条件に、普通乱数記憶手段 5 3に記憶されている普通乱数情報の待ち行列からその先頭の当り判定乱数値を取り出し、その当り判定乱数値が予め定められた当り判定値と一致するか否かに応じて当り / はずれの判定を行うように構成されている。

【0035】

普通停止図柄選択手段 5 4 bは、普通図柄の変動後の停止図柄の種類を選択するものである。本実施形態では、当り態様とはずれ態様に対応するのは各 1 種類の図柄のみであるため、当り判定機能による当り / はずれの判定結果に基づいて、当り判定の場合には「」が、はずれ判定の場合には「×」が画一的に選択される。また、変動時間選択手段 5 4 cは普通図柄の変動時間を選択するものである。

【0036】

普通図柄表示制御手段 5 5は、普通図柄処理手段 5 4による普通図柄処理に基づいて普通図柄表示手段 2 5の表示制御を行うもので、普通図柄表示手段 2 5が変動表示可能な状態となり且つ普通乱数記憶手段 5 3に 1 個以上の普通乱数情報が記憶されていること（普通保留個数が 1 以上であること）を条件に普通図柄表示手段 2 5による普通図柄の変動を開始させ、変動時間選択手段 5 4 cで選択された変動時間が経過することに基づいて、普通停止図柄選択手段 5 4 bで選択された停止図柄で普通図柄の変動を停止させるようになっている。

【0037】

普通保留個数表示制御手段 5 6は、普通保留個数表示手段 2 7の表示制御を行うもので、普通図柄始動手段 1 8による遊技球の検出、及び普通図柄表示手段 2 5による普通図柄の変動に基づいて、普通保留個数表示手段 2 7により普通保留個数情報を表示させるようになっている。

【0038】

普通利益状態発生手段 5 7は、当り判定手段 5 4 aによる判定結果が当り判定となることに基づいて普通図柄表示手段 2 5の変動後の停止図柄が当り態様となった場合に、特別図柄始動手段 1 9を構成する下特別始動口 1 9 bの開閉手段 3 6を例えば複数種類の開閉パターンの何れかに従って開状態に変化させる普通利益状態を発生させるようになっている。

【0039】

特別乱数作成処理手段 6 1は、大当り / はずれの判定に用いる大当り判定乱数、特別図柄の変動後の停止図柄等の選択に用いる図柄判定乱数、変動パターンの選択に用いる変動パターン乱数、その他の所定の乱数を繰り返し発生する特別乱数作成処理を行うように構成されている。

【0040】

10

20

30

40

50

特別始動口チェック処理手段 6 2 は、特別図柄始動手段 1 9 への遊技球の入賞に基づく処理を行うもので、始動入賞手段 1 9 a , 1 9 b の何れかに遊技球が入賞することに基づいて、特別乱数作成処理手段 6 1 で作成された大当り判定乱数値、図柄判定乱数値等よりなる特別乱数情報を取得し、その特別乱数情報を予め定められた上限保留個数（例えば 4 個）を限度として特別乱数記憶手段 6 3 に記憶させるように構成されている。

【 0 0 4 1 】

また、特別始動口チェック処理手段 6 2 は先読み判定手段 6 2 a を備えている。この先読み判定手段 6 2 a は、始動入賞手段 1 9 a , 1 9 b に遊技球が入賞したときに取得する特別乱数情報について、図柄変動に供されるよりも前の所定のタイミング、例えば特別乱数情報の取得時に、その特別乱数情報について先読み判定処理を実行するようになってい 10
る。この先読み判定処理では、先読み禁止中でないことを条件に、大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致するか否かに応じて大当り / はずれの判定結果を出力する。この先読み判定結果は、始動入賞手段 1 9 a , 1 9 b の何れかに遊技球が入賞することに基づいて送信される保留加算コマンドにより演出制御基板 4 2 等に伝達される。なお本実施形態では、この先読み判定処理により、上述した大当り判定だけでなく、変動パターンの種類についても判定を行う。

【 0 0 4 2 】

特別図柄処理手段 6 4 は、特別図柄の変動表示に関する処理を行うもので、大当り判定手段 6 4 a 、大当り・はずれ選択手段 6 4 b 、変動パターン選択手段 6 4 c 等を備えている。大当り判定手段（抽選手段）6 4 a は、乱数抽選により大当り / はずれの判定、即ち 20
特別利益状態を発生させるか否かの判定（遊技者に利益を付与するか否かの抽選）を行うもので、特別図柄表示手段 2 6 が変動表示可能な状態となり且つ特別乱数記憶手段 6 3 に 1 以上の特別乱数情報が記憶されていること（特別保留個数が 1 以上であること）を条件に、特別乱数記憶手段 6 3 に記憶されている特別乱数情報の待ち行列からその先頭の大当り判定乱数値を取り出し、その大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致するか否かに応じて大当り / はずれの判定を行うように構成されている。

【 0 0 4 3 】

大当り・はずれ選択手段 6 4 b は、大当り / はずれの種類を選択するもので、大当り判定手段 6 4 a による判定結果がはずれの場合には、図 3（a）に示すはずれ変動パターン選択テーブルと図柄判定乱数値とに基づいてはずれの種類を選択し、大当り判定手段 6 4 30
a による判定結果が大当りの場合には、図 3（b）に示す大当り変動パターン選択テーブルと図柄判定乱数値とに基づいて大当りの種類を選択する。

【 0 0 4 4 】

はずれに関して、本実施形態では、はずれ A とはずれ B の 2 種類が設けられており、それらははずれ A , B の何れかが、図 3（a）に示すように図柄判定乱数値に基づいて 9 : 1 等の任意の振分率で選択されるようになっている。はずれ A は、図柄変動の開始時点の特別保留個数に応じて変動パターンの振り分けが異なるもので、図 3（a）に示すように、特別保留個数 0 ~ 3 の夫々について、変動パターン乱数値の範囲と複数種類のはずれ変動パターンとの対応関係が規定されている。一方のはずれ B は、図柄変動の開始時点の特別保留個数によって変動パターンの振り分けが変化しないもので、図 3（a）に示すように 40
、変動パターン乱数値の範囲と複数種類の変動パターンとの対応関係が 1 種類のみ規定されている。

【 0 0 4 5 】

また大当りに関して、本実施形態では、1 0 R 通常、5 R 通常、1 0 R 確変、5 R 確変の 4 種類が設けられており、それらの何れかが、図 3（b）に示すように図柄判定乱数値に基づいて 1 : 4 : 1 : 4 等の任意の振分率で選択されるようになっている。1 0 R 通常大当り、5 R 通常大当りは、後述する特別遊技状態として時短状態を発生させることとなる大当りで、特別利益状態では大入賞手段 2 0 による所定の単位開放動作を夫々 1 0 ラウンド、5 ラウンド行うようになっている。ここで、単位開放動作とは、例えば大入賞手段 2 0 を開放してから所定時間（例えば 2 8 秒）経過するか、それまでに所定個数（例えば 50

9 個) の遊技球が入賞することを条件に大入賞手段 20 を閉鎖する動作である。また、10 R 確変大当り、5 R 確変大当りは、後述する特別遊技状態として確変状態を発生させることとなる大当りで、特別利益状態では単位開放動作を夫々 10 ラウンド、5 ラウンド行うようになっている。

【0046】

変動パターン選択手段 64c は、演出図柄 P の変動パターンを複数の中から選択するので、例えば大当り判定手段 64a による判定結果がはずれであり、大当り・はずれ選択手段 64b によりはずれ A が選択された場合には、その時点の特別保留個数と、特別乱数記憶手段 63 に記憶されている特別乱数情報の待ち行列における先頭の変動パターン乱数値とに基づいて複数のはずれ変動パターンの何れかを選択し(図 3(a))、大当り判定手段 64a による判定結果がはずれであり、大当り・はずれ選択手段 64b によりはずれ B が選択された場合には、その時点の特別保留個数に拘わらず、特別乱数記憶手段 63 に記憶されている特別乱数情報の待ち行列における先頭の変動パターン乱数値に基づいて複数のはずれ変動パターンの何れかを選択し(図 3(a))、大当り判定手段 64a による判定結果が大当りの場合には、大当り・はずれ選択手段 64b により選択された大当りの種類と、特別乱数記憶手段 63 に記憶されている特別乱数情報の待ち行列における先頭の変動パターン乱数値とに基づいて複数の大当り変動パターンの何れかを選択する(図 3(b)) ようになっている。

【0047】

なお図 3 に示すように、リーチ変動パターンについてはリーチ演出の段階が進むにつれて大当り演出態様(特定態様)となる信頼度が高くなるように構成されているが、本実施形態では、Nリーチ変動パターンで大当り演出態様になることはなく、また Sリーチ変動パターンについては大当り演出態様になる可能性はあるが、その確率は極めて低くなっている(1%未満)。また、SPリーチ前演出で大当り演出態様になることはなく、SPリーチ変動パターンで大当り演出態様になる場合は必ず SPリーチ後演出に発展する。

【0048】

特別図柄表示制御手段 65 は、特別図柄表示手段 26 の表示制御を行うもので、特別図柄表示手段 26 が変動表示可能な状態となり且つ特別乱数記憶手段 63 に 1 以上の特別乱数情報が記憶されていること(特別保留個数が 1 以上であること)を条件に、特別図柄表示手段 26 による特別図柄の変動を開始させ、変動パターン選択手段 64c により選択された変動パターンに対応する変動時間が経過することに基づいて、例えば大当り判定手段 64a の判定結果がはずれの場合には所定のはずれ態様で、大当り判定手段 64a の判定結果が大当りの場合には大当り・はずれ選択手段 64b で選択された大当りの種類に応じた大当り態様で、特別図柄の変動を停止させるようになっている。

【0049】

第 1 特別保留個数表示制御手段 66 は、第 1 特別保留個数表示手段 28 の表示制御を行うもので、特別図柄始動手段 19 による遊技球の検出、及び特別図柄表示手段 26 による特別図柄の変動に基づいて、第 1 特別保留個数表示手段 28 により特別保留個数情報を表示させるようになっている。

【0050】

特別利益状態発生手段 67 は、大入賞手段 20 が所定の開放パターンに従って開放する特別利益状態を発生させるもので、大当り判定手段 64a による判定結果が大当りとなることに基づいて特別図柄表示手段 26 による特別図柄の変動後の停止図柄が大当り態様となった場合に、大当り・はずれ選択手段 64b により選択された大当りの種類に応じて、大入賞手段 20 による単位開放動作を例えば 5 ラウンド、10 ラウンドの何れかだけ繰り返し実行させるようになっている(図 3(b))。

【0051】

特別遊技状態発生手段 68 は、特別利益状態の発生後に遊技者に有利な特別遊技状態を発生させるためのもので、例えば大当り・はずれ選択手段 64b により選択された大当りの種類に応じて、例えば 10 R 通常、5 R 通常大当りの場合には時短状態を、10 R 確変

10

20

30

40

50

、5R 確変大当りの場合には確変状態を発生させるように構成されている。

【0052】

時短状態中は、例えば特別図柄に関して特別図柄表示手段26の変動時間が通常変動時間よりも短い短縮変動時間に切り換えられる他、普通図柄に関して、当り確率が通常確率（例えば1/10）から高確率（例えば1/1.3）へ、変動時間が通常変動時間（例えば2.7秒）から短縮変動時間（例えば2.7秒）へ、下特別始動口19bの開閉手段36の開閉パターンが通常開閉パターン（例えば0.2秒×1回開放）から特別開閉パターン（例えば2秒×3回開放）へ、夫々切り換えられるようになっている。なお、時短状態は特別利益状態が終了した時点で開始し、例えば特別図柄が所定回数（例えば50回）変動するか、それまでに次の特別利益状態が発生した時点で終了する。

10

【0053】

確変状態中は、例えば時短状態と同様の各切り換えに加えて、大当り判定値の数が増加することにより、特別図柄が大当り態様となる確率が通常確率（例えば1/319）よりも高い高確率（例えば1/60）に切り換えられるようになっている。なお、確変状態は特別利益状態が終了した時点で開始し、例えば次の特別利益状態が発生した時点で終了する。

【0054】

制御コマンド送信手段69は、所定の制御コマンドを演出制御基板42等に送信して制御指令を与えるためのもので、特別保留個数が増加したときに特別保留個数の加算を指定する保留加算コマンドを演出制御基板42側に送信する機能、特別図柄処理手段64による特別図柄処理に基づいて、特別図柄の変動開始時に、特別保留個数の減算を指定する保留減算コマンド、演出図柄Pの変動パターンを指定する変動パターンコマンド、特別図柄の停止図柄態様を指定する特別図柄コマンドをこの順序で演出制御基板42側に送信し、特別図柄の変動終了時に変動停止を指示する変動停止コマンドを演出制御基板42側に送信する機能等を備えている。

20

【0055】

演出制御基板（演出制御手段）42は、LED71、スピーカ72、可動演出手段30、画像表示手段22等の各種演出手段による演出を制御するもので、保留加算コマンド受信時処理手段81、変動パターンコマンド受信時処理手段82、遊技中演出制御手段83等を備えている。なお、LED71は、可動演出手段30の可動体31を含むセンターケース17の他、遊技盤5及び前枠4に多数配置され、スピーカ72は例えば前枠4の上部に2個、下部に1個配置されている（図1）。また、本実施形態では可動演出手段30を遊技盤5上にのみ配置しているが、可動演出手段は前枠4上に配置してもよいし、遊技盤5上と前枠4上との両方に配置してもよい。

30

【0056】

保留加算コマンド受信時処理手段81は、特別保留個数が増加した場合の処理を行うもので、先読み演出抽選手段81a等を備え、主制御基板41から保留加算コマンドを受信したときに、先読み禁止等の場合を除き、先読み演出抽選手段81aにより先読み演出に関する抽選を行い、その抽選結果等に応じて、保留表示画像Q1～を画像表示手段22の画面上に1個追加表示する保留変化演出シナリオをセットするようになっている。

40

【0057】

ここで「先読み演出」とは、先読み判定結果に基づく演出であって、「先読み連続演出」、「先読み保留変化演出」等がある。「先読み連続演出」は、先読み判定手段62aによる先読み判定結果に基づいて、その先読み判定の対象となった特別乱数情報に対応する図柄変動（ターゲット変動）までの複数回の図柄変動において例えば同一態様の演出を実行するものである。例えば、先読み連続演出として「雨」、「雷」の2種類の演出態様が用意されている場合には、先読み判定結果に基づく先読み演出抽選手段81aの抽選によりそれらの何れかに当選すると、その特別乱数情報に対応するターゲット変動までの複数回の演出図柄変動において例えば背景画像として「雨」又は「雷」の画像が使用される。これにより、遊技者は連続演出の背景画像として「雨」、「雷」の何れが出現するかによ

50

り、ターゲット変動で大当たりとなるか否か等を予測できる。

【 0 0 5 8 】

また「先読み保留変化演出」は、先読み判定手段 6 2 a による先読み判定結果に基づいて、保留表示画像 Q 1 ~ Q 4 , 変動中保留画像 Q 0 を所定の表示態様で表示するもので、保留変化演出シナリオはこの先読み保留変化演出の抽選結果に応じて選択される。例えば、先読み保留変化演出に関して「ゾウ」、「ライオン」、「キリン」等の複数種類の保留表示態様があり、先読み判定結果に基づく先読み演出抽選手段 8 1 a の抽選によりそれらの何れかに当選した場合、例えば新たに保留表示画像を追加表示するとき、或いはその後の所定のタイミングで、その保留表示画像を当選した所定の表示態様で表示する。これにより、遊技者は保留表示画像の表示態様が「ゾウ」、「ライオン」、「キリン」、或いはそれ以外の何れであるかに応じて、その保留表示画像に対応する変動で大当たりとなるか否か等を予測可能である。

10

【 0 0 5 9 】

なお、先読み演出による予告の対象は大当たりか否かに限られるものではなく、変動パターンの種類（例えば S P リーチまで発展するか否か）等でもよい。

【 0 0 6 0 】

変動パターンコマンド受信時処理手段 8 2 は、特別図柄表示手段 2 6 による図柄変動を開始する場合の処理を行うもので、図柄変動内容決定手段 8 2 a 等を備え、主制御基板 4 1 から保留減算コマンド、変動パターンコマンド及び特別図柄コマンドを例えば一定時間内に受信したときに、図柄変動内容決定手段 8 2 a が演出図柄 P の具体的な変動内容や予告演出に関する選択を行い、それらの結果等に応じて、変動パターンシナリオ、予告演出シナリオ、保留変化演出シナリオ等をセットするようになっている。なお、この場合の保留変化演出シナリオでは、例えば変動中保留画像 Q 0 を消去し、保留表示画像 Q 1 ~ を待ち行列の前側（例えば画面右側）に向けて 1 個分ずつシフトすると共に、押し出された先頭の保留表示画像 Q 1 を例えば所定位置まで移動させて新たな変動中保留画像 Q 0 に変化させる。

20

【 0 0 6 1 】

図柄変動内容決定手段 8 2 a は、主制御基板 4 1 から受信した変動パターンコマンド等に基づいて、変動パターンの具体的演出内容を決定する。例えば、変動パターンコマンドにより S P リーチ大当たり変動パターンが指定された場合には、最後の S P リーチ演出における結果表示を復活大当たりとするか通常大当たりとするか等について決定する。

30

【 0 0 6 2 】

また図柄変動内容決定手段 8 2 a は、一又は複数種類の予告演出について実行するか否かの抽選を行い、実行する場合には更にその予告演出内容等についての抽選を行う。ここで予告演出とは、大当たり態様、S P リーチ等の所定事象の出現を示唆する演出であって、いわゆる「S U 予告」、「タイマ予告」、「プレミア予告」、「疑似連演出」、「ボタン演出」等がそれにあたる。

【 0 0 6 3 】

なお、変動パターンシナリオ、予告演出シナリオ、保留変化演出シナリオ等の各種演出シナリオは、例えばそのシナリオの実行開始時からの経過時間（ms）毎の各行に、各種演出手段、即ち L E D 7 1、スピーカ 7 2、可動演出手段 3 0、画像表示手段 2 2 等による各演出内容が設定されている。この演出シナリオは、遊技中演出制御手段 8 3 により、各行に設定された演出を、行毎に設定されたタイミングで順次開始することによって実行される。

40

【 0 0 6 4 】

続いて、本実施形態における演出図柄 P の変動パターン、特にリーチ変動パターンによる演出内容について具体的に説明するが、その前に変動パターンの概要について説明する。図 4 に示すように、演出図柄 P の変動パターンでは、まず通常変動が行われる。この通常変動では、全て（3つ）の図柄列が並行して高速変動した後、第 1 番目（例えば左）と第 2 番目（例えば右）の図柄列が同じ図柄で停止（仮停止）してリーチ状態が成立するか

50

、リーチ状態を経ることなくはずれ演出態様で停止、確定する。前者がリーチ変動パターンで、後者が通常変動パターンである。本実施形態では、変動時間が異なる4種類の通常変動パターンが用意されている(図3(a))。

【0065】

リーチ変動パターンの場合(通常変動でリーチ状態が成立した場合)、通常変動後にNリーチ演出が行われる。Nリーチ演出では、任意の映像演出が実行された後、次のSリーチ演出に移行(発展)することを示す発展結果表示と、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)となることを示す大当たり結果表示と、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)とならないこと(はずれ演出態様となること)を示すはずれ結果表示との何れかの結果表示が行われる。本実施形態では、Nリーチ演出中の一分岐点において、それら複数種類の結果表示の何れかが実行される。なお図3より明らかなように、本実施形態のNリーチ演出では大当たり結果表示が行われることはなく(即ちNリーチ大当たり変動パターンは選択されない)、Nリーチ演出で終了する場合には必ずはずれ結果表示が行われ、はずれ演出態様となる(Nリーチはずれ変動パターン)。

10

【0066】

Nリーチ演出の最後に発展結果表示が行われた場合には、続いてSリーチ演出が行われる。このSリーチ演出でも、任意の映像演出が実行された後、次のSPリーチ演出に移行(発展)することを示す発展結果表示と、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)となることを示す大当たり結果表示と、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)とならないこと(はずれ演出態様となること)を示すはずれ結果表示との何れかの結果表示が行われる。本実施形態では、Sリーチ演出中の一分岐点において、それら複数種類の結果表示の何れかが実行される。なお図3より明らかなように、本実施形態のSリーチ演出では大当たり結果表示が行われる確率は0ではないが極めて低く(図3の例では、大当たり確率を1/319とすると、Sリーチ変動パターンにおける大当たり信頼度は約0.08%、Sリーチ変動パターンの出現率は約1.6%、Sリーチ変動パターンで大当たりとなる頻度は約1/80000)、Sリーチ演出で終了する場合には高い確率ではずれ結果表示が行われ、はずれ演出態様となる(Sリーチはずれ変動パターン)。なお、Sリーチ演出で大当たり結果表示が行われる確率(大当たり信頼度)は、好ましくは1%未満、より好ましくは0.5%未満、さらにより好ましくは0.2%未満で、0でもよい。

20

【0067】

Sリーチ演出の最後に発展結果表示が行われた場合には、続いてSPリーチ前演出が行われる。このSPリーチ前演出では、任意の映像演出が実行された後、次のSPリーチ後演出に移行(発展)することを示す発展結果表示と、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)とならないこと(はずれ演出態様となること)を示すはずれ結果表示との何れかの結果表示が行われる。本実施形態では、SPリーチ演出中の一分岐点において、それら複数種類の結果表示の何れかが実行される。なお図3より明らかなように、本実施形態のSPリーチ前演出では大当たり結果表示が行われることはなく(即ちSPリーチ前大当たり変動パターンは選択されない)、SPリーチ前演出で終了する場合には必ずはずれ結果表示が行われ、はずれ演出態様となる(SPリーチ前はずれ変動パターン)。

30

【0068】

SPリーチ前演出の最後に発展結果表示が行われた場合には、続いてSPリーチ後演出が行われる。このSPリーチ後演出では、任意の映像演出が実行された後、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)となることを示す大当たり結果表示と、演出図柄Pが大当たり演出態様(特定態様)とならないこと(はずれ演出態様となること)を示すはずれ結果表示との何れかの結果表示が行われる。本実施形態では、SPリーチ後演出の次のリーチ演出は存在しないため、このSPリーチ後演出で発展結果表示が行われることはない。

40

【0069】

続いて、本実施形態の複数種類のリーチ演出のうち、Sリーチ演出、SPリーチ前演出、SPリーチ後演出について具体的に説明する。まずSリーチ演出の具体例を、図5等に基づいて説明する。図5に示すように、Sリーチ演出の演出期間は、Sリーチ特有の映像

50

演出を実行するためのリーチ映像表示期間と、そのリーチ映像表示期間に続いて、発展結果表示、大当たり結果表示、はずれ結果表示の何れかを実行する結果表示期間とで構成されている。

【 0 0 7 0 】

また、結果表示期間の直前、即ちリーチ映像表示期間の終盤には、結果表示の出現を示唆する結果表示前演出が実行されるようになっている。この結果表示前演出は、結果表示に対する遊技者の期待感を盛り上げるための煽り期間と、その煽り期間から結果表示への移行時にいわゆるタメをつくるためのタメ期間（即ち待機期間）とで構成されている。

【 0 0 7 1 】

Sリーチ演出が開始されると（リーチ映像表示期間）、図5（a1）に示すように、画像表示手段22にはSリーチ映像が表示されるとともに、そのSリーチ映像と同期して任意の音声出力やLED発光演出が行われる。Sリーチ映像では、Sリーチ用の特別背景101aの前側に、縮小表示（退避表示）された「7 7」等のリーチ図柄画像Ps、キャラクタ等によるリーチ演出画像102a、その他の画像が表示されるようになっている。

【 0 0 7 2 】

その後、リーチ映像表示期間終盤の煽り期間に入ると（図5（a2））、それまでのリーチ演出画像102aが煽り演出画像103aに変化する。この煽り演出画像103aは、未だ変動中の第3番目（例えば中央）の図柄列が停止する前の最終段階の演出を行うものであり、図5（a2）～（a3）の例では、大当たり演出態様を構成することとなる（即ちリーチ図柄と同一の）第1停止図柄候補（ここでは「7」）を第1キャラクタが、はずれ演出態様を構成することとなる（即ちリーチ図柄とは異なる）第2停止図柄候補（ここでは「6」）を第2キャラクタが夫々ハンマーで繰り返し打撃し、どちらが先に停止図柄候補を破壊するかを競う内容となっている。

【 0 0 7 3 】

この煽り演出画像103aは、時間経過に伴って徐々に盛り上がるように、例えば各キャラクタによる打撃ピッチが少しずつ速くなると共に各停止図柄候補のダメージが少しずつ進行し、何れかの停止図柄候補が破壊される直前の状態（図5（a3））で煽り期間が終了するように構成されている。なお図5の例では、煽り期間の長さは3sに設定されている。煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像103aは静止状態となり（図5（a3））、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像103aの静止状態が維持される。

【 0 0 7 4 】

そして、タメ期間が終了すると、その一分岐点で、発展結果表示、大当たり結果表示、はずれ結果表示の何れかが、一時停止していた煽り演出画像103aから繋がる形で開始される（結果表示期間）。このように、大当たり／はずれ／発展の分岐を一点で行うことにより、大当たり／はずれの分岐後に発展有無の分岐を行う場合に比べて効率よく演出を行うことができる。特に、本実施形態のSリーチ演出では大当たり結果表示が行われる確率が極めて低いため（1%未満）、大当たり／はずれの煽りを独立して行っても演出効果は低く、発展有無を含めて煽ることで効率的な演出が可能となる。

【 0 0 7 5 】

大当たり結果表示では大当たり結果演出が行われる。この大当たり結果演出では、第2停止図柄候補である「6」が破壊されて消滅し（図5（c1））、残った第1停止図柄候補である「7」で中図柄が停止する（図5（c2））。なお図5の例では、大当たり結果演出の長さは7sに設定されている。

【 0 0 7 6 】

はずれ結果表示では、最初にはずれ結果演出が行われる。このはずれ結果演出では、第1停止図柄候補である「7」が破壊されて消滅し（図5（d1））、残った第2停止図柄候補である「6」で中図柄が停止する（図5（d2））。その後、特別背景101aから通常背景100へと復帰する背景復帰演出（図5（d3））を経て、「7・6・7」等のはずれ演出態様が表示される通常画面表示（図5（d4））へ移行する。なお図5の例で

10

20

30

40

50

は、はずれ結果表示を構成するはずれ結果演出、背景復帰演出、通常画面表示の長さは夫々3 s, 1 s, 2 sに設定されており、合計時間は大当り結果表示の7 sよりも短くなっている。

【0077】

また発展結果表示では発展演出が行われる。この発展演出では、第1, 第2停止図柄候補である「7」, 「6」の両方が同時に破壊されて消滅し(図5(b1))、その後にSPリーチへの発展を示す「発展」等の発展報知画像104aが表示される(図5(b2))。なお図5の例では、発展演出の長さは、大当り結果表示の7 s、はずれ結果表示の6 sよりも短い4 sに設定されているが、発展演出の長さははずれ結果表示と同じでもよいし長くてもよい。

10

【0078】

続いて、SPリーチ前演出の具体例を、図6等に基づいて説明する。図6に示すように、SPリーチ前演出の演出期間は、SPリーチ前特有の映像演出を実行するためのリーチ映像表示期間と、そのリーチ映像表示期間に続いて、発展結果表示、はずれ結果表示の何れか(大当り結果表示は対象外)を実行する結果表示期間とで構成されている。また、結果表示期間の直前、即ちリーチ映像表示期間の終盤には、結果表示の出現を示唆する結果表示前演出が実行されるようになっている。この結果表示前演出は、SPリーチ演出の場合(図5)と同様、煽り期間とタメ期間(即ち待機期間)とで構成されている。なお、このSPリーチ前演出は、大当り演出態様(特定態様)となることのない非当りリーチ演出の一例である。

20

【0079】

SPリーチ前演出が開始されると(リーチ映像表示期間)、図6(a1)に示すように、画像表示手段22にはSPリーチ前映像が表示されるとともに、そのSPリーチ前映像と同期して任意の音声出力やLED発光演出が行われる。SPリーチ前映像では、SPリーチ前用の特別背景101bの前側に、縮小表示(退避表示)された「7 7」等のリーチ図柄画像Ps、キャラクタ等によるリーチ演出画像102b、その他の画像が表示されるようになっている。

【0080】

その後、リーチ映像表示期間終盤の煽り期間に入ると(図6(a2))、それまでのリーチ演出画像102bが煽り演出画像103bに変化する。図6(a2)~(a3)の例では、煽り演出画像103bは、モンスター(敵)のキャラクタを大砲で攻撃する内容となっている。ところで、本実施形態のSPリーチ前演出(非当りリーチ演出)では、上述したように大当り結果表示が出現することはないため、この煽り期間の演出(結果表示前演出)は、遊技者に無用の期待感を抱かせないように、大当りを想起させない演出内容とすることが望ましい。そこで本実施形態では、「モンスターを倒せば発展」等、特定の結果表示が出現した場合は次のリーチ演出に移行する旨の説明表示105を、煽り演出画像103bと並行して表示するようになっている(図6(a2), (a3))。これにより、遊技者はモンスター(敵)が倒れても大当りと誤解することがなく、遊技者に有利な結果(発展)にも拘わらず無駄に失望感を抱かせることを防止できる。図6の例では、煽り期間の長さはSPリーチ演出(図5)と同じく3 sに設定されている。

30

40

【0081】

なお、説明表示105を、「モンスターを攻撃せよ」等の演出の説明と、「成功で発展」等の結果の説明とで構成し、それらを同時に、或いは交互に表示するように構成してもよい。

【0082】

煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像103bは静止状態となり(図6(a3))、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像103bの静止状態が維持される。このタメ期間中も説明表示105の表示は継続される。なお図6の例では、タメ期間の長さはSPリーチ演出(図5)と同じく1 sに設定されている。

【0083】

50

そして、タメ期間が終了して結果表示期間に入ると、発展結果表示、はずれ結果表示の何れかが、一時停止していた煽り演出画像 1 0 3 b から繋がる形で開始される。

【 0 0 8 4 】

はずれ結果表示では、最初にはずれ結果演出が行われる。このはずれ結果演出では、モンスターへの攻撃が失敗に終わり（図 6（c 1））、それに伴って中図柄がリーチ図柄（ここでは「7」）とは異なる「6」で停止する（図 6（c 2））。その後、特別背景 1 0 1 b から通常背景 1 0 0 へと復帰する背景復帰演出を経て、「7・6・7」等のはずれ演出態様が表示される通常画面表示へ移行する。なお図 6 の例では、はずれ結果演出の長さは 4 s で S リーチ演出の場合（図 5）の 3 s よりも長くなっているが、背景復帰演出、通常画面表示の長さは夫々 1 s , 2 s で S リーチ演出の場合と同じである。

10

【 0 0 8 5 】

また発展結果表示では発展演出が行われる。この発展演出では、攻撃が成功してモンスターが倒れ（図 6（b 1））、その後に S P リーチ後演出への発展を示す「発展」等の発展報知画像 1 0 4 b が表示される（図 6（b 2））。なお図 6 の例では、発展演出の長さは S リーチ演出の場合と同じ 4 s に設定されているが、S P リーチ前演出における発展演出の長さを S リーチ演出における発展演出の長さより長くしてもよい。また、発展演出の長さをはずれ結果表示と同じにしてもよいし長くしてもよい。

【 0 0 8 6 】

また発展結果表示として、図 6 に示すような発展演出（通常発展演出）の他に、はずれ結果表示の後または途中で復活演出を経て発展報知画像を表示する復活発展演出を実行可能としてもよい。この復活発展演出の場合、復活演出の実行タイミングは、はずれ結果表示における背景復帰演出の前でも後でもよいが、背景復帰演出の前とすることが望ましい。

20

【 0 0 8 7 】

続いて、S P リーチ後演出（特定リーチ演出）の具体例を、図 7 , 図 8 等に基づいて説明する。なお、図 7 ははずれ結果表示を実行する場合を、図 8 は大当たり結果表示を実行する場合を夫々示している。図 7 , 図 8 に示すように、S P リーチ後演出の演出期間は、S P リーチ後特有の映像演出を実行するためのリーチ映像表示期間と、そのリーチ映像表示期間に続いて、大当たり結果表示（図 8）、はずれ結果表示（図 7）の何れか（発展結果表示は対象外）を実行するための結果表示期間とで構成されている。

30

【 0 0 8 8 】

また、結果表示期間の直前、即ちリーチ映像表示期間の終盤には、結果表示の出現を示唆する結果表示前演出が行われる。この S P リーチ後演出における結果表示前演出は、いわゆるボタン演出で、演出ボタン 1 4 の操作が有効となる操作有効期間が到来することを示唆する操作有効期間示唆演出を備え、その操作有効期間示唆演出の終了後に操作有効期間が開始されるようになっている。

【 0 0 8 9 】

S P リーチ後演出が開始されると（リーチ映像表示期間）、図 7（a 1）に示すように、画像表示手段 2 2 には S P リーチ後映像が表示されるとともに、その S P リーチ後映像と同期して任意の音声出力や L E D 発光演出が行われる。S P リーチ後映像では、S P リーチ後用の特別背景 1 0 1 c の前側に、縮小表示（退避表示）された「7 7」等のリーチ図柄画像 P s、キャラクタ等によるリーチ演出画像 1 0 2 c、その他の画像が表示されるようになっている。

40

【 0 0 9 0 】

その後、リーチ映像表示期間終盤には操作有効示唆演出が開始される。この操作有効示唆演出では、操作有効期間中の操作対象である演出ボタン 1 4 を示す操作対象画像 1 0 6 を画面上にフェードイン（操作対象画像を形成）させるように構成されている。この操作対象画像 1 0 6 のフェードインは、図 7（a 2）～（a 4）の例では、操作対象画像 1 0 6 が遠くから回転しながら近付いてくるような演出内容となっている。なお、操作有効示唆演出中の操作対象画像 1 0 6 の表示態様は任意であるが、遊技者が操作有効期間中であ

50

ると誤解しないよう、少なくとも操作有効期間中の表示態様とは異ならせる必要がある。
なお、操作対象画像 106 のフェードインは、例えば操作有効示唆演出の終了時、即ち操作有効期間の開始時に完了する（図 7（a4））。このように、操作対象画像が画面上に形成（表示）され始めてから形成されるまでの演出が操作有効示唆演出であり、その間の操作対象画像が操作有効示唆画像となる。

【0091】

また本実施形態では、操作有効期間の開始時、即ち操作対象画像 106 のフェードイン（操作対象画像の形成）の完了と略同時に、操作態様を報知するための「PUSH!」の文字と矢印画像等よりなる操作態様報知画像 107 と、操作有効期間の進行状況を報知するための進行状況報知画像 108 とが新たに表示される（図 7（a4））。進行状況報知画像 108 は、帯状のゲージの長さが操作有効期間の時間経過に従って 100% から 0% まで縮小するように構成されている（図 7（a5））。なお図 7 の例では、操作有効期間の開始から満了までの操作有効時間が 3 s に、その前の操作有効示唆演出の演出時間が操作有効時間よりも長い 4 s に夫々設定されている。

【0092】

この操作有効期間中に遊技者が演出ボタン 14 を押下操作することによって演出実行条件が成立すると、その時点で操作有効期間が終了するとともに結果表示（はずれ結果表示と大当たり結果表示の何れか）が開始される。このように、結果表示の開始タイミングは遊技者操作に依存して変化する一方、変動時間は既に決められているため、遊技者の操作タイミング（即ち結果表示の開始タイミング）の変化分を吸収するための時間調整（後述する）を結果表示中に行う必要がある。ここで、その時間調整に要する時間が長いと演出に違和感が生じるため、その意味では操作有効時間は短い方が望ましいが、操作有効期間が短くなると遊技者が操作機会を逃してしまう可能性が高まる。そこで本実施形態では、時間調整による演出の違和感を抑制すべく操作有効時間をなるべく短く（ここでは 3 s）するとともに、それによる遊技者の操作機会の逸失を防止すべく、操作有効時間（3 s）よりも長い操作有効示唆演出（ここでは 4 s）を操作有効期間の直前に実行するようになっている。

【0093】

なお、演出ボタン 14 に関する演出実行条件としては、演出ボタン 14 が一回操作された場合に成立する一撃実行条件、演出ボタン 14 が複数回連続的に操作されることによって成立する連打実行条件、演出ボタン 14 が操作された状態が継続することによって成立する長押し実行条件等が考えられるが、本実施形態では一撃実行条件を採用している。

【0094】

図 7（A1）、（A2）は、何れもはずれ結果表示のタイムチャートであるが、図 7（A1）が最も開始タイミングが早い場合、即ち操作有効期間の開始と略同時に演出ボタン 14 が操作された場合を、図 7（A2）が最も開始タイミングが遅い場合、即ち操作有効期間の満了と略同時に演出ボタン 14 が操作された場合を夫々示している。なお、操作有効期間中に演出ボタン 14 が操作されなかった場合（操作条件が成立しなかった場合）は、操作有効期間の満了時に、演出ボタン 14 が操作された場合と同一の、又は異なるはずれ結果表示を開始するように構成してもよい。

【0095】

図 7（A1）、（A2）に示すように、はずれ結果表示では、最初にはずれ結果演出が行われる。このはずれ結果演出では、中図柄がリーチ図柄（ここでは「7」）とは異なる「6」で停止した後（図 7（b1））、演出ボタン 14 の操作タイミング、即ちはずれ結果表示の開始タイミングに応じた長さのループ待機演出を実行する（図 7（b2））。このループ待機演出により、結果表示の開始時期が変化しても結果表示の終了時期を変化させないための時間調整が行われる。

【0096】

図 7（A1）に示すように、操作有効期間の開始と略同時（最早）にボタン操作が行われた場合にループ待機演出の時間は最長（ここでは 3 s）となり、図 7（A2）に示すよ

10

20

30

40

50

うに、操作有効期間の満了と略同時（最遅）にボタン操作が行われた場合にループ待機演出の時間は最短（ここでは0）となる。このように、本実施形態のはずれ結果表示では、時間調整のためのループ待機演出を、はずれ結果演出を実行した後、通常画面表示に切り替える前（ここでは背景復帰演出の前）に行うようになっている。これにより、ループ待機演出の時間が長くなっても、はずれ結果表示の終盤（背景復帰演出、通常画面表示）から次変動にかけてのテンポを損なうことがなく、時間調整による違和感を抑制することが可能となる。

【0097】

なお、ループ待機演出は、画像表示手段22上では、例えばその前の映像から繋がるループ待機用の映像データを繰り返し再生するように構成されている。また、LED71による発光演出については、演出ボタン14が操作されたタイミングで、はずれに対応する発光態様で発光させ（1回再生用の発光パターンデータを使用）、その後はループ待機演出の終了まで所定の発光態様を繰り返す（ループ再生用の発光パターンデータを使用）ようになっている。またスピーカ72からの音声出力については、演出ボタン14が操作されたタイミングで、はずれに対応する効果音を出力し（1回再生用の効果音データを使用）、その後はループ待機演出の終了まで無音とするか、所定の効果音の出力を繰り返す（ループ再生用の効果音データを使用）ようになっている。このループ待機演出は、主制御基板41から変動停止コマンドを受信するまで繰り返される。

10

【0098】

その後、特別背景101cから通常背景100へと復帰する背景復帰演出を経て、「7・6・7」等のはずれ演出態様が表示される通常画面表示へ移行する。なお図7の例では、はずれ結果演出の最短長さは5sで、Sリーチ演出の場合（3s）、SPリーチ前演出の場合（4s）よりも長くなっているが、背景復帰演出、通常画面表示の長さは夫々1s、2sでSリーチ演出、SPリーチ前演出の場合と同じである。

20

【0099】

また図7の例では、操作有効時間（ここでは3s）は、はずれ結果演出の演出時間（ここでは最短5s）よりも短くなっている。これにより、時間調整のためのループ待機演出の演出時間がはずれ結果演出の演出時間に占める割合を1/2未満とすることができ、時間調整による違和感を抑制することが可能となる。

【0100】

以上のように本実施形態では、リーチはずれ演出パターンにおいては、最後のリーチ演出が弱リーチ演出（例えばSリーチ演出）の場合（図5）とそれよりも後段階に出現可能な（即ち弱リーチ演出よりも大当たりとなる期待度が高い）強リーチ演出（例えばSPリーチ後演出）の場合（図7）とを比較すると、弱リーチ演出の場合よりも強リーチ演出の場合の方が結果表示の時間が長くなるように設定されている。これにより、大当たり信頼度が低く遊技者の期待が小さいリーチ変動パターンの場合には結果表示の時間を短くしてテンポを上げ、大当たり信頼度が高く遊技者の期待が大きいリーチ変動パターンの場合には結果表示の時間を長くして演出効果を高めることが可能である。

30

【0101】

また本実施形態では、弱リーチ演出（例えばSリーチ演出）の場合よりも強リーチ演出（例えばSPリーチ後演出）の場合の方がはずれ結果演出の時間は長くなっているが、背景復帰演出と通常画面表示の時間は同じである。なお、弱リーチ演出の場合よりも強リーチ演出の場合の方が結果表示の時間が長くなるように設定する場合、背景復帰演出と通常画面表示のうちの一方を弱リーチ演出の場合と強リーチ演出の場合とで同じにし、背景復帰演出と通常画面表示のうちの他方とはずれ結果演出とを弱リーチ演出の場合と強リーチ演出の場合とで異ならせてもよい。

40

【0102】

また図8（A1）、（A2）、（B1）、（B2）は、何れも大当たり結果表示のタイムチャートであるが、図8（A1）、（A2）は通常大当たり結果表示を、図8（B1）、（B2）は復活大当たり結果表示を夫々示している。ここで、復活大当たり結果表示（図8（B

50

1) , (B 2)) は、はずれ結果演出を実行した後、可動体の動作を伴う復活大当り可動体演出に続いて復活大当り結果演出を実行するように構成されているのに対し、通常大当り結果表示 (図 8 (A 1) , (A 2)) は、はずれ結果演出を実行することなく、可動体の動作を伴う通常大当り可動体演出に続いて通常大当り結果演出を実行するように構成されている。

【 0 1 0 3 】

なお、図 8 (A 1) , (A 2) に示す通常大当り結果表示と、図 8 (B 1) , (B 2) に示す復活大当り結果表示の何れを実行するかについては、主制御基板 4 1 側から特定の変動パターン (例えば S P リーチ 1 大当り変動パターン) に対応する変動パターンコマンドを受信したときに、演出制御基板 4 2 側の図柄変動内容決定手段 8 2 a (図 2) で決定される。従って、通常大当り結果表示の場合と復活大当り結果表示の場合とで変動時間は同一であり、従って通常大当り結果表示と復活大当り結果表示の演出時間、各結果表示の終了タイミングも同一である。即ち、通常大当り結果表示と復活大当り結果表示とで、当落分岐のタイミング (演出ボタン 1 4 が操作されて結果表示が開始されるタイミング) から図柄が確定停止するまでの時間が同一である。

【 0 1 0 4 】

また、通常大当り結果表示を示す図 8 (A 1) , (A 2) のうち、図 8 (A 1) が最も開始タイミングが早い場合、即ち操作有効期間の開始と略同時に演出ボタン 1 4 が操作された場合を、図 8 (A 2) が最も開始タイミングが遅い場合、即ち操作有効期間の満了と略同時に演出ボタン 1 4 が操作された場合を夫々示している。同様に、復活大当り結果表示を示す図 8 (B 1) , (B 2) のうち、図 8 (B 1) が最も開始タイミングが早い場合、即ち操作有効期間の開始と略同時に演出ボタン 1 4 が操作された場合を、図 8 (B 2) が最も開始タイミングが遅い場合、即ち操作有効期間の満了と略同時に演出ボタン 1 4 が操作された場合を夫々示している。なお、操作有効期間中に演出ボタン 1 4 が操作されなかった場合 (操作条件が成立しなかった場合) は、操作有効期間の満了時に、演出ボタン 1 4 が操作された場合と同一の、又は異なる大当り結果表示を開始するように構成してもよい。

【 0 1 0 5 】

図 8 (A 1) , (A 2) に示すように、通常大当り結果表示では、最初に通常大当り可動体演出が行われる。この通常大当り可動体演出では、図 8 (b 1) ~ (b 3) に示すように、可動体 3 1 が所定の通常大当り動作パターンで動作し、画像表示手段 2 2 上ではその可動体 3 1 の動作に対応する任意の画像演出が行われるとともに中図柄がリーチ図柄 (ここでは「 7 」) と同じ図柄で停止し、また L E D 7 1 は所定の通常大当り発光パターンで発光するようになっている。図 8 の例では、通常大当り動作パターンは、可動体 3 1 が原点位置 (上部位置) から画像表示手段 2 2 の前側の下部位置まで高速降下し (図 8 (b 1)) 、所定時間停止した後低速で原点位置に復帰する (図 8 (b 2) , (b 3)) ように構成されている。

【 0 1 0 6 】

また、通常大当り発光パターンは、いわゆるレインボー発光パターンで、図 9 (a) に示すように、可動体 3 1 の発光部、即ち「 カッパ伝説 」の文字が、所定方向 (例えば左右方向) に流れる虹色で発光するようになっている。このレインボー発光パターンは、所定周期で循環するように構成されており、通常大当り可動体演出が開始されてから終了するまでの 5 s の間に 1 周期分の発光データが所定回数繰り返し実行される。なお、可動体 3 1 の L E D だけでなく、それ以外の遊技盤 5 側、前枠 4 側の L E D についても同様のレインボー発光パターンで発光させてもよい。また、演出ボタン 1 4 が操作されたタイミング、即ち通常大当り可動体演出の開始時に、通常大当りに対応する発光態様 (例えばレインボー点滅) で発光させた後、レインボー発光パターンによる発光を繰り返し行うようにしてもよい。

【 0 1 0 7 】

通常大当り可動体演出の終了後は通常大当り結果演出が行われる。この通常大当り結果

10

20

30

40

50

演出では、大当りを祝福する祝福演出（図 8（b 4））を行った後、演出ボタン 1 4 の操作タイミング、即ち通常大当り結果表示の開始タイミングに応じた長さのループ待機演出を実行する（図 8（b 5））。このループ待機演出により、結果表示の開始時期が変化しても結果表示の終了時期を変化させないための時間調整が行われる。

【0108】

図 8（A 1）に示すように、操作有効期間の開始と略同時（最早）にボタン操作が行われた場合にループ待機演出の時間は最長（ここでは 3 s）となり、図 8（A 2）に示すように、操作有効期間の満了と略同時（最遅）にボタン操作が行われた場合にループ待機演出の時間は最短（ここでは 0）となる。このように、本実施形態の通常大当り結果表示では、時間調整のためのループ待機演出を、通常可動体演出の後に行われる大当り結果演出の終盤、即ち大当り確定前に行うようになっている。これにより、ボタン操作のタイミングを起点に、大当りとなることを報知する可動体演出と、大当りとなることを祝福する結果演出とが連続的に実行され、その一連の流れはループ待機演出の影響を受けないため、演出の爽快感を損なうことなく、時間調整による違和感を抑制することが可能となる。

10

【0109】

なお、ループ待機演出は、画像表示手段 2 2 上では、例えばその前の映像から繋がるループ待機用の映像データを繰り返し再生するように構成されている。また、LED 7 1 による発光演出については、演出ボタン 1 4 が操作されたタイミングで、通常大当りに対応する発光態様（例えばレインボー点滅）で発光させ（1 回再生用の発光パターンデータを使用）、その後はループ待機演出の終了まで所定の発光態様（レインボー発光パターン）を繰り返す（ループ再生用の発光パターンデータを使用）ようになっている。またスピーカ 7 2 からの音声出力については、演出ボタン 1 4 が操作されたタイミングで、通常大当りに対応する効果音を出力し（1 回再生用の効果音データを使用）、その後はループ待機演出の終了まで無音とするか、所定の効果音の出力を繰り返す（ループ再生用の効果音データを使用）ようになっている。このループ待機演出は、主制御基板 4 1 から変動停止コマンドを受信するまで繰り返される。

20

【0110】

また図 8 の例では、通常大当り結果表示における通常大当り可動体演出の長さは 5 s、通常大当り結果演出の最短長さは 8 s に夫々設定されている。

【0111】

30

また図 8（B 1）、（B 2）に示すように、復活大当り結果表示では、まず図 7（A 1）、（A 2）に示すはずれ結果表示と同様の演出が行われる。即ち、最初にはずれ結果演出（図 8（c 1）、（c 2））が行われた後、特別背景 1 0 1 b から通常背景 1 0 0 へと復帰する背景復帰演出（図 8（c 3））を経て、「7・6・7」等のはずれ演出態様が表示される通常画面表示（図 8（c 4））へ移行する。はずれ結果演出では、中図柄がリーチ図柄（ここでは「7」）とは異なる「6」で停止した後（図 8（c 1））、演出ボタン 1 4 の操作タイミング、即ちはずれ結果表示の開始タイミングに応じた長さのループ待機演出を実行する（図 8（c 2））。このループ待機演出により、結果表示の開始時期が変化しても結果表示の終了時期を変化させないための時間調整が行われる。

【0112】

40

図 8（B 1）に示すように、操作有効期間の開始と略同時（最早）にボタン操作が行われた場合にループ待機演出の時間は最長（ここでは 3 s）となり、図 8（B 2）に示すように、操作有効期間の満了と略同時（最遅）にボタン操作が行われた場合にループ待機演出の時間は最短（ここでは 0）となる。

【0113】

なお、ループ待機演出は、画像表示手段 2 2 上では、例えばその前の映像から繋がるループ待機用の映像データを繰り返し再生するように構成されている。また、LED 7 1 による発光演出については、演出ボタン 1 4 が操作されたタイミングで、はずれに対応する発光態様で発光させ（1 回再生用の発光パターンデータを使用）、その後はループ待機演出の終了まで所定の発光態様を繰り返す（ループ再生用の発光パターンデータを使用）よ

50

うになっている。またスピーカ 7 2 からの音声出力については、演出ボタン 1 4 が操作されたタイミングで、はずれに対応する効果音を出力し（1 回再生用の効果音データを使用）、その後はループ待機演出の終了まで無音とするか、所定の効果音の出力を繰り返す（ループ再生用の効果音データを使用）ようになっている。このループ待機演出は、主制御基板 4 1 から変動停止コマンドを受信するまで繰り返される。

【 0 1 1 4 】

また図 8 の例では、復活大当り結果表示におけるはずれ結果演出の最短長さは 5 s、背景復帰演出、通常画面表示の長さは夫々 1 s、2 s で、何れもはずれ結果表示（図 7（A 1）、（A 2））の場合と同じである。

【 0 1 1 5 】

通常画面表示の次には復活大当り可動体演出が行われる。この復活大当り可動体演出では、図 8（c 5）～（c 7）に示すように、可動体 3 1 が所定の復活大当り動作パターンで動作し、画像表示手段 2 2 ではその可動体の動作に対応する任意の画像演出が行われるとともに、リーチ図柄とは異なる「6」で一旦停止していた中図柄がリーチ図柄（ここでは「7」）と同じ図柄に変化し、また L E D 7 1 は所定の復活大当り発光パターンで発光するようになっている。なお、この復活大当り可動体演出の演出時間（3 s）は通常大当り可動体演出の演出時間（5 s）よりも短くなっている。

【 0 1 1 6 】

図 8 の例では、復活大当り動作パターンは、可動体 3 1 が原点位置（上部位置）から画像表示手段 2 2 の前側の下部位置まで高速降下し（図 8（c 5））、所定時間停止した後 20 に低速で原点位置に復帰する（図 8（c 6）、（c 7））ように構成されている。このように、復活大当り動作パターンは、通常大当り動作パターン（図 8（b 1）～（b 3））と可動体 3 1 の動作内容は略同じで、演出時間が異なっている。この演出時間の相違分は、例えば下部位置での停止時間や移動速度（例えば原点位置への復帰速度）を異ならせることで調整されている。

【 0 1 1 7 】

また、復活大当り可動体演出の際に画像表示手段 2 2 に表示される演出画像の内容は、通常大当り可動体演出の際に画像表示手段 2 2 に表示される演出画像の内容とは異なっている。その復活大当り可動体演出と通常大当り可動体演出における演出画像の内容の相違は、演出時間の相違による可動体 3 1 の動作の相違（下部位置での停止時間や移動速度の相違）のみに基づくものであってもよいし、異なるキャラクタが登場するなど、可動体 3 1 の動作の相違を超えたものであってもよい。

【 0 1 1 8 】

また、復活大当り発光パターンは、いわゆるレインボー発光パターンで、図 9（b）に示すように、可動体 3 1 の発光部、即ち「カップ伝説」の文字が、所定方向（例えば左右方向）に流れる虹色で発光するようになっている。図 9（b）に示す復活大当り発光パターンと図 9（a）に示す通常大当り発光パターンは、共通の発光パターンデータを使用して同じ周期で実行されるようになっており、両者が異なるのは演出時間の長短に基づく繰り返し数のみである。なお、可動体 3 1 上の L E D だけでなく、それ以外の遊技盤 5 上、前枠 4 上の L E D についても同様のレインボー発光パターンで発光させてもよい。

【 0 1 1 9 】

このように、通常大当り可動体演出と復活大当り可動体演出で同じ可動体 3 1 を用いて異なる演出を行うことにより、コストを削減しつつ演出効果を高めることが可能である。

【 0 1 2 0 】

復活大当り可動体演出の終了後には、大当りを祝福する内容の復活大当り結果演出（図 8（c 8））が行われる。図 8 の例では、この復活大当り可動体演出の演出時間は 2 s で、通常大当り可動体演出の演出時間（最短 8 s）よりも短くなっている。

【 0 1 2 1 】

なお以上説明したように、本実施形態の復活大当り結果表示では、時間調整のためのループ待機演出を、はずれ結果演出を実行した後、通常画面表示に切り替える前（ここでは

10

20

30

40

50

背景復帰演出の前)に行うことで、時間調整を終えた後に復活大当り結果演出を実行するようになっている。これにより、ループ待機演出の時間が長くなっても、ボタン操作からはずれ結果演出への繋がりが損なわれず、また大当りとなることを報知する可動体演出から大当りとなることを祝福する結果演出への一連の流れは影響を受けないため、演出の爽快感を損なうことなく、時間調整による違和感を抑制することが可能となる。

【0122】

また本実施形態のSPリーチ後演出では、通常大当り結果表示と復活大当り結果表示の終了タイミングは同一であり、遊技者によるボタン操作のタイミングを同一とすると両者は演出時間も同一である。

【0123】

図10は本発明の第2の実施形態を例示し、第1の実施形態を一部変更して、非当りリーチ演出の一例であるSPリーチ前演出の結果表示前演出において、最終停止図柄としてリーチ図柄及びその直前直後の図柄以外の図柄を用いた煽り演出を実行することにより、図柄が大当り演出態様(特定態様)となることを想起させない演出を実行するように構成した例を示している。

【0124】

図10は、第1の実施形態の図6に対応するものである。本実施形態のSPリーチ前演出では、リーチ映像表示期間終盤の煽り期間に入ると(図10(a1)(a2))、それまでのリーチ演出画像102dが煽り演出画像103dに変化する。煽り演出画像103dは、未だ変動中の第3番目(例えば中央)の図柄列が停止する前の最終段階の演出を行うものであり、図10(a2)~(a3)の例では、リーチ図柄(ここでは「7」との差が-2の第1停止図柄候補(ここでは「5」)を第1キャラクタが、リーチ図柄(ここでは「7」との差が-3の第2停止図柄候補(ここでは「4」)を第2キャラクタが夫々ハンマーで繰り返し打撃し、どちらが先に停止図柄候補を破壊するかを競う内容となっている。

【0125】

このように、本実施形態のSPリーチ前演出における結果表示前演出では、最終停止図柄としてリーチ図柄(ここでは「7」)及びその直前直後の図柄(ここでは「6」、「8」)以外の図柄を用いた煽り演出を実行するようになっている。

【0126】

煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像103dは静止状態となり(図10(a3))、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像103dの静止状態が維持される。そして、タメ期間が終了して結果表示期間に入ると、発展結果表示、はずれ結果表示の何れかが、一時停止していた煽り演出画像103dから繋がる形で開始される。

【0127】

はずれ結果表示では、最初にはずれ結果演出が行われる。このはずれ結果演出では、第1停止図柄候補である「5」が破壊され(図10(c1))、残った第2停止図柄候補である「4」で中図柄が停止する(図10(c2))。その後、背景復帰演出(図10(c3))を経て通常画面表示(図10(c4))へ移行する。また発展結果表示では発展演出が行われる。この発展演出では、第2停止図柄候補である「4」が破壊され(図10(b1))、その後にSPリーチ後への発展を示す「発展」等の発展報知画像104dが表示される(図10(b2))。

【0128】

このように、本実施形態のSPリーチ前演出における結果表示前演出では、最終停止図柄としてリーチ図柄及びその直前直後の図柄以外の図柄を用いた煽り演出を実行するため、その煽り演出の結果がどちらになっても遊技者が大当りと誤解することがなく、遊技者に無駄に失望感を抱かせることを防止できる。

【0129】

なお本実施形態においても、第1の実施形態と同様、「4を破壊すれば発展」等、特定の結果表示が出現した場合は次のリーチ演出に移行する旨の説明表示を、煽り演出画像1

10

20

30

40

50

03dと並行して実行してもよい。

【0130】

図11は本発明の第3の実施形態を例示し、第1の実施形態を一部変更して、非当りリーチ演出の一例であるSPリーチ前演出の結果表示前演出において、成功（勝ち）と失敗（負け）を含む複数種類の演出結果のうち、成功（勝ち）の演出結果を使用しないことにより、図柄が大当り演出態様（特定態様）となることを想起させない演出を実行するように構成した例を示している。

【0131】

図11は、第1の実施形態の図6に対応するものである。本実施形態のSPリーチ前演出では、リーチ映像表示期間終盤の煽り期間に入ると（図11（a1）（a2））、それまでのリーチ演出画像102eが煽り演出画像103eに変化する。図11（a2）～（a3）の例では、煽り演出画像103eは、モンスター（敵）に倒されたカップ（味方）が再び立ち上がろうとする内容となっている。

【0132】

煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像103eは静止状態となり（図11（a3））、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像103eの静止状態が維持される。そして、タメ期間が終了して結果表示期間に入ると、発展結果表示、はずれ結果表示の何れかが、一時停止していた煽り演出画像103eから繋がる形で開始される。

【0133】

はずれ結果表示では、最初にはずれ結果演出が行われる。このはずれ結果演出では、倒れたカップは立ち上がることができず負け（失敗）となり（図11（c1））、それに伴って中図柄がリーチ図柄（ここでは「7」）とは異なる「6」で停止する（図11（c2））。その後、背景復帰演出（図11（c3））を経て通常画面表示（図11（c4））へ移行する。

【0134】

また発展結果表示では発展演出が行われる。この発展演出では、カップが再び立ち上がり（図11（b1））、その後にSPリーチ後への発展を示す「発展」等の発展報知画像104eが表示される（図11（b2））。このように、本実施形態の発展演出では、カップが立ち上がっただけでモンスターとの勝負に勝ったわけではないから、遊技者がこれを見て大当りと誤解することはなく、遊技者に無駄に失望感を抱かせることを防止できる。

【0135】

なお本実施形態においても、第1の実施形態と同様、「立ち上がることができれば発展」等、特定の結果表示が出現した場合は次のリーチ演出に移行する旨の説明表示を、煽り演出画像103eと並行して実行してもよい。

【0136】

図12は本発明の第4の実施形態を例示し、第1の実施形態を一部変更して、非当りリーチ演出の一例であるSPリーチ前演出の結果表示では、他のリーチ演出における大当り結果表示で行われる特定発光パターン（レインボー発光パターン）以外の発光パターンでLEDを発光させることにより、図柄が大当り演出態様（特定態様）となることを想起させない演出を実行するように構成した例を示している。

【0137】

図12は、第1の実施形態の図6に対応するものである。本実施形態のSPリーチ前演出では、リーチ映像表示期間終盤の煽り期間に入ると（図12（a1）（a2））、それまでのリーチ演出画像102fが煽り演出画像103fに変化する。図12（a2）～（a3）の例では、煽り演出画像103fは、モンスター（敵）のキャラクタを大砲で攻撃する内容となっている。なお本実施形態では、「モンスターを倒せば発展」等、特定の結果表示が出現した場合は次のリーチ演出に移行する旨の説明表示を煽り演出画像103fと並行して実行するようにはなっていないが、第1の実施形態と同様にそのような説明表示を表示するようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【 0 1 3 8 】

煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像 1 0 3 f は静止状態となり（図 1 2（a 3））、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像 1 0 3 f の静止状態が維持される。そして、タメ期間が終了して結果表示期間に入ると、発展結果表示、はずれ結果表示の何れかが、一時停止していた煽り演出画像 1 0 3 f から繋がる形で開始される。

【 0 1 3 9 】

はずれ結果表示では、最初にはずれ結果演出が行われる。このはずれ結果演出では、モンスターへの攻撃が失敗に終わり（図 1 2（c 1））、それに伴って中図柄がリーチ図柄（ここでは「7」）とは異なる「6」で停止する（図 1 2（c 2））。その後、背景復帰演出（図 1 2（c 3））を経て通常画面表示（図 1 2（c 4））へ移行する。

10

【 0 1 4 0 】

また発展結果表示では発展演出が行われる。この発展演出では、発展可動体演出（図 1 2（b 1）～（b 3））が行われる。この発展可動体演出では、可動体 3 1 が所定の発展動作パターンで動作し、画像表示手段 2 2 ではその可動体 3 1 の動作に対応する任意の画像演出（ここでは攻撃が成功してモンスターが倒れる内容）が行われるとともに S P リーチ後演出への発展を示す「発展」等の発展報知画像 1 0 4 f が表示され、また可動体 3 1 の L E D 7 1 は所定の発展発光パターンで発光するようになっている。

【 0 1 4 1 】

図 1 2 の例では、発展動作パターンは、可動体 3 1 が原点位置（上部位置）から画像表示手段 2 2 の前側の下部位置まで高速降下し（図 1 2（b 1））、所定時間停止した後に低速で原点位置に復帰する（図 1 2（b 2）、（b 3））ように構成されている。このように、発展動作パターンは、通常大当たり動作パターン（図 8（b 1）～（b 3））と可動体 3 1 の動作内容は略同じで、演出時間が異なっている。この演出時間の相違分は、例えば下部位置での停止時間や移動速度（例えば原点位置への復帰速度）を異ならせることで調整されている。

20

【 0 1 4 2 】

また、発展可動体演出の際に画像表示手段 2 2 に表示される演出画像の内容は、通常大当たり可動体演出（図 8）の際に画像表示手段 2 2 に表示される演出画像の内容とは異なっている。また、発展発光パターンは、通常大当たり発光パターン、即ちレインボー発光パターン（特定発光パターン）とは異なる発光パターン（発光させない場合を含む）となっている。

30

【 0 1 4 3 】

このように本実施形態では、可動体 3 1 の L E D 7 1 を通常大当たり発光パターン（ここではレインボー発光パターン）とは異なる発展発光パターンで発光させるように構成されているため、通常大当たり結果演出における通常大当たり動作パターンと動作内容が略同じ発展動作パターンで可動体 3 1 を動作させているにも拘わらず、遊技者がこれを見て大当たりと誤解することはなく、遊技者に無駄に失望感を抱かせることを防止できる。

【 0 1 4 4 】

図 1 3 は本発明の第 5 の実施形態を例示し、第 1 の実施形態を一部変更して、特定の結果表示が出現した場合は次のリーチ演出に移行する旨の説明表示を、結果表示前演出（煽り演出、タメ期間）よりも前から表示するように構成した例を示している。

40

【 0 1 4 5 】

図 1 3 は、第 1 の実施形態の図 6 に対応するものである。図 1 3 に示すように、本実施形態の S P リーチ前演出では、最初に画像表示手段 2 2 上にリーチタイトル 1 1 1 が表示された後（図 1 3（a 1））、「モンスターを倒せば発展」等の説明表示 1 0 5 が、所定時間（例えば 2 s 程度）画面の略中央に大きく表示される（図 1 3（a 2））。そして、その説明表示 1 0 5 が縮小されて画面の周辺部（例えば上部）に退避した後（図 1 3（a 3））、キャラクタ等によるリーチ演出画像 1 0 2 b 等によるリーチ演出が進行する。

【 0 1 4 6 】

その後、リーチ映像表示期間終盤の煽り期間に入ると（図 1 3（a 4））、説明表示 1

50

05が引き続き表示された状態で、それまでのリーチ演出画像102bが煽り演出画像103bに変化する。図13(a4)~(a5)の例では、図6の場合と同様、煽り演出画像103bは、モンスター(敵)のキャラクタを大砲で攻撃する内容となっている。

【0147】

煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像103bは静止状態となり(図13(a5))、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像103bの静止状態が維持される。なお、このタメ期間中も説明表示105の表示は継続される。タメ期間が終了した後の結果表示期間の演出については第1の実施形態(図6)と共通であるため、ここでは説明を省略する。

【0148】

以上説明したように、特定の結果表示が出現した場合は次のリーチ演出に移行する旨の説明表示は、結果表示前演出(煽り演出、タメ期間)中だけでなく、それよりも前から表示するように構成してもよい。

【0149】

図14は本発明の第6の実施形態を例示し、第1の実施形態を一部変更して、操作有効示唆演出中に操作対象画像を形成し、その操作対象画像の形成完了から所定時間経過後に操作有効期間を開始するように構成した例を示している。

【0150】

図14は、第1の実施形態の図7、図8に対応するものである。図14に示すように、本実施形態のSPリーチ後演出では、リーチ映像表示期間終盤に操作有効示唆演出が開始される。本実施形態の操作有効示唆演出では、その演出期間(4s)が、ボタン形成期間(3s)と、そのボタン形成期間に続くボタン形成後待ち期間(1s)とで構成されている。ボタン形成期間は、演出ボタン14を示す操作対象画像106を形成する期間であって、図14(a2)~(a4)に示すように、例えば画面上で操作対象画像106の透過率が100%から徐々に小さくなって次第に鮮明になり、ボタン形成期間の終了時点でその透過率が0%に達して操作対象画像106が完成する(図14(a4))ようになっているが、このボタン形成の過程は任意である。ボタン形成後待ち期間は、操作対象画像106の形成完了から操作有効期間が開始されるまでの待ち時間で、操作対象画像106は形成完了時の表示状態が維持される。

【0151】

また、ボタン形成後待ち期間の後半にはゲージ形成後待ち期間(0.5s)が設けられている。このゲージ形成後待ち期間は、操作有効期間の進行状況を報知するための進行状況報知画像108を開始待ちの状態(例えばゲージが100%のまま停止している状態)で維持する期間で、ボタン形成後待ち期間が開始されてから第1時間(ここでは0.5s)経過後に開始され、その開始時点で進行状況報知画像108が画面上に表示される(図14(a5))。

【0152】

ゲージ形成後待ち期間(及びボタン形成後待ち期間)は、ゲージ形成後待ち期間の開始から第2時間(ここでは0.5s)経過後に終了し、操作有効期間が開始される。操作有効期間が開始されると、操作態様を報知するための「PUSH!」の文字と矢印画像等よりなる操作態様報知画像107が表示される(図14(a6))とともに進行状況報知画像108のゲージ変化が開始される(図14(a6)~(a7))。

【0153】

以上説明したように、本実施形態では、操作有効示唆演出中における操作対象画像106の形成完了から所定時間経過後に操作有効期間を開始するように構成されており、しかも操作対象画像106の形成完了から第1時間(0.5s)経過後に進行状況報知画像108を開始待ちの状態で表示し、その進行状況報知画像108の表示開始から第2時間(0.5s)経過後に操作有効期間を開始するように構成されているため、その後の時間調整による演出の違和感を抑制すべく操作有効時間を短くしても、それによる遊技者の操作機会の逸失をより確実に防止できる。

10

20

30

40

50

【 0 1 5 4 】

図 1 5 は本発明の第 7 の実施形態を例示し、第 1 の実施形態を一部変更して、強リーチ演出（ここでは S P リーチ後演出）における操作有効示唆演出の演出時間を、弱リーチ演出（ここでは S リーチ演出）における操作有効示唆演出の演出時間よりも長くした例を示している。なお上述したとおり、強リーチ演出は、弱リーチ演出よりも特定態様となる期待度が高いリーチ演出である。

【 0 1 5 5 】

図 1 5 (b) は、本実施形態の S P リーチ後演出（強リーチ演出の一例）における操作有効示唆演出及び操作有効期間に関するタイムチャートで、これは第 1 の実施形態（図 7）と同一である。また図 1 5 (a) は、本実施形態の S リーチ演出（弱リーチ演出の一例）における操作有効示唆演出及び操作有効期間に関するタイムチャートである。第 1 の実施形態（図 5）では、S リーチ演出の結果表示前演出はボタン演出ではなかったが、本実施形態の S リーチ演出（図 1 5 (a)）では、S P リーチ後演出と同様にボタン演出を実行するものとし、結果表示期間の前に操作有効示唆演出及び操作有効期間を設けている。

【 0 1 5 6 】

図 1 5 (a) , (b) より明らかなように、本実施形態では、S P リーチ後演出（強リーチ演出）における操作有効示唆演出の演出時間（ここでは 4 s）が、S リーチ演出（弱リーチ演出）における操作有効示唆演出の演出時間（ここでは 2 s）よりも長くなっている。また、操作有効期間の開始から満了までの操作有効時間については S リーチ演出と S P リーチ後演出とで同一（共に 3 s）となっており、操作有効示唆演出と操作有効期間とを合わせた結果表示前演出の演出時間が、S リーチ演出（弱リーチ演出）よりも S P リーチ後演出（強リーチ演出）の方が長くなっている。なお、S P リーチ後演出における操作有効示唆演出の演出時間（4 s）は操作有効時間（3 s）より長いのに対し、S リーチ演出における操作有効示唆演出の演出時間（2 s）は操作有効時間（3 s）より短くなっている。

【 0 1 5 7 】

このように本実施形態では、S P リーチ後演出（強リーチ演出）に関しては、第 1 の実施形態と同様、その後の時間調整による演出の違和感を抑制すべく操作有効時間（ここでは 3 s）をなるべく短くするとともに、それによる遊技者の操作機会の逸失を確実に防止すべく、操作有効時間（3 s）よりも長い操作有効示唆演出（ここでは 4 s）を操作有効期間の直前に実行するようになっているが、S リーチ演出（弱リーチ演出）に関しては、遊技者の操作機会の逸失よりもリーチ演出による演出効果を高めることを優先すべく操作有効示唆演出（ここでは 2 s）を操作有効時間（3 s）よりも短くしている。

【 0 1 5 8 】

図 1 6 は本発明の第 8 の実施形態を例示し、第 1 の実施形態を一部変更して、結果表示前演出の前に、次のリーチ演出まで発展すること（又はその可能性が高いこと）を示す発展予告演出を実行可能とし、その発展予告演出が出現するか否かに応じて結果表示前演出の内容を異ならせるように構成した例を示している。

【 0 1 5 9 】

図 1 6 は、第 1 の実施形態の図 5 に対応するもので、当該図柄変動における通常変動中（リーチ状態となる前）に、S P リーチ後演出（次のリーチ演出の更に次のリーチ演出）まで発展すること（又はその可能性が高いこと）を示す発展予告演出が実行された場合の、S リーチ演出における結果表示前演出の内容を示している。なお、発展予告演出が実行されない場合の S リーチ演出における結果表示前演出の内容は、第 1 の実施形態（図 5）と同様であるとする。

【 0 1 6 0 】

図 1 6 の例では、当該図柄変動における通常変動中に、青信号を示す予告画像 1 1 2 が画面上に表示されている（発展予告演出）。この青信号の予告画像 1 1 2 は、当該図柄変動で S P リーチ後演出（所定のリーチ演出）まで発展することを示すもので、当該予告画像 1 1 2 が表示された場合にはその後 1 0 0 % の確率で S P リーチ後演出まで発展する

ようになっている。

【0161】

そして、この予告画像112が表示された場合には、SPリーチ後演出に到達するまでのリーチ演出においては、予告画像112が表示されなかった場合(図5)とは異なり、発展を前提とする内容の結果表示前演出が実行されるようになっている。即ち図16(a3)~(a4)に示す煽り演出画像103gは、大当り演出態様を構成することとなる(即ちリーチ図柄と同一の)第1停止図柄候補(ここでは「7」と、はずれ演出態様を構成することとなる(即ちリーチ図柄とは異なる)第2停止図柄候補(ここでは「6」と)の両方に対してキャラクタが爆弾を仕掛けて点火する内容となっている。

【0162】

煽り期間が終了すると、その時点で煽り演出画像103gは静止状態となり(図16(a4))、以降のタメ期間中は、その煽り演出画像103gの静止状態が維持される。そして、タメ期間が終了して結果表示期間に入ると、発展結果表示が、一時停止していた煽り演出画像103gから繋がる形で開始される。この発展演出では、第1,第2停止図柄候補である「7」,「6」の両方が同時に爆破され(図16(b1))、その後SPリーチへの発展を示す「発展」等の発展報知画像104aが表示される(図16(b2))。なお、発展結果表示の内容は、予告画像112が表示されなかった場合(図5)と同一(即ち共通の演出データを使用)であってもよい。

【0163】

以上説明したように、所定の(次の)リーチ演出まで発展することを示す発展予告演出が出現するか否かに応じて、結果表示前演出の内容を異ならせることで、所定のリーチ演出まで発展することが明らかであるか否かに応じてより適切な結果表示前演出を実行することが可能となる。

【0164】

続いて、本発明の第9の実施形態を図面に基づいて詳述する。図17~図25は本発明をパチンコ機である遊技機に採用した第9の実施形態を例示している。遊技盤501は、図17、図18に示すように構成されており、機枠(前枠)の遊技盤装着部に着脱自在に装着されている。

【0165】

遊技盤501は概ね矩形状であり、この遊技盤501の前面側には、図17に示すように、遊技領域502と、この遊技領域502を取り囲む外周部材503とが設けられている。遊技領域502の一側には、外周部材503とガイドレール504との間に遊技球の打ち込み通路505が形成されており、機枠側の発射手段により発射された遊技球を、打ち込み通路505を経て遊技領域502の上部へと打ち込むようになっている。

【0166】

遊技領域502の中央部には、画像表示手段506と、この画像表示手段506の前側に対応するセンターケース507とが装着されている。画像表示手段506は液晶式等であって、演出図柄表示手段510等を構成している。センターケース507は、遊技盤501の前面に当接して遊技盤501から前側に突出するように装着されており、内周側に画像表示手段506の表示画面に対応する表示窓508が設けられている。センターケース507の前面には、普通図柄表示手段509、第1特別図柄表示手段511、第2特別図柄表示手段512等が設けられている。

【0167】

遊技領域502には、センターケース507の左右両側に左打ち通路513と右打ち通路514とが設けられている。また遊技領域502には、普通図柄始動手段515、複合入賞手段516、第1特別図柄始動手段517、第2特別図柄始動手段518が配置されている。

【0168】

普通図柄始動手段515は普通図柄表示手段509による図柄始動を開始させるためのもので、通過ゲートにより構成されている。普通図柄表示手段509は普通図柄始動手段

10

20

30

40

50

5 1 5 の遊技球の検出を契機に普通図柄を変動表示するためのもので、例えば「 」「 × 」の二種類の普通図柄に対応する 2 個の L E D 等の発光体により構成されている。即ち、普通図柄表示手段 5 0 9 は普通図柄始動手段 5 1 5 が遊技球を検出することを条件に 2 個の発光体が所定時間交互に点滅して、普通図柄始動手段 5 1 5 による遊技球の検出時に取得された当り判定乱数値が予め定められた当り判定値と一致する場合に、当り態様に対応する「 」「 × 」側の発光体が発光した状態で、それ以外の場合に外れ態様に対応する「 × 」側の発光体が発光した状態で夫々点滅を終了する。

【 0 1 6 9 】

第 1 特別図柄始動手段 5 1 7 は、遊技球の検出を契機に第 1 特別図柄表示手段 5 1 1 による第 1 図柄変動を開始させるためのものであり、第 2 特別図柄始動手段 5 1 8 は、遊技球の検出を契機に第 2 特別図柄表示手段 5 1 2 による第 2 図柄変動を開始させるためのものである。なお、第 1 特別図柄始動手段 5 1 7 は非開閉式である。第 2 特別図柄始動手段 5 1 8 は遊技球が入球不可能（又は入球困難）な閉状態と入球可能（又は入球容易）な開状態とに切り換え可能な開閉式であり、普通図柄表示手段 5 0 9 の変動後の停止図柄が当り態様となって普通利益状態が発生したときに、閉状態から開状態へと所定時間開放するようになっている。

10

【 0 1 7 0 】

第 1 特別図柄表示手段 5 1 1、第 2 特別図柄表示手段 5 1 2 は 1 個又は複数個の表示手段、例えば特別図柄を変動表示可能なセグメント式等の 1 個の表示手段により構成されている。そして、各特別図柄表示手段 5 1 1、5 1 2 は、対応する特別図柄始動手段 5 1 7、5 1 8 に遊技球が入賞することを条件に各特別図柄を所定時間変動表示して、各特別図柄始動手段 5 1 7、5 1 8 への入賞時に取得した大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致する場合に、特別図柄が所定の大当り態様（特定態様）で、それ以外の場合に外れ態様で夫々停止する。

20

【 0 1 7 1 】

演出図柄表示手段 5 1 0 は特別図柄表示手段 5 1 1、5 1 2 による特別図柄の変動表示と並行して演出図柄 5 1 0 a ~ 5 1 0 c を変動表示するもので、1 個又は複数個（例えば左右方向に 3 個）の演出図柄 5 1 0 a ~ 5 1 0 c を各種の演出画像と共に画像表示手段 5 0 6 の表示画面に変動表示可能に構成されている。

【 0 1 7 2 】

30

演出図柄 5 1 0 a ~ 5 1 0 c は数字図柄により構成されており、第 1 特別図柄始動手段 5 1 7、第 2 特別図柄始動手段 5 1 8 に遊技球が入賞した場合に、特別図柄の変動開始と同時に複数種類の変動パターンの何れかに従って変動を開始して、特別図柄の停止と同期して略同時に停止する。なお、演出図柄 5 1 0 a ~ 5 1 0 c は特別図柄が外れ態様で停止する場合には外れ演出態様で停止し、特別図柄が大当り態様で停止する場合には大当り演出態様で停止する。

【 0 1 7 3 】

複合入賞手段 5 1 6 は大入賞手段 5 2 1 と普通入賞手段 5 2 2 とを左右に備えて複合化したものであり、この複合入賞手段 5 1 6 には前向きに発光表示可能な発光表示手段 5 2 9 ~ 5 3 1 が左右方向に複数設けられている。第 1 特別図柄始動手段 5 1 7 には前向きに発光表示可能な発光表示手段 5 3 2、5 3 3 が左右方向の両側に設けられている。なお、発光表示手段 5 2 9 ~ 5 3 3 は L E D 発光式のものが採用されているが、他の形式のものでもよい。

40

【 0 1 7 4 】

大入賞手段 5 2 1 は、遊技球が入賞可能な開状態と入賞不可能な閉状態とに切り換え可能な開閉式であって、第 1 特別図柄表示手段 5 1 1、第 2 特別図柄表示手段 5 1 2 の変動後の特別図柄が大当り態様となって特別利益状態が発生したときに、所定の開放パターンに従って 1 回又は複数回開放してその上側から遊技球を入賞させるようになっている。

【 0 1 7 5 】

遊技盤 5 0 1 の裏側には、図 1 8 に示すように、遊技盤 5 0 1 に装着された裏カバー 5

50

24と、この裏カバー524の裏側に上下に配置された主制御基板525及び演出制御基板526等が設けられている。裏カバー524は遊技盤501に装着された画像表示手段506、複合入賞手段516、第1特別図柄始動手段517等を裏側から覆うためのものである。主制御基板525は大入賞手段521等による遊技盤501側の遊技動作を制御するためのものであり、主制御基板ケース527に収容されて裏カバー524の裏側に着脱可能に装着されている。

【0176】

演出制御基板526は演出図柄表示手段510の演出図柄510a～510cの変動表示、発光表示手段529～533の発光表示等の各種演出動作を制御するためのものであり、演出制御基板ケース534に収容されて裏カバー524の裏側に着脱可能に装着されている。

10

【0177】

第1特別図柄始動手段517は、遊技領域502の最下部のアウト球口535の上側近傍に配置されている。この第1特別図柄始動手段517は左右方向に長い横長状であって、図19～図21に示すように、遊技盤501の前面に当接し且つ前面側から着脱可能に固定された当接板536と、この当接板536の裏側に設けられ且つ遊技盤501の装着孔537に挿入されるケース部538と、当接板536の左右略中央から前側に突出する第1始動口539と、第1始動口539に入賞した遊技球をケース部538内を経て遊技盤501の裏側へと案内する案内通路540と、第1始動口539に入賞した遊技球を検出する第1始動スイッチ541と、第1始動スイッチ541の近傍に配置された電波センサ542と、第1始動口539の左右両側で当接板536の裏側に設けられた左右一对の発光表示用のLED基板543、544とを有する。

20

【0178】

当接板536はねじ等の固定具で遊技盤501の前面に固定されており、この当接板536には左右両側に発光表示部545、546が設けられている。ケース部538は、当接板536の裏側に一体に形成された前部側538aと、この前部側538aに対して裏側から着脱可能に装着された後部側538bとを備え、遊技盤501の装着孔537に前側から挿入される挿入部547を構成している。

【0179】

第1始動スイッチ541は、第1始動口539に入賞する遊技球を検出して第1特別図柄表示手段511の第1特別図柄を変動させるためのものであり、遊技球の検出部にコイルを備えた電磁誘導型のものが使用され、第1始動口539の入口側で当接板536、ケース部538等に装着されている。

30

【0180】

電波センサ542は第1始動スイッチ541を誤動作させるために第1始動スイッチ541の周辺に送信される不正電波を検出するためのもので、第1始動スイッチ541の側方近傍に配置され、ケース部538内のセンサ収容部565内に設けられている。

【0181】

左右のLED基板543、544は、当接板536の左右両側に設けられた発光表示部545、546と共に発光表示手段532、533を構成するもので、各発光表示部545、546に対応してケース部538内の透過壁550に当接板536と略平行に装着されている。LED基板543、544の前面には、発光表示部545、546に光を照射するLED543a、544aが設けられ、またケース部538の左右方向の中央側の裏面に基板側コネクタ552、553が設けられている。

40

【0182】

なお、当接板536、透過壁550は光透過性を有し、LED543a、544aからの光により発光表示部545、546を発光させることができる。また当接板536及び/又は透過壁550には、当接板536の裏側部分を透視できないように、凹凸模様等の透視障害部555が設けられている。

【0183】

50

図 2 3 に示すように、第 1 始動スイッチ 5 4 1 にはハーネス 5 5 6 が、電波センサ 5 4 2 にはハーネス 5 5 7 が、左右の LED 基板 5 4 3 , 5 4 4 にはハーネス 5 5 8 , 5 5 9 が夫々接続されている。各ハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 はケース部 5 3 8 の後壁部 5 6 0 の裏側に引き出されて、留め具 5 6 3 により後壁部 5 6 0 の留め部 5 6 2 に一纏めに留められている。第 1 始動スイッチ 5 4 1、電波センサ 5 4 2 側のハーネス 5 5 6 , 5 5 7 は、その先端のハーネス側コネクタ 5 5 6 a , 5 5 7 a を介して主制御基板 5 2 5 に直接的又は間接的に接続可能であり、また左右の LED 基板 5 4 3 , 5 4 4 側のハーネス 5 5 8 , 5 5 9 は、その先端のハーネス側コネクタ 5 5 8 a , 5 5 9 a を介して演出制御基板 5 2 6 に直接的又は間接的に接続可能である。

【 0 1 8 4 】

10

第 1 特別図柄始動手段 5 1 7 の裏側には、図 2 1 等 に示すように、第 1 始動スイッチ 5 4 1 の後方側に対応してケース部 5 3 8 の後壁部 5 6 0 の左右方向の略中央に管理情報表示部 5 6 4 が設けられ、この管理情報表示部 5 6 4 に、第 1 特別図柄始動手段 5 1 7 の管理番号、その他の管理情報が表示されている。ケース部 5 3 8 の後壁部 5 6 0 には、管理情報表示部 5 6 4 の他に、この管理情報表示部 5 6 4 の一側から下側にかけて留め部 5 6 2、センサ収容部 5 6 5、引き出し部 5 6 6 が設けられ、またセンサ収容部 5 6 5 に対して引き出し部 5 6 6 と反対側に引き出し部 5 6 7 が設けられている。

【 0 1 8 5 】

センサ収容部 5 6 5 は電波センサ 5 4 2 の後部側を収容するもので、図 1 9 ~ 図 2 1 に示すように、後壁部 5 6 0 から後方に突出して設けられており、このセンサ収容部 5 6 5 の後端よりも前側に留め部 5 6 2 と、この留め部 5 6 2 に巻き付けられた留め具 5 6 3 とが配置されている。センサ収容部 5 6 5 と、これに収容された電波センサ 5 4 2 の後部は、ケース部 5 3 8 の後壁部 5 6 0 から後方に突出する突出部 5 6 8 を構成する。

20

【 0 1 8 6 】

ケース部 5 3 8 の後壁部 5 6 0 には、図 2 0、図 2 1 に示すように、センサ収容部 5 6 5 の左右両側に引き出し部 5 6 6 , 5 6 7 が開口状に設けられている。引き出し部 5 6 6 は、第 1 始動スイッチ 5 4 1 側のハーネス 5 5 6 と、一方の LED 基板 5 4 3 側のハーネス 5 5 8 とをケース部 5 3 8 内から後壁部 5 6 0 の裏側へと引き出すためのものであって、第 1 始動スイッチ 5 4 1 及び電波センサ 5 4 2 の近傍で左右の LED 基板 5 4 3 , 5 4 4 間の略中央に形成されている。引き出し部 5 6 7 は、他方の LED 基板 5 4 4 側のハーネス 5 5 9 をケース部 5 3 8 内から後壁部 5 6 0 の裏側へと引き出すためのものであり、LED 基板 5 4 4 側の基板側コネクタ 5 5 3 に対応して形成されている。

30

【 0 1 8 7 】

第 1 始動スイッチ 5 4 1 側のハーネス 5 5 6 は、第 1 始動スイッチ 5 4 1 の後端側から引き出し部 5 6 6 を経て留め具 5 6 3 側へと後ろ又は後ろ下方に引き出されている。電波センサ 5 4 2 側のハーネス 5 5 7 は電波センサ 5 4 2 の後端側に接続されており、センサ収容部 5 6 5 の後端側の開口状の引き出し部 5 6 9 を経て留め具 5 6 3 側へと前方向に引き出されている。

【 0 1 8 8 】

左右一対の LED 基板 5 4 3 , 5 4 4 の内、その一方側の LED 基板 5 4 3 側のハーネス 5 5 8 は、後壁部 5 6 0 の前側を経て引き出し部 5 6 6 から裏側へと引き出されている。また他方側の LED 基板 5 4 4 は、センサ収容部 5 6 5 に対して留め具 5 6 3 と反対側にあり、この LED 基板 5 4 4 側のハーネス 5 5 9 は、センサ収容部 5 6 5 の他方側の引き出し部 5 6 7 から裏側へと引き出され、センサ収容部 5 6 5 の他側に沿って後方へと配線された後、センサ収容部 5 6 5 の後端側を経由して留め具 5 6 3 側へと引き出されている。

40

【 0 1 8 9 】

センサ収容部 5 6 5 の後端側には、図 2 0 ~ 図 2 2 に示すように、引き出し部 5 6 9 の上下両側にセンサ収容部 5 6 5 の肉厚分の段部 5 7 0 があり、その一方の段部 5 7 0 と電波センサ 5 4 2 側のハーネス 5 5 7 又はコネクタ 5 5 7 b との間にハーネス 5 5 9 が配線

50

されている。

【0190】

LED基板544側のハーネス559は、一方の段部570と電波センサ542側のハーネス557又はコネクタ557bとの間に配置され、それらにより、ハーネス559が上下に移動しないように上下両側から位置決めされている。なお、段部570、電波センサ542側のハーネス557又はコネクタ557b等により、上下一対の位置決め部571が構成されている。LED基板544側のハーネス559は、電波センサ542の後端側から留め具563の間では、電波センサ542側のハーネス557と略並行して配線されている。

【0191】

留め部562は引き出し部566に対して電波センサ542と反対側に設けられている。この留め部562は、図20、図21、図23に示すように、管理情報表示部564と後壁部560の下端との中間部分に後壁部560から後方に突出して上下方向に設けられている。留め部562と後壁部560の間には、左右方向に貫通する通孔572が形成されている。

【0192】

留め部562の上下両側には、留め部562に巻き付けた留め具563が外れないように規制するずれ止め部573が設けられている。なお、留め部562、ずれ止め部573は、側面視形状が略H状に構成されているが、ずれ止め部573の留め部562から後方に突出する部分は省略してもよい。また留め部562は、留め具563が外れないか、又は外れ難い程度のものではあれば十分である。

【0193】

ハーネス556～559は、留め部562の近傍では留め部562に沿って上側から下側へと上下方向に配置され、留め部562の対応位置で留め具563により留め部562に一纏めに留められている。

【0194】

なお、各ハーネス556～559の留め具563から先端側は、主制御基板525側のハーネス556、557と、演出制御基板526側のハーネス558、559とに分けて下方に引き出されている。

【0195】

各ハーネス556～559は、第1始動スイッチ541、電波センサ542、LED基板543、544から留め具563までの間では、余分な遊びが生じないように配線されている。また各ハーネス556～559の留め具563から先端側は自在に屈曲可能であり、挿入部547を遊技盤501の装着孔537に挿入して組み立てる際には、留め具563を基準にして自由端側を屈曲させて、挿入部547の外周縁よりも内側又は装着孔537の内周縁よりも内側に退避させることが可能である。

【0196】

当接板536、ケース部538、第1始動口539は光透過性の材料により構成されており、その第1始動口539の後方に留め具563、留め部562が配置されている。一方、第1特別図柄始動手段517の前側には、第1始動口539の前面に貼着された装飾シール580、当接板536及び/又は透過壁550に形成された凹凸模様等の透視阻害部555があり、第1特別図柄始動手段517の前側からは、留め具563、留め部562等が透視できないようになっている。なお、透視阻害部555は他のものによって構成してもよい。

【0197】

留め具563は各ハーネス556～559を一纏めに結束する結束具574が使用されている。この結束具574は例えばポリアミド系等の可撓性を有する合成樹脂製であって、図25(a)、(b)に示すように、挿通部575を有するヘッド部576と、このヘッド部576に一体に接続され且つ他端側から挿通部575に挿通して結束するバンド部577とを備えている。

10

20

30

40

50

【0198】

挿通部575内には、一方向係合爪578が一体に設けられている。一方向係合爪578はそれ自体の弾性力により、挿通部575内に挿入されたバンド部577側に付勢されている。バンド部577には一方向係合爪578が係合する係合部579がバンド長手方向に多数形成されており、ヘッド部576の挿通部575に挿通してハーネス556～559を留め部562に締め付けたときに、一方向係合爪578が係合部579に係合して締め付け状態を保持するようになっている。なお、ハーネス556～559を結束した後、ヘッド部576から突出するバンド部577の余剰部分は切り取る。

【0199】

各ハーネス556～559は、必要に応じて任意に折り曲げ且つその折り曲げ状態を保ち得るように可撓性及び保形性（又は屈曲性及び保形性）を有するものであって、図24に示すように、複数の導体からなる芯線581の外周を絶縁被覆582で絶縁した素線583を基本に構成されている。各ハーネス556～559は、複数の素線583と、各素線583の一端に設けられたハーネス側コネクタ556a～559aと、各素線583の他端に設けられたハーネス側コネクタ556b～559bとを有する。

【0200】

なお、複数の導体を纏めて芯線581を構成する場合には、導体を撚り合わせない無撚り状態でもよいし、撚り合わせ状態でもよいが、無撚り状態にすれば素線583の可撓性又は屈曲性が向上する。

【0201】

素線583には、芯線581の導体の本数の多少によって線径の異なる複数種類、例えば太素線583a、並素線583b、細素線583cの3種類のものがあり、またそれらを使用するハーネス556～559にも、太素線583aによる太ハーネス583Aと、並素線583bによる並ハーネス583Bと、細素線583cによる細ハーネス583Cの何れかが用いられている。

【0202】

各ハーネス556～559に使用するハーネス583A～583Cの種類を決定する際には、通電時の電気信号の大小、信号の組み合わせ数等の条件に応じて太ハーネス583A、並ハーネス583B、細ハーネス583Cの何れかを選択する。なお、図19～図21、図23においては、便宜上、太ハーネス583Aは太線で、並ハーネス583Bは太一点鎖線で、細ハーネス583Cは太二点鎖線で夫々示す。

【0203】

因みに第1特別図柄始動手段517の場合には、第1始動スイッチ541側のハーネス556は2本の太素線583aを使用した太ハーネス583Aが、電波センサ542側のハーネス557には2本の並素線583bを用いた並ハーネス583Bが、LED基板543、544側のハーネス558、559には4本又はそれ以上の細素線583cを用いた細ハーネス583Cが夫々採用されている。

【0204】

なお、太素線583a、太ハーネス583A、並素線583b、並ハーネス583B、細素線583c、細ハーネス583Cは、太さの異なる三種類の素線、ハーネスを太い方から細い方へと順次識別可能に記載したものであって、第1、第2、第3・・・と記載した場合と同義であって、特定の線径値を意味するものではない。また太素線583a、並素線583b、細素線583cは、芯線581、絶縁被覆582を含む素線583の外径の大小で特定してもよい。

【0205】

第1特別図柄始動手段517には、第1始動スイッチ541、電波センサ542、左右のLED基板543、544等の複数の電気部品541～544があり、その夫々に複数の素線583で構成されたハーネス556～559がハーネス側コネクタ556b～559bを介して接続されて裏側へと引き出されている。しかし、複数の素線583で構成された複数のハーネス556～559があっても、その全ハーネス556～559を留め具

10

20

30

40

50

５６３で一纏めに纏めて留めることにより、各ハーネス５５６～５５９が素線５８３毎にバラけた状態にある場合に比較して、その後の取り扱いを容易に行うことができる。

【０２０６】

第１特別図柄始動手段５１７の下側には、遊技盤５０１の遊技領域５０２からアウト球を内側へと排出するアウト球口５３５があるが、各ハーネス５５６～５５９を留め具５６３により一纏めに纏めることによって、各ハーネス５５６～５５９がアウト球口５３５側に垂れ下がる等の問題も発生しない。そのため各ハーネス５５６～５５９の主制御基板５２５、演出制御基板５２６に対する接続作業も容易に行うことができる。

【０２０７】

また複数のハーネス５５６～５５９を留め部５６２に対して留め具５６３により一纏めに留めているので、留め具５６３による留め位置が略一定して安定することとなり、留め位置のバラツキ等を防止することができる。従って、第１特別図柄始動手段５１７を遊技盤５０１に組み付ける場合にも、画一的に作業を行うことができる。

【０２０８】

しかも留め具５６３はケース部５３８の留め部５６２に巻き付けているので、自由端側からハーネス５５６～５５９を引っ張る等して留め具５６３側に外力が加わるようなことがあっても、その外力に対して留め具５６３、留め部５６２で抗することができる。そのためハーネス５５６～５５９が第１始動スイッチ５４１、電波センサ５４２、ＬＥＤ基板５４３、５４４から脱落したり、それらの各部品５４１～５４４側とハーネス５５６～５５９側とのコネクタ間で接触不良が生じる等の問題も解消することができる。

【０２０９】

また各ハーネス５５６～５５９には、２本の太素線５８３ａによる太ハーネス５８３Ａ、２本の並素線５８３ｂによる並ハーネス５８３Ｂ、４本又はそれ以上の細素線５８３ｃによる細ハーネス５８３Ｃを留め具５６３で一纏めに留めているので、それらの自由端側に大きな張力が加わった場合にも、太ハーネス５８３Ａでそれよりも細い細ハーネス５８３Ｃに加わる張力を分担することが可能となり、細ハーネス５８３Ｃ等の細い側のハーネスの負荷を軽減することができる。

【０２１０】

各ハーネス５５６～５５９を主制御基板５２５、演出制御基板５２６に接続するに当たっては、留め具５６３側を基点として各ハーネス５５６～５５９を上向きに引き出して、ハーネス５５６、５５７を主制御基板５２５側に、ハーネス５５８、５５９を演出制御基板５２６側に夫々接続し、アウト球口５３５内を遊技盤５０１の裏側へと通過するアウト球と干渉しないようにする。

【０２１１】

留め具５６３、留め部５６２は、ケース部５３８の後壁部５６０から後方に突出してハーネス５５６～５５９を一纏めに留めている。しかし、留め具５６３、留め部５６２の近傍には、これらよりも後方に突出するセンサ収容部５６５があり、このセンサ収容部５６５による突出部５６８の後端よりも前側に留め具５６３、留め部５６２があるので、遊技盤５０１の組み立て工程、その他で第１特別図柄始動手段５１７を取り扱う際にも、留め具５６３、留め部５６２が邪魔になるようなこともない。

【０２１２】

またＬＥＤ基板５４４のハーネス５５９は、後方に突出するセンサ収容部５６５（突出部５６８）の後端側を経由して留め具５６３側へと引き出しているため、突出部５６８の上側又は下側を経由して配線する場合に比較して、第１特別図柄始動手段５１７自体の上下方向の寸法を小さくすることが可能である。

【０２１３】

ＬＥＤ基板５４４のハーネス５５９は、突出部５６８を構成するセンサ収容部５６５の後端側を経由して配線されているにも拘わらず、その上下両側に位置決め部５７１があるため、センサ収容部５６５の後端側又は左右の両側面でハーネス５５９に接触した場合でも、それによってハーネス５５９がセンサ収容部５６５の上下何れかに移動したり、外れ

10

20

30

40

50

たりするようなことがない。

【0214】

なお、第1始動スイッチ541、電波センサ542のハーネス556、557は、主制御基板525側に接続可能であり、LED基板543、544のハーネス558、559は、演出制御基板526側に接続可能であるため、各ハーネス556～559の留め具563からハーネス側コネクタ556a～559aまでの長さが長くなっている。そこで、遊技盤501に装着する前の段階では、図21に示すように、各ハーネス556～559を接続対象毎に短く折り曲げた後、その折り畳み状態のハーネス556～559を保護キャップ584、585に挿入して保護する。これによって、長いハーネス556～559の垂れ下りを防止することができる。

10

【0215】

図25に示す結束具574により各ハーネス556～559を結束する際には、バンド部577の自由端側を通孔572に通してハーネス556～559及び留め部562の外周にバンド部577を巻き掛けた後に、そのバンド部577をヘッド部576の挿通部575に挿通して引っ張る。そして、バンド部577を引っ張って締め付けて行くと、係合部579に一方向係合爪578が係合して締め付け状態を保持できるので、ハーネス556～559が留め部562に略密着する程度までバンド部577を引っ張って締め付けた後に、ヘッド部576の近傍でバンド部577の自由端側の余剰部分を切断する。これによって第1始動スイッチ541、電波センサ542、LED基板543、544のハーネス556～559を結束具574により容易に一纏めに纏めて留めることができる。

20

【0216】

なお、バンド部577によるハーネス556～559の締め付けは、各ハーネス556～559の先端側のハーネス側コネクタ556a～559aが留め具563から抜け出さない程度、例えば大きさの異なる複数のハーネス側コネクタ556a～559aがある場合には、その最小のハーネス側コネクタ556a～559aが留め具563から抜け出さない程度の緩い締め付けでもよい。

【0217】

図26～図31は本発明の第10の実施形態における複合入賞手段516を例示する。複合入賞手段516は、図26～図31に示すように、遊技盤501の前面に固定された当接板600に大入賞手段521と普通入賞手段522とを左右に備えると共に、大入賞手段521が閉状態のときに右打ち通路514（図17参照）からの遊技球を第1特別図柄始動手段517（図17参照）側へと案内する案内通路601を備えている。

30

【0218】

当接板600は、遊技盤501の前面に着脱可能に固定されている。当接板600の前側には、大入賞手段521の大入賞口602と、この大入賞口602を開閉する開閉部材603と、この開閉部材603の下流側に配置された通路部604と、普通入賞手段522の普通入賞口605とが設けられ、また大入賞口602等の下側に、普通入賞口605の左右両側から下側に通過して遊技球をアウト球口535へと案内する案内板606が設けられている。当接板600の裏側には、大入賞手段521に対応して略中央に配置された内ケース部607と、この内ケース部607の左右両側から下側に跨がって配置された外ケース部608とが設けられている。

40

【0219】

複合入賞手段516は遊技盤501に装着する際に、内ケース部607、外ケース部608を遊技盤501の装着孔609に前側から挿入して、当接板600をねじ等の固定手段により遊技盤501に固定する。そのため内ケース部607、外ケース部608は、遊技盤501の装着孔609に挿入する挿入部610を構成する。なお、内ケース部607、外ケース部608は一体に構成してもよい。

【0220】

大入賞手段521の大入賞口602は当接板600の前側で上向きに開口しており、この大入賞口602の開口側に前後方向に出退自在に開閉部材603が設けられている。大

50

入賞口 6 0 2 は、当接板 6 0 0 の裏側の内ケース部 6 0 7 内の入賞通路 6 1 4 から外ケース部 6 0 8 側の排出通路 6 1 1 へと接続されており、この大入賞口 6 0 2 に入賞した遊技球は入賞通路 6 1 4、排出通路 6 1 1 を経て遊技盤 5 0 1 の裏側へと排出されて行く。内ケース部 6 0 7 内には、入賞通路 6 1 4 を通過する遊技球を検出する入賞スイッチ 6 1 2 が横長状に設けられている。

【 0 2 2 1 】

開閉部材 6 0 3 は、連動機構（図示省略）を介して駆動ソレノイド 6 1 3 により開閉可能であり、大入賞口 6 0 2 を閉じた閉状態では、上方から流下する遊技球を受けて通路部 6 0 4 側へと案内するようになっている。案内通路 6 0 1 は、大入賞口 6 0 2 の下手側の通路部 6 0 4 を少なくとも一部とするものであって、大入賞口 6 0 2 が開状態の場合にはその通路部 6 0 4 により構成され、また大入賞口 6 0 2 が閉状態の場合には通路部 6 0 4 とその上手側で閉状態の開閉部材 6 0 3 とにより構成される。入賞スイッチ 6 1 2 はその長手方向を左右方向に向けた状態で入賞通路 6 1 4 の下側に略水平状に配置されており、この入賞スイッチ 6 1 2 を通過した遊技球は、排出通路 6 1 1 を経て遊技盤 5 0 1 の裏側へと案内されて行く。

10

【 0 2 2 2 】

入賞スイッチ 6 1 2、駆動ソレノイド 6 1 3 は、内ケース部 6 0 7 の裏側に着脱可能に固定された収容ケース 6 1 5 内に収容されている。駆動ソレノイド 6 1 3 は前後方向に進退する可動鉄心 6 1 3 a を備え、その可動鉄心 6 1 3 a の前後移動により、開閉部材 6 0 3 を前後方向に開閉可能である。収容ケース 6 1 5 は内ケース部 6 0 7 から後方に突出するように、その前端側の取り付け部 6 1 6 がねじ等の固定具 6 1 7 により内ケース部 6 0 7 に着脱可能に固定されている。

20

【 0 2 2 3 】

入賞スイッチ 6 1 2、駆動ソレノイド 6 1 3 等の内部機構を収容する収容ケース 6 1 5 は、内ケース部 6 0 7 から後方に突出する第 1 突出部 6 1 8 を構成する。外ケース部 6 0 8 には、外ケース部 6 0 8 から後方に突出する排出通路 6 1 1 が収容ケース 6 1 5 の下側に対応して設けられており、排出通路 6 1 1 からの遊技球は、その下端の排出口 6 1 1 a から下方へと排出されて行く。排出通路 6 1 1 は後側が閉塞されており、外ケース部 6 0 8 の後壁部 6 1 9 から後方に突出する第 2 突出部 6 2 0 を構成する。

【 0 2 2 4 】

30

普通入賞手段 5 2 2 の普通入賞口 6 0 5 は、当接板 6 0 0 の裏側で外ケース部 6 0 8 内の入賞通路 6 2 2 に連通している。入賞通路 6 2 2 は外ケース部 6 0 8 に前後方向に設けられており、その後部側は外ケース部 6 0 8 の後壁部 6 1 9 から後方に突出すると共に、その下側に配置された入賞スイッチ 6 2 3 を経て下方の排出口 6 2 2 a へと連通されている。

【 0 2 2 5 】

入賞スイッチ 6 2 3 は、その長手方向を左右方向に向けた状態で略水平状に配置されている。入賞通路 6 2 2 には排出口 6 2 2 a の上側にスイッチ収容部 6 2 5 が設けられ、そのスイッチ収容部 6 2 5 に入賞スイッチ 6 2 3 が収容されている。排出口 6 2 2 a の下側には左右両側に案内壁 6 2 6 が設けられ、この案内壁 6 2 6 間が遊技球を下方に排出する排出通路 6 2 4 となっている。左右の案内壁 6 2 6 の後端間は開放状になっている。

40

【 0 2 2 6 】

入賞通路 6 2 2、スイッチ収容部 6 2 5、案内壁 6 2 6 は、外ケース部 6 0 8 の後壁部 6 1 9 から後方への突出量が略同じであって、その入賞通路 6 2 2 が第 3 突出部 6 2 8 を構成し、スイッチ収容部 6 2 5 が第 4 突出部 6 2 9 を構成し、案内壁 6 2 6 が第 5 突出部 6 3 0 を構成している。第 3 突出部 6 2 8 と第 5 突出部 6 3 0 は上下方向に一直列状であり、第 4 突出部 6 2 9 は第 1 突出部 6 1 8 側が第 3 突出部 6 2 8 及び第 5 突出部 6 3 0 と略一直列状になり、反対側が第 3 突出部 6 2 8 及び第 5 突出部 6 3 0 から左右方向の反対側へと張り出している。

【 0 2 2 7 】

50

複合入賞手段 5 1 6 には、大入賞口 6 0 2 に対応して左右方向の略中央部に発光表示手段 5 3 1 が設けられ、また大入賞手段 5 2 1 の左右両側に発光表示手段 5 2 9 , 5 3 0 と磁気センサ 6 3 2 , 6 3 3 とが設けられている。発光表示手段 5 2 9 ~ 5 3 1 は、当接板 6 0 0 等に設けられた発光表示部 7 1 7 ~ 7 1 9 と、この発光表示部 7 1 7 ~ 7 1 9 に対応して内ケース部 6 0 7 、外ケース部 6 0 8 内に設けられた L E D 基板 6 3 4 ~ 6 3 6 とを備えている。L E D 基板 6 3 4 ~ 6 3 6 には発光表示部 7 1 7 ~ 7 1 9 に光を照射する L E D 6 3 4 a ~ 6 3 6 a が前面に設けられている。L E D 基板 6 3 4 の裏面には上下両側に基板側コネクタ 6 4 3 ~ 6 4 5 が設けられ、また L E D 基板 6 3 5 , 6 3 6 の裏面には基板側コネクタ 6 4 6 , 6 4 7 が設けられている。磁気センサ 6 3 2 , 6 3 3 は遊技盤 5 0 1 の前方に配置されたガラス扉等に磁石を接近させて遊技球の流れに変化を与える等の不正行為を働いた場合に、その磁気を検出するためのものである。

10

【 0 2 2 8 】

なお、当接板 6 0 0 等には、発光表示部 7 1 7 ~ 7 1 9 の発光時の光の拡散性を確保する一方、駆動ソレノイド 6 1 3 、入賞スイッチ 6 1 2 , 6 2 3 、L E D 基板 6 3 4 ~ 6 3 6 等の裏側の構成部材の透視性を阻害する透視阻害部が凹凸模様、その他の手段により設けられている。そのため当接板 6 0 0 の前側から見た場合にも、その裏側の構成部材を透視できないか、又は透視が困難になっている。

【 0 2 2 9 】

複合入賞手段 5 1 6 の裏側における普通入賞手段 5 2 2 と反対側には、図 2 6 ~ 図 3 1 に示すように、演出制御系の中継基板を兼用する L E D 基板 6 3 4 と、主制御系の中継基板 6 4 1 とが前後に設けられている。また複合入賞手段 5 1 6 の裏側には、第 1 配線経路 6 5 0 と第 2 配線経路 6 5 1 と第 3 配線経路 6 5 2 とが設けられている。

20

【 0 2 3 0 】

第 1 配線経路 6 5 0 は、左右一端側の中継基板 6 4 1 と左右他端側との間に配置されており、第 1 突出部 6 1 8 の下側、第 1 突出部 6 1 8 と第 3 ~ 第 5 突出部 6 2 8 ~ 6 3 0 との間を経てジグザグ状に設けられている。この第 1 配線経路 6 5 0 には、入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 と、L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 とが纏めて並行に配線されている。

【 0 2 3 1 】

第 2 配線経路 6 5 1 は、中継基板 6 4 1 側から第 1 突出部 6 1 8 の後下部側を経由して設けられている。この第 2 配線経路 6 5 1 には、入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 と、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9 とが纏めて並行に配線されている。

30

【 0 2 3 2 】

第 3 配線経路 6 5 2 は、中継基板 6 4 1 からその上側を経由して外ケース部 6 0 8 内へと入るように設けられている。この第 3 配線経路 6 5 2 には、磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 と、L E D 基板 6 3 6 側のハーネス 6 6 1 との一部が纏めて並行に配線されている。

【 0 2 3 3 】

各ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 1 には、電流容量、その他の条件に応じて、図 2 4 の場合と同様に太ハーネス 5 8 3 A 、並ハーネス 5 8 3 B 、細ハーネス 5 8 3 C の何れかが採用されている。即ち、第 1 配線経路 6 5 0 の入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 には、2 本の太素線 5 8 3 a による太ハーネス 5 8 3 A が採用され、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 には、3 本の並素線 5 8 3 b による並ハーネス 5 8 3 B が採用され、L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 には、4 本の細素線 5 8 3 c による細ハーネス 5 8 3 C が採用されている。

40

【 0 2 3 4 】

中継基板 6 4 1 から入賞スイッチ 6 2 3 までの距離と、中継基板 6 4 1 から磁気センサ 6 3 3 までの距離は、略同程度である。そのため入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 には、その距離に対応して同程度の長さの長いハーネスが使用されている。

50

【 0 2 3 5 】

入賞スイッチ 6 2 3、磁気センサ 6 3 3 は、中継基板 6 4 1 から遠く離れた位置にあり、後述のように 3 本のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が並行して配線された第 1 並行配線区間 6 9 0 から遠い側に配置されている。一方、LED 基板 6 3 5 は、入賞スイッチ 6 2 3、磁気センサ 6 3 3 よりも中継基板 6 4 1 に近い位置にあり、第 1 並行配線区間 6 9 0 に近い側に配置されている。入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 には、略同じ長さを有する長いハーネスが使用されており、また LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 には、ハーネス 6 5 5、6 5 6 よりも短いハーネスが使用されている。

【 0 2 3 6 】

第 2 配線経路 6 5 1 の入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 には、2 本の太素線 5 8 3 a による太ハーネス 5 8 3 A が採用され、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9 には、3 本の並素線 5 8 3 b による並ハーネス 5 8 3 B が採用されている。なお、入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 と、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9 との長さは同程度か、又は入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 が若干長い程度である。

【 0 2 3 7 】

第 3 配線経路 6 5 2 の磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 には、3 本の並素線 5 8 3 b による並ハーネス 5 8 3 B が採用され、LED 基板 6 3 6 側のハーネス 6 6 1 には、2 本の細素線 5 8 3 c による細ハーネス 5 8 3 C が採用されている。

【 0 2 3 8 】

LED 基板 6 3 4、中継基板 6 4 1 は、図 2 7、図 3 0、図 3 1 に示すように、基板取り付け台 6 6 3 の前後両側に装着されている。即ち、LED 基板 6 3 4 は上下方向に長い縦長状であり、中継基板 6 4 1 は左右方向に長い横長状であって、これらは基板取り付け台 6 6 3 の前後両側に略平行に取り付けられている。基板取り付け台 6 6 3 は、外ケース部 6 0 8 にねじ等の固定具 6 6 4 を介して取り付けられている。LED 基板 6 3 4 は発光表示手段 5 2 9 の一部を構成するもので、基板取り付け台 6 6 3 の前側に設けられており、この LED 基板 6 3 4 に対応して基板取り付け台 6 6 3 の裏側に主制御系の中継基板 6 4 1 が設けられている。

【 0 2 3 9 】

LED 基板 6 3 4 は基板取り付け台 6 6 3 の前側に配置され、中継基板 6 4 1 は LED 基板 6 3 4 の上下中間部分に対応して基板取り付け台 6 6 3 の裏側に配置されている。LED 基板 6 3 4 の上下両側には、中継基板 6 4 1 から張り出す上張り出し部 6 3 4 A と下張り出し部 6 3 4 B とが設けられている。

【 0 2 4 0 】

上張り出し部 6 3 4 A には中継用の基板側コネクタ 6 4 3 が設けられ、下張り出し部 6 3 4 B には中継用の基板側コネクタ 6 4 4 と、外部接続用の基板側コネクタ 6 4 5 とが設けられている。基板側コネクタ 6 4 3 はハーネス 6 6 1 を介して LED 基板 6 3 6 に接続され、基板側コネクタ 6 4 4 はハーネス 6 5 7 を介して LED 基板 6 3 5 に接続されている。基板側コネクタ 6 4 5 は外部接続用であって、外部接続ハーネス 6 6 6 を介して演出制御基板 5 2 6 に接続されている。従って、LED 基板 6 3 4 は、基板側コネクタ 6 4 3 ~ 6 4 5 に接続されたハーネス 6 5 7、6 6 1、6 6 6 を介して他の電気部品、例えば LED 基板 6 3 5、6 3 6、演出制御基板 5 2 6 に接続されている。

【 0 2 4 1 】

なお、上張り出し部 6 3 4 A、下張り出し部 6 3 4 B の後方側は、基板取り付け台 6 6 3 の開口部 6 6 3 a、6 6 3 b により開放された状態にあり、各張り出し部 6 3 4 A、6 3 4 B の基板側コネクタ 6 4 3 ~ 6 4 5 には、その開口部 6 6 3 a、6 6 3 b 側からハーネス 6 5 7、6 6 1、6 6 6 が接続されている。

【 0 2 4 2 】

このように LED 基板 6 3 4 と中継基板 6 4 1 とを前後に重ねて設けることにより、LED 基板 6 3 4 と中継基板 6 4 1 とを面方向に並べて配置する場合に比較して、少ない配

10

20

30

40

50

置面積にＬＥＤ基板６３４と中継基板６４１とを効率的に配置することができ、複合入賞手段５１６を小型化することができる。

【０２４３】

またＬＥＤ基板６３４と中継基板６４１とを前後に重ねても、ＬＥＤ基板６３４を前側に配置することによって、ＬＥＤ基板６３４の本来の機能が阻害されるようなことがなく、ＬＥＤ基板６３４からの光によって、その前方の発光表示部７１７を発光させることができる。更にＬＥＤ基板６３４に裏側の中継基板６４１から面方向に張り出す張り出し部６３４Ａ，６３４Ｂを設けて、その張り出し部６３４Ａ，６３４Ｂ側の基板側コネクタ６４３～６４５を介してＬＥＤ基板６３４を他の電気部品に接続することにより、ＬＥＤ基板６３４に対する他の電気部品の接続も容易に行うことができる。

10

【０２４４】

中継基板６４１の後方側は開放状であって、この中継基板６４１の裏面には左右方向に配列された中継用の基板側コネクタ６６７～６７１と外部接続用の基板側コネクタ６７２とが上下二列に設けられ、その上部側には中継基板６４１の管理情報を表示する管理情報表示部６７５が設けられている。

【０２４５】

管理情報表示部６７５は、製造メーカー名を表示するメーカー表示部６７５ａと基板管理番号を表示する基板管理番号表示部６７５ｂとから構成されている。なお、管理情報表示部６７５は管理上必要な情報を表示すればよく、製造メーカー名、基板管理番号以外の情報を表示するようにしてもよい。ハーネス６５５～６６０のたるみ部６５５ａ～６６０ａは、管理情報表示部６７５の裏側に重ならない位置に配置されており、管理情報表示部６７５の裏側には、ハーネス６５５～６６０のたるみ部６５５ａ～６６０ａ、その他の障害物は配置されておらず、裏側から目視により製造メーカー名、基板管理番号等の管理情報を容易に透視することができる。管理情報表示部６７５は遊技部品の裏側にあればよい。

20

【０２４６】

中継基板６４１の上側には、２個の入賞スイッチ６１２，６２３に接続される２個の基板側コネクタ６６７，６７０と、外部接続用の１個の基板側コネクタ６７２とが左右方向に一列状に配置され、また下側には駆動ソレノイド６１３に接続される基板側コネクタ６６９と、左右の磁気センサ６３２，６３３に接続される２個の基板側コネクタ６６８，６７１とが左右方向に一列状に配置されている。

30

【０２４７】

中継基板６４１及び上下二列の基板側コネクタ６６７～６７２は、外ケース部６０８の後壁部６１９から後方に突出しており、これら中継基板６４１及び基板側コネクタ６６７～６７２により第６突出部６７６が構成されている。

【０２４８】

中継基板６４１の上側の基板側コネクタ６６７，６７０には、各入賞スイッチ６１２，６２３側のハーネス６５５，６５８が着脱可能に接続されている。入賞スイッチ６２３側のハーネス６５５は第１配線経路６５０に沿って配線され、また入賞スイッチ６１２側のハーネス６５８は第２配線経路６５１に沿って配線されている。

【０２４９】

40

中継基板６４１の下側の基板側コネクタ６６８には磁気センサ６３３側のハーネス６５６が、中継基板６４１の下側の基板側コネクタ６６９には駆動ソレノイド６１３側のハーネス６５９が、中継基板６４１の下側の基板側コネクタ６７１には磁気センサ６３２側のハーネス６６０が夫々着脱可能に接続されている。駆動ソレノイド６１３側のハーネス６５９は第２配線経路６５１に沿って配線されている。磁気センサ６３３側のハーネス６５６は第１配線経路６５０に沿って配線され、また磁気センサ６３２のハーネス６６０は第３配線経路６５２に沿って配線されている。

【０２５０】

外部接続用の基板側コネクタ６７２は中継基板６４１上で回路パターンを介して各基板側コネクタ６６７～６７１に接続されており、それらに対応する端子数を有する。そのた

50

め基板側コネクタ 6 7 2 に接続された外部接続ハーネス 6 7 4 もそれに対応する本数の素線 5 8 3 を備えたものとなっている。因みに外部接続ハーネス 6 7 4 には 8 本～10 本、又はそれ以上の並素線 5 8 3 b による並ハーネス 5 8 3 B、又は細素線 5 8 3 c による細ハーネス 5 8 3 C が採用され、先端側のハーネス側コネクタを介して主制御基板 5 2 5 に直接的又は間接的に接続されている。

【0 2 5 1】

L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 は第 1 配線経路 6 5 0 に沿って配線され、L E D 基板 6 3 4 の下張り出し部 6 3 4 B の基板側コネクタ 6 4 4 に接続されている。また L E D 基板 6 3 6 側のハーネス 6 6 1 は第 3 配線経路 6 5 2 に沿って配線され、L E D 基板 6 3 4 の上張り出し部 6 3 4 A の基板側コネクタ 6 4 3 に接続されている。

10

【0 2 5 2】

外部接続用の基板側コネクタ 6 4 5 は L E D 基板 6 3 4 上の回路パターンを介して基板側コネクタ 6 4 3 , 6 4 4 に接続されている。また基板側コネクタ 6 4 5 は、L E D 基板 6 3 4 による発光制御に必要な端子数を有し、この基板側コネクタ 6 4 5 に接続された外部接続ハーネス 6 6 6 もその端子数に対応する素線 5 8 3 を備えたものとなっている。因みに外部接続ハーネス 6 6 6 には 8 本～10 本、又はそれ以上の並素線 5 8 3 b による並ハーネス 5 8 3 B、又は細素線 5 8 3 c による細ハーネス 5 8 3 C が採用され、先端側のハーネス側コネクタを介して演出制御基板 5 2 6 に直接的又は間接的に接続されている。

【0 2 5 3】

中継基板 6 4 1 の上一列の基板側コネクタ 6 6 7 , 6 7 0 , 6 7 2 と下一列の基板側コネクタ 6 6 8 , 6 6 9 , 6 7 1 との間には上下方向に所定の間隔があり、中継基板 6 4 1 の裏側で且つ上下二列の基板側コネクタ 6 6 7 ~ 6 7 2 間がたるみ配置部 6 8 0 となっている。

20

【0 2 5 4】

入賞スイッチ 6 1 2 , 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 , 6 5 8、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9、磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 には、基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 9 ~ 6 7 1 に接続可能なハーネス側コネクタ (図示省略) の近傍にたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a が設けられている。たるみ部 6 5 8 a ~ 6 6 0 a は、中継基板 6 4 1 の裏面に沿って上下、左右の略面方向に屈曲又は湾曲する屈曲状又は湾曲状に設けられている。

30

【0 2 5 5】

各ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a は、各ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 を中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 9 ~ 6 7 1 に着脱する際に、ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 を基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 9 ~ 6 7 1 に対して挿脱するに必要なたるみ (余裕) をハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 に持たせるためのものである。

【0 2 5 6】

各ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a は、たるみ配置部 6 8 0 内で上下、左右の位置を変えた状態で前後方向に重ねて配置されている。たるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a 全体の配置高さは、基板側コネクタ 6 6 7 ~ 6 7 2 の高さと同程度か、基板側コネクタ 6 6 7 ~ 6 7 2 の高さ未満である。

40

【0 2 5 7】

このように上下二列の基板側コネクタ 6 6 7 ~ 6 7 2 間をたるみ配置部 6 8 0 として、このたるみ配置部 6 8 0 内にハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a を配置することにより、基板側コネクタ 6 6 7 ~ 6 7 2 によって上下両側からたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a を保護することができる。

【0 2 5 8】

従って、組立て時、又は組立て後の保守、点検等に際して、ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a に対して接触することによって生じるたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a 自体の変形や錯綜、更にはハーネス 6 5 5 , 6 5 8

50

～ 6 6 0 の浮き上がり等を防止することができる。

【 0 2 5 9 】

各ハーネス 6 5 5 ～ 6 6 0 の遊び量（弛み量）は、入賞スイッチ 6 1 2 , 6 2 3、駆動ソレノイド 6 1 3、磁気センサ 6 3 2 , 6 3 3 側が殆どたるみのない状態で各配線経路 6 5 0 ～ 6 5 2 に沿って配線されているのに対して、LED 基板 6 3 4 側及び中継基板 6 4 1 側はそのハーネス 6 5 5 ～ 6 6 0 のハーネス側コネクタを基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 9 ～ 6 7 1 に対して着脱するに必要な大きなたるみ量となっている。

【 0 2 6 0 】

例えば、入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 では、基板側コネクタ 6 6 7 に最も近い留め具 6 9 4 から基板側コネクタ 6 6 7 までのたるみ部 6 5 5 a を含むたるみ量が、入賞スイッチ 6 2 3 に最も近い留め具 7 0 8 から入賞スイッチ 6 2 3 までのたるみ量よりも大であり、留め具 7 0 8 から入賞スイッチ 6 2 3 までは殆どたるみのない状態で配線されている。

10

【 0 2 6 1 】

また磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 では、基板側コネクタ 6 6 8 に最も近い留め具 6 9 6 から基板側コネクタ 6 6 8 までのたるみ部 6 5 6 a を含むたるみ量が、磁気センサ 6 3 3 に最も近い留め具 7 0 8 から磁気センサ 6 3 3 までのたるみ量よりも大であり、留め具 7 0 8 から磁気センサ 6 3 3 までは殆どたるみのない状態で配線されている。

【 0 2 6 2 】

更に LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 では、基板側コネクタ 6 4 4 に最も近い留め具 6 9 6 から基板側コネクタ 6 4 4 までのたるみ部 6 5 7 a を含むたるみ量が、LED 基板 6 3 5 に最も近い留め具 6 9 4 から LED 基板 6 3 5 までのたるみ量よりも大であり、留め具 6 9 4 から LED 基板 6 3 5 までは殆どたるみのない状態で配線されている。

20

【 0 2 6 3 】

そのため各ハーネス 6 5 5 ～ 6 5 7 を第 1 配線経路 6 5 0 に沿って効率的に配線できると共に、各ハーネス 6 5 5 ～ 6 5 7 のハーネス側コネクタを基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 に対して容易に着脱できる。他のハーネス 6 5 8 ～ 6 6 0 についても同様である。なお、この実施形態では、ハーネス 6 5 5 ～ 6 5 7 を留める留め具は、ハーネス 6 5 5 に対して 2 個、ハーネス 6 5 6 に対して 3 個、ハーネス 6 5 7 に対して 2 個が対応しているが、ハーネス 6 5 5 ～ 6 5 7 に対して 1 個としてもよい。

30

【 0 2 6 4 】

磁気センサ 6 3 3 と中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 6 8 とを接続するハーネス 6 5 6 には、基板側コネクタ 6 6 8 側にたるみ部 6 5 6 a が設けられており、また LED 基板 6 3 5 と LED 基板 6 3 4 の基板側コネクタ 6 4 4 とを接続するハーネス 6 5 7 には、基板側コネクタ 6 4 4 側にたるみ部 6 5 7 a が設けられている。このハーネス 6 5 6 , 6 5 7 においても、磁気センサ 6 3 3、LED 基板 6 3 5 側は殆どたるみがなく、基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 8 に近い側は、ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ～ 6 6 0 と同様に、磁気センサ 6 3 3、LED 基板 6 3 5 側よりも長い所定のたるみ量となっている。

【 0 2 6 5 】

従って、第 1 配線経路 6 5 0 側では、入賞スイッチ 6 2 3、磁気センサ 6 3 3、LED 基板 6 3 5 の各ハーネス 6 5 5 ～ 6 5 7 を、第 2 配線経路 6 5 1 側では入賞スイッチ 6 1 2、駆動ソレノイド 6 1 3 の各ハーネス 6 5 8 , 6 5 9 を夫々の配線経路 6 5 0 , 6 5 1 に沿って無駄なく整然と配線しながらも、各ハーネス 6 5 5 ～ 6 5 9 のコネクタを、その接続対象となる各基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 ～ 6 7 0 に対して容易に着脱することができる。

40

【 0 2 6 6 】

第 1 配線経路 6 5 0 に配線される磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 は、中継基板 6 4 1 の下側から中継基板 6 4 1 の裏側へと配線された後、その中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 6 8 に対して裏側から接続されている。ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 を留める留め具 6 9 6 と基板側コネクタ 6 6 8 との間には第 6 突出部 6 7 6 の段差（前後方向の高低差）

50

があり、その段差に沿ってハーネス 6 5 6 を湾曲状に配線することによって、ハーネス 6 5 6 を基板側コネクタ 6 6 8 に着脱するに必要なたるみ部 6 5 6 a が形成されている。第 3 配線経路 6 5 2 に配線される磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 は、中継基板 6 4 1 の上側から中継基板 6 4 1 の裏側へと配線され、その中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 6 7 と基板側コネクタ 6 7 0 との間を経てたるみ配置部 6 8 0 内のたるみ部 6 6 0 a へと続いている。

【0 2 6 7】

なお、留め具 6 8 6 , 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 , 7 1 4 の構成は、第 9 の実施形態の留め具 5 6 3 と略同様である。留め部 6 8 8 , 6 9 7 , 7 0 9 , 7 1 5 は第 9 の実施形態の留め部 5 6 2 と略同様でもよいし、後壁部 6 1 9 から後方に突出してコ字状に構成することも可能である。

10

【0 2 6 8】

たるみ配置部 6 8 0 には、各ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a 又はその近傍のハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 が前後方向に重なる状態で配置されている。そのため一部のハーネス 6 5 8 , 6 5 9 には、他のハーネス 6 5 5 , 6 6 0 を中継基板 6 4 1 側に押える押え部 6 8 1 , 6 8 2 ができている。

【0 2 6 9】

例えば、第 2 配線経路 6 5 1 に配線される入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 と、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9 には、両ハーネス 6 5 8 , 6 5 9 を撚り合わせた撚り合わせ部 6 8 3 があり、この撚り合わせ部 6 8 3 の中継基板 6 4 1 に対応する部分が押え部 6 8 1 となっており、その押え部 6 8 1 により、第 1 配線経路 6 5 0 の入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 のたるみ部 6 5 5 a の近傍を中継基板 6 4 1 側に押え付けている。

20

【0 2 7 0】

また第 2 配線経路 6 5 1 の入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 は、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9 との撚り合わせ部 6 8 3 から二つに分岐する分岐部分に押え部 6 8 2 があり、この押え部 6 8 2 により、磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 のたるみ部 6 6 0 a の近傍を中継基板 6 4 1 側に押え付けている。

【0 2 7 1】

そのため各ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 5 6 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a に十分なたるみ量を持たせながらも、そのたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a をたるみ配置部 6 8 0 に纏めて集中的に配置することができる。またハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 相互において、その押え部 6 8 1 , 6 8 2 によって他のハーネス 6 5 5 , 6 6 0 を中継基板 6 4 1 側に押えているので、各ハーネス 6 5 5 , 6 6 0 のたるみ部 6 5 5 a , 6 6 0 a の浮き上がり等を防止することができる。

30

【0 2 7 2】

特に第 2 配線経路 6 5 1 のハーネス 6 5 8 , 6 5 9 は、入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 が太ハーネス 5 8 3 A であり、駆動ソレノイド 6 1 3 側のハーネス 6 5 9 が並ハーネス 5 8 3 B であって、その両者の撚り合わせ部 6 8 3 に押え部 6 8 1 があるので、第 1 配線経路 6 5 0 の入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 が太ハーネス 5 8 3 A であるにも拘わらず、その押え部 6 8 1 により入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 を確実に押えることができる。

40

【0 2 7 3】

また第 2 配線経路 6 5 1 の入賞スイッチ 6 1 2 側のハーネス 6 5 8 が太ハーネス 5 8 3 A であり、この太ハーネス 5 8 3 A の押え部 6 8 2 で、磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 である細ハーネス 5 8 3 B を押えるため、その押え部 6 8 2 により磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 を確実に押えることができる。

【0 2 7 4】

しかも、各ハーネス 6 5 8 , 6 5 9 の押え部 6 8 1 , 6 8 2 が上下二列の基板側コネクタ 6 6 7 ~ 6 7 2 間のたるみ配置部 6 8 0 内にあるため、ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0

50

0のたるみ部655a, 658a~660aと同様に、上下二列の基板側コネクタ667~672によってハーネス658, 659の押え部681, 682を保護することができる。

【0275】

入賞スイッチ612側のハーネス658と駆動ソレノイド613側のハーネス659は、第2配線経路651上に配線されている。この第2配線経路651には、ハーネス658, 659が並行して一纏めに配線される並行配線区間684が中継基板641と収容ケース615の後部側との間に設けられ、この並行配線区間684内の2箇所に留め具685, 686が設けられている。

【0276】

入賞スイッチ612、駆動ソレノイド613に近い留め具686は結束式であって、この留め具686により、各ハーネス658, 659が収容ケース615の後部側の留め部688に一纏めに留められている。中継基板641、基盤側コネクタ669, 670に近い側の留め具685は、収容ケース615から後方に突出する突起689により構成されている。この突起689は、図27、図28に示すように、留め具686と中継基板641上の押え部681側とを結ぶ線分よりも上側に偏位して配置され、留め具686と押え部681との間で突起689によりハーネス658, 659が上側に蛇行するように、ハーネス658, 659が突起689に対して上側から引っ掛けられている。

【0277】

入賞スイッチ612側のハーネス658は、収容ケース615の下側の左右略中央部から裏側に引き出された後、収容ケース615の底壁の下側から後壁の裏側の留め具686を経由して中継基板641側へと達する。また駆動ソレノイド613にはその後端側にハーネス659が接続されている。この駆動ソレノイド613側のハーネス659は、留め具686側へと横方向に伸びて、留め具685, 686により入賞スイッチ612側のハーネス658と一纏めに留められる。

【0278】

なお、入賞スイッチ612側のハーネス658と駆動ソレノイド613側のハーネス659は、留め具686に対して並行配線区間684と反対側では分岐して配線され、また中継基板641上でも並行配線区間684から基板側コネクタ669, 670へと分岐して配線されている。

【0279】

第2配線経路651のハーネス658, 659を突起689を経由して配線することにより、収容ケース615の後端の留め具686と中継基板641の押え部681側との間に前後方向の高低差があるにも拘わらず、留め具686と中継基板641との間でたるみが発生することなくハーネス658, 659を第2配線経路651に沿って容易且つ整然と配線することができる。

【0280】

収容ケース615は内ケース部607に対して後方側から着脱可能であるが、第2配線経路651は収容ケース615の後方側を経由しており、入賞スイッチ612側のハーネス658、駆動ソレノイド613側のハーネス659は留め具686により第2配線経路651上に留められている。そのためハーネス658, 659が収容ケース615の下側に垂れ下がる等の問題がなく、ハーネス658, 659に影響されることなく収容ケース615を着脱することができる。なお、入賞スイッチ612、駆動ソレノイド613は収容ケース615内に設けられている。

【0281】

また収容ケース615は内ケース部607に対して後方側からねじ等の固定具617により着脱可能であるが、入賞スイッチ612側のハーネス658と駆動ソレノイド613側のハーネス659とを、一方向式の留め具686により収容ケース615側の留め部688に留めているので、その留め具686を切断せずに固定具617を取り外しただけでは収容ケース615を取り外すことはできない。そのため収容ケース615を不正に取り

10

20

30

40

50

外す等の不正行為を防止することができる。

【 0 2 8 2 】

入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 と、LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 は、第 1 配線経路 6 5 0 に沿って略並行に配線されている。この第 1 配線経路 6 5 0 は、第 1 湾曲経路部 6 5 0 a を含む第 1 並行配線区間 6 9 0 と、第 1 並行配線区間 6 9 0 の LED 基板 6 3 4 及び中継基板 6 4 1 と反対側に設けられ且つ第 2 湾曲経路部 6 5 0 b を含む第 2 並行配線区間 6 9 1 と、第 1 並行配線区間 6 9 0 の LED 基板 6 3 4 及び中継基板 6 4 1 側に設けられた基板側並行配線区間 6 9 2 とにより構成されている。

【 0 2 8 3 】

第 1 並行配線区間 6 9 0 には全てのハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が並行に配線されているので、ハーネス数が最も多くなっており、その最も多いハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が留め具 6 9 4 により一纏めに留められている。第 2 並行配線区間 6 9 1 では、第 1 並行配線区間 6 9 0 のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の内、LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 が分岐位置 7 2 0 で LED 基板 6 3 5 側へと分岐して、入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 とが並行に配線され、留め具 7 0 8 により一纏めに留められている。

【 0 2 8 4 】

この実施形態では、第 1 並行配線区間 6 9 0 と第 2 並行配線区間 6 9 1 とについて説明しているが、並行配線されるハーネス数が多く、数箇所ハーネスが順次分岐する場合には、第 2 並行配線区間から第 3 並行配線区間、第 4 並行配線区間へと順次ハーネス数が減少するように設けてもよい。

【 0 2 8 5 】

なお、中継基板 6 4 1 等を基準にすれば、分岐位置 7 2 0 を挟んで第 1 並行配線区間 6 9 0 から第 2 並行配線区間 6 9 1 へとハーネス数が減少するが、入賞スイッチ 6 2 3、磁気センサ 6 3 3 等を基準にすれば、LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 が第 2 並行配線区間 6 9 1 のハーネス 6 5 5、6 5 6 に集合（合流）する集合位置を挟んで、第 2 並行配線区間 6 9 1 から第 1 並行配線区間 6 9 0 へとハーネス数が増加する。

【 0 2 8 6 】

基板側並行配線区間 6 9 2 では、第 1 並行配線区間 6 9 0 のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の内、入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 が中継基板 6 4 1 側へと分岐して、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 と LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 とが並行に配線され、留め具 6 9 6 により一纏めに留められている。

【 0 2 8 7 】

第 1 並行配線区間 6 9 0 は、外ケース部 6 0 8 の内ケース部 6 0 7 側の端縁に沿って背面視略 L 字状に屈曲又は湾曲して設けられている。この第 1 並行配線区間 6 9 0 には、入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 と、LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 との全てが並行して配線されている。

【 0 2 8 8 】

留め具 6 9 4 は、内ケース部 6 0 7 の下側で第 1 並行配線区間 6 9 0 の中間位置に配置され、各ハーネス 6 5 6 ~ 6 5 7 を留め部 6 9 5 に対して一纏めに留めている。従って、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を個々に配線する場合に比較して、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の素線 5 8 3 のバラツキ等を防止でき、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を纏まりよく配線することができる。

【 0 2 8 9 】

また第 1 並行配線区間 6 9 0 の内側には、外ケース部 6 0 8 から後方に突出する補強壁 6 7 8 があり、この補強壁 6 7 8 の屈曲部分には、第 1 湾曲経路部 6 5 0 a の内側に突起状の配線案内部 6 7 8 a が設けられている。そのため第 1 並行配線区間 6 9 0 のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は、第 1 湾曲経路部 6 5 0 a の配線案内部 6 7 8 a に巻き掛けて略 L 字状に配線され、また配線案内部 6 7 8 a と第 2 突出部 6 2 0 との間で留め具 6 9 4 により留

10

20

30

40

50

め部 6 9 5 に一纏めに留められている。

【 0 2 9 0 】

従って、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を第 1 並行配線区間 6 9 0 に沿ってたるみなく配線できると共に、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線案内部 6 7 8 a と留め具 6 9 4 との二箇所

【 0 2 9 1 】

中継基板 6 4 1 側の基板側並行配線区間 6 9 2 は、入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 を構成する太いハーネス 5 8 3 A が分岐して、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 と L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 とを構成する細ハーネス 5 8 3 C が並行して配線され、その途中の留め具 6 9 6 により外ケース部 6 0 8 側の留め部 6 9 7 に一纏めに留め

【 0 2 9 2 】

留め具 6 9 6 は中継基板 6 4 1 の下側近傍で第 2 突出部 6 2 0 の側方近傍に配置されている。基板側並行配線区間 6 9 2 のハーネス 6 5 6 , 6 5 7 から分岐した入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 は、たるみ部 6 5 5 a を介して中継基板 6 4 1 上の基板側コネクタ 6 6 7 に接続されている。

【 0 2 9 3 】

このように基板側並行配線区間 6 9 2 では、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 と L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 とに使用される細いハーネス 5 8 3 C を並行して配線し、その各ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 を留め具 6 9 6 により一纏めに留めることによって、各ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 を纏まりよく配線できると共に、夫々のハーネス 6 5 6 , 6 5 7 の素線等の切断、その他の損傷を防止できる。

【 0 2 9 4 】

磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 には、留め具 6 9 6 と中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 6 8 との間に、基板側コネクタ 6 6 8 の段差に沿って前後方向に緩やかに湾曲するたるみ部 6 5 6 a があり、また L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 には、留め具 6 9 6 と L E D 基板 6 3 4 の基板側コネクタ 6 4 4 との間に、後壁部 6 1 9 に沿って湾曲するたるみ部 6 5 7 a がある。そのため各ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 を各基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 8 に接続する際には、各ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 側のたるみ部 6 5 6 a , 6 5 7 a によって各ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 を各基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 8 に対して容易に接続することができる。

【 0 2 9 5 】

第 1 並行配線区間 6 9 0 にはその基板側並行配線区間 6 9 2 側に排出通路 6 1 1 による第 2 突出部 6 2 0 があり、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 はこの第 2 突出部 6 2 0 の後端側を経由する後端側経路部 7 0 0 を介して並行に配線されている。そのため第 2 突出部 6 2 0 の上側又は下側を経由して各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線する場合に比較して、第 2 突出部 6 2 0 を横切る状態で各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を効率的に配線することができる。

【 0 2 9 6 】

排出通路 6 1 1 の後端側下部には突起状のずれ止め部 7 0 1 が設けられ、後端側経路部 7 0 0 を経由するハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は、このずれ止め部 7 0 1 により、その下側の排出口 6 1 1 a 側へと移動しないように排出口 6 1 1 a を回避して規制されている。このずれ止め部 7 0 1 を設けることによって、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の排出口 6 1 1 a 側への垂れ下がり防止でき、排出口 6 1 1 a 側を回避して各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線することができる。なお、この場合には、排出口 6 1 1 a がハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の垂れ下がり等を回避すべきハーネス回避部となっている。

【 0 2 9 7 】

第 2 突出部 6 2 0 の配線経路方向の両側には、第 1 並行配線区間 6 9 0 の留め具 6 9 4

と基板側並行配線区間 6 9 2 の留め具 6 9 6 とがある。ずれ止め部 7 0 1 は両留め具 6 9 4 , 6 9 6 間を結ぶ線分に対して背面視で上側に配置され、第 2 突出部 6 2 0 の後端側を経由するハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は、両留め具 6 9 4 , 6 9 6 間でずれ止め部 7 0 1 の上側に引っ掛けられている。そのため第 2 突出部 6 2 0 の後端側を経由する後端側経路部 7 0 0 での各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 のたるみ等を防止することができる。

【 0 2 9 8 】

各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は、平面視において、第 2 突出部 6 2 0 の両側で排出通路 6 1 1 の後端と留め具 6 9 4 , 6 9 6 との間に斜め方向に配線されており、排出通路 6 1 1 の両側でハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 と外ケース部 6 0 8 との間に略三角形の空間がある。そのためずれ止め部 7 0 1 が両側の留め具 6 9 4 , 6 9 6 間を結ぶ線分に対して上側に位置することと相俟って、この後端側経路部 7 0 0 での各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 のたるみ等をより確実に防止することができる。なお、各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は外ケース部 6 0 8 の後壁部 6 1 9 から排出通路 6 1 1 の両側面に沿って配置してもよい。

10

【 0 2 9 9 】

L E D 基板 6 3 5 の基板側コネクタ 6 4 6 は、第 1 突出部 6 1 8 と第 3 ~ 5 突出部 6 2 8 ~ 6 3 0 との間の上下方向の中間で第 1 配線経路 6 5 0 に対応して配置されている。そのため L E D 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 は、この基板側コネクタ 6 4 6 に対応する位置で他の入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 から分岐して、L E D 基板 6 3 5 の基板側コネクタ 6 4 6 に接続されている。

20

【 0 3 0 0 】

入賞スイッチ 6 2 3 はスイッチ収容部 6 2 5 に対して第 1 突出部 6 1 8 の反対側から挿入されている。入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 は、入賞スイッチ 6 2 3 の第 1 突出部 6 1 8 と反対側の端部に接続されており、入賞スイッチ 6 2 3 の端部からスイッチ収容部 6 2 5 の上面側に沿って入賞通路 6 2 2 の外側の合流位置 (集合位置) 7 0 5 へと引き出されている。磁気センサ 6 3 3 は入賞通路 6 2 2 の外側近傍且つスイッチ収容部 6 2 5 の上側近傍で外ケース部 6 0 8 内に配置されている。磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 は、スイッチ収容部 6 2 5 の上面から入賞通路 6 2 2 の外側近傍に沿って後方の合流位置 7 0 5 へと引き出され、その合流位置 7 0 5 でハーネス 6 5 5 と合流している。

【 0 3 0 1 】

このように入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 、磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 をスイッチ収容部 6 2 5 の上面に沿って第 3 突出部 6 2 8 側の合流位置 7 0 5 へと引き出すことにより、第 3 突出部 6 2 8 側の合流位置 7 0 5 で合流するハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を安定させることができる。

30

【 0 3 0 2 】

入賞スイッチ 6 2 3 側のハーネス 6 5 5 と磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 は、入賞通路 6 2 2 の後端外側近傍の合流位置 7 0 5 で合流している。第 2 並行配線区間 6 9 1 は合流位置 7 0 5 から L E D 基板 6 3 5 のハーネス 6 5 7 が分岐する分岐位置 7 2 0 までの間であり、この第 2 並行配線区間 6 9 1 にハーネス 6 5 6 , 6 5 7 が並行して配線されている。

【 0 3 0 3 】

第 2 並行配線区間 6 9 1 には入賞通路 6 2 2 による第 3 突出部 6 2 8 があり、各ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 はこの第 3 突出部 6 2 8 の後端側を経由する後端側経路部 7 1 0 を介して並行に配線されている。入賞通路 6 2 2 の後端側下部には、ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 の垂れ下がり規制する突起状のずれ止め部 7 1 1 がスイッチ収容部 6 2 5 の上側に設けられている。

40

【 0 3 0 4 】

入賞スイッチ 6 2 3 側及び磁気センサ 6 3 3 側から引き出したハーネス 6 5 5 , 6 5 6 は、第 2 並行配線区間 6 9 1 の端部側である第 3 突出部 6 2 8 の一側の合流位置 (分岐位置) 7 0 5 で合流する一方、第 3 突出部 6 2 8 の他側の第 2 湾曲経路部 6 5 0 b に配置された留め具 7 0 8 により、外ケース部 6 0 8 の留め部 7 0 9 に一纏めに留められている。

50

各ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 は、入賞通路 6 2 2 により構成される第 3 突出部 6 2 8 の一側の合流位置 (分岐位置) 7 0 5 から、第 3 突出部 6 2 8 の後端側の後端側経路部 7 1 0 を経て反対側の留め具 7 0 8 へと、第 3 突出部 6 2 8 に沿って左右方向に配線されている。そのため第 3 突出部 6 2 8 を経路せずその上側又は下側を経て各ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を配線する場合に比較して、第 3 突出部 6 2 8 を横切って各ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を効率的に配線することができる。

【 0 3 0 5 】

入賞通路 6 2 2 の後端側下部には突起状のずれ止め部 7 1 1 が設けられている。そして、後端側経路部 7 1 0 を経路するハーネス 6 5 5 , 6 5 6 は、このずれ止め部 7 1 1 により、入賞スイッチ 6 2 3 の後方側へと移動しないように入賞スイッチ 6 2 3 の上側に規制されている。そのため後端側経路部 7 1 0 で各ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を効率的に配線することができると共に、ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 のノイズ等による入賞スイッチ 6 2 3 の誤検出を防止することができる。この場合には、入賞スイッチ 6 2 3 がハーネス 6 5 5 の接近を回避すべきハーネス回避部となっている。なお、ずれ止め部 7 1 1 は、ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 の排出口 6 2 2 a 側への垂れ下がり防止するものでもよい。

10

【 0 3 0 6 】

LED 基板 6 3 5 のハーネス 6 5 7 がハーネス 6 5 5 , 6 5 6 から分岐する分岐位置 7 2 0 は、第 1 並行配線区間 6 9 0 の留め具 6 9 4 と第 2 並行配線区間 6 9 1 の留め具 7 0 8 との中間にあり、分岐位置 7 2 0 から留め具 6 9 4 までの距離は、分岐位置 7 2 0 から留め具 7 0 8 までの距離よりも大である。また留め具 6 9 4 よりも分岐位置 7 2 0 に近い側に配線案内部 6 7 8 a があり、これに巻き掛けてハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を留めているので、LED 基板 6 3 5 の基板側コネクタ 6 4 6 からハーネス側コネクタを抜いてハーネス 6 5 7 を取り外す場合にも、留め具 6 9 4 と基板側コネクタ 6 4 6 との間のハーネス 6 5 7 に十分な余裕を確保でき、容易に取り外すことができる。

20

【 0 3 0 7 】

ずれ止め部 7 1 1 は入賞通路 6 2 2 の一側の合流位置 7 0 5 と、入賞通路 6 2 2 の反対側の留め具 7 0 8 間を結ぶ線分に対して背面視で上側に配置されている。第 3 突出部 6 2 8 の後端側を経路するハーネス 6 5 5 , 6 5 6 は、両側の合流位置 7 0 5 と留め具 7 0 8 との間でずれ止め部 7 1 1 に上側から引っ掛けられて、入賞通路 6 2 2 の左右の両側面に沿って配線されている。このような位置にずれ止め部 7 1 1 を配置することによって、各ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 のたるみ等を防止することができる。

30

【 0 3 0 8 】

磁気センサ 6 3 2 のハーネス 6 6 0 は、第 3 配線経路 6 5 2 上に配線されている。即ち、磁気センサ 6 3 2 のハーネス 6 6 0 は、外ケース部 6 0 8 の外側から LED 基板 6 3 4 の上張り出し部 6 3 4 A の上側を経て上張り出し部 6 3 4 A の後側へと引き出された後、この上張り出し部 6 3 4 A から中継基板 6 4 1 の上縁側を経て中継基板 6 4 1 の後側へと配線され、中継基板 6 4 1 の後側のたるみ配置部 6 8 0 に配置されるたるみ部 6 6 0 a へと続いている。

【 0 3 0 9 】

上張り出し部 6 3 4 A には第 3 配線経路 6 5 2 の近傍に基板側コネクタ 6 4 3 があり、この基板側コネクタ 6 4 3 にハーネス 6 6 1 が接続されている。磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 と LED 基板 6 3 6 側のハーネス 6 6 1 は、基板側コネクタ 6 4 3 の近傍に配置された留め具 7 1 4 により基板取り付け台 6 6 3 の留め部 7 1 5 に一纏めに留められている。ハーネス 6 6 1 は留め具 7 1 4 を経路した後、磁気センサ 6 3 2 側のハーネス 6 6 0 と分岐して、内ケース部 6 0 7 内の LED 基板 6 3 6 の基板側コネクタ 6 4 7 に接続されている。

40

【 0 3 1 0 】

従って、LED 基板 6 3 4 は、ハーネス 6 6 1 を介して LED 基板 6 3 6 に接続されると共に、ハーネス 6 5 7 を介して LED 基板 6 3 5 に接続されており、二つの LED 基板 6 3 5 , 6 3 6 に対して中継基板的な機能を有する。

50

【 0 3 1 1 】

第 1 配線経路 6 5 0 の磁気センサ 6 3 3 側のハーネス 6 5 6 には、留め具 6 9 6 と中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 6 8 との間に、第 6 突出部 6 7 6 の下側に沿って前後方向に緩やかに湾曲するたるみ部 6 5 6 a がある。また LED 基板 6 3 5 側のハーネス 6 5 7 には、留め具 6 9 6 と LED 基板 6 3 4 の基板側コネクタ 6 4 4 との間に、基板側コネクタ 6 4 4 の下側から留め具 6 9 6 側へと後壁部 6 1 9 に沿って湾曲するたるみ部 6 5 7 a がある。そのため各ハーネス 6 5 6 , 6 5 7 は、そのたるみ部 6 5 6 a , 6 5 7 a の余裕によって基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 8 に容易に接続することができる。

【 0 3 1 2 】

中継基板 6 4 1 の外部接続用の基板側コネクタ 6 7 2、LED 基板 6 3 4 の下張り出し部 6 3 4 B の外部接続用の基板側コネクタ 6 4 5 は、挿入部 6 1 0 の外周側近傍に配置されている。中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 と、LED 基板 6 3 4 の下張り出し部 6 3 4 B の基板側コネクタ 6 4 5 との間には、前後に重ねて配置された中継基板 6 4 1 と LED 基板 6 3 4 とに応じた高低差があり、中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 が下張り出し部 6 3 4 B の基板側コネクタ 6 4 5 よりも上側で後方に突出している。中継基板 6 4 1 の外部接続ハーネス 6 7 4 と LED 基板 6 3 4 の外部接続ハーネス 6 6 6 は、中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 の近傍に配置された留め具 7 1 6 により一纏めに纏めて結束されている。

【 0 3 1 3 】

中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 は、左右方向に長い挿入部 6 1 0 の一端側で中継基板 6 4 1 の端部に配置されている。基板側コネクタ 6 7 2 に接続された外部接続ハーネス 6 7 4 は、基板側コネクタ 6 7 2 の近傍で素線の配列方向に沿って中継基板 6 4 1 の外側へと屈曲しており、その屈曲部 6 7 4 a の近傍に留め具 7 1 6 が配置されている。

【 0 3 1 4 】

下張り出し部 6 3 4 B の基板側コネクタ 6 4 5 に接続された外部接続ハーネス 6 6 6 は、中継基板 6 4 1 の下側から中継基板 6 4 1 の裏側へと導かれた後、留め具 7 1 6 により外部接続ハーネス 6 7 4 と一緒に一纏めに結束されて、外部接続ハーネス 6 7 4 と共に中継基板 6 4 1 の外側へと引き出されている。留め具 7 1 6 は中継基板 6 4 1 の端部近傍又は端部よりも内側に配置されている。

【 0 3 1 5 】

このように中継基板 6 4 1 の外部接続ハーネス 6 7 4 と、LED 基板 6 3 4 の外部接続ハーネス 6 6 6 とを設けるに当たって、留め具 7 1 6 により外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 を一纏めに纏めることにより、各外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 が素線毎にバラけた状態にある場合に比較して、その後の取り扱いを容易に行うことができる。

【 0 3 1 6 】

また中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 の近傍に留め具 7 1 6 を配置して、この留め具 7 1 6 により両外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 を一纏めに留めているので、留め具 7 1 6 による外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 の留め位置が安定し易くなり、留め位置のバラツキを容易に防止することができる。そのため留め具 7 1 6 を留め部に固定する必要がなく、中継基板 6 4 1 の裏側等のように留め部を配置し難い箇所でも両外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 を結束式の留め具 7 1 6 により一纏めに留めることができる。

【 0 3 1 7 】

更に裏側にある中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 の近傍に、前側にある LED 基板 6 3 4 の基板側コネクタ 6 4 5 に接続された外部接続ハーネス 6 6 6 を導いて、その中継基板 6 4 1 の基板側コネクタ 6 7 2 の近傍で両外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 を留め具 7 1 6 により一纏めに留めているので、中継基板 6 4 1 と LED 基板 6 3 4 とが前後に重なっているにも拘わらず、両外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 を無理なく引き出して配線することができる。

【 0 3 1 8 】

複合入賞手段 5 1 6 を遊技盤 5 0 1 に装着する際には、その内ケース部 6 0 7、外ケー

10

20

30

40

50

ス部 6 0 8 等の挿入部 6 1 0 を遊技盤 5 0 1 の装着孔 6 0 9 に挿入する。この場合、外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 は留め具 7 1 6 の近傍で挿入部 6 1 0 の外周又は装着孔 6 0 9 の内周から内側へと屈曲させる。これによって外部接続ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 が邪魔になることがなくなり、複合入賞手段 5 1 6 を遊技盤 5 0 1 に容易に装着することができる。

【 0 3 1 9 】

第 9 の実施形態、第 1 0 の実施形態には、次の第 1 ~ 第 1 4 の技術の何れかが包含されている。

【 0 3 2 0 】

第 1 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 を備え、前記遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 は、複数の電気部品 5 4 1 ~ 5 4 4 , 6 4 5 , 6 7 2 と、該各電気部品 5 4 1 ~ 5 4 4 , 6 4 5 , 6 7 2 に接続された複数のハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 , 6 6 6 , 6 7 4 とを備えた遊技機において、複数の前記ハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 , 6 6 6 , 6 7 4 を前記遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 に一纏めに留める留め具 5 6 3 , 7 1 6 を備えたものである。

10

【 0 3 2 1 】

また前記遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 は前記所定部位 5 0 1 の装着孔 5 3 7 , 6 0 9 に挿入される挿入部 5 4 7 , 6 1 0 を備え、前記留め具 5 6 3 , 7 1 6 は、前記ハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 , 6 6 6 , 6 7 4 を前記遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 の内側へと屈曲させたときに、前記ハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 , 6 6 6 , 6 7 4 を前記挿入部 5 4 7 , 6 1 0 の外周又は前記装着孔 5 3 7 , 6 0 9 の内周よりも内側へ収容可能な位置に配置されているものでもよい。前記留め具 5 6 3 , 7 1 6 は前記電気部品 5 4 1 ~ 5 4 4 , 6 4 5 , 6 7 2 の何れかの近傍に配置されていることもある。

20

【 0 3 2 2 】

前記ハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 には、線径の太いハーネス 5 8 3 A とこれよりも線径の細いハーネス 5 8 3 B , 5 8 3 C とがあり、前記留め具 5 6 3 は前記太いハーネス 5 8 3 A と前記細いハーネス 5 8 3 B , 5 8 3 C とを一纏めに結束することもある。中継基板 6 4 1 に接続された第 1 ハーネス 6 7 4 と、前記中継基板 6 4 1 とは別の電気部品 6 3 4 に接続された第 2 ハーネス 6 6 6 とを備え、前記留め具 7 1 6 は前記第 1 ハーネス 6 7 4 と前記第 2 ハーネス 6 6 6 とを一纏めに結束することもある。

30

【 0 3 2 3 】

第 2 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 , 6 3 6 と、該各電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 , 6 3 6 に接続され且つ配線経路 6 5 0 ~ 6 5 2 に沿って配線された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 6 1 とを備えた遊技機において、前記配線経路 6 5 0 ~ 6 5 2 の経路方向の複数箇所で前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 6 1 を前記遊技部品 5 1 6 側に一纏めに留める複数の留め具 6 8 5 , 6 8 6 , 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 , 7 1 4 を備えたものである。

【 0 3 2 4 】

前記遊技部品 5 1 6 は、基板側コネクタ 6 4 3 ~ 6 4 5 , 6 6 7 ~ 6 7 1 を有する中継基板 6 3 4 , 6 4 1 を備え、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 1 は、一端側が前記電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 , 6 3 6 に、他端側が前記基板側コネクタ 6 4 3 ~ 6 4 5 , 6 6 7 ~ 6 7 1 に夫々接続され、前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 に近い側の前記留め具 6 8 5 , 6 9 4 , 6 9 6 , 7 1 4 から前記基板側コネクタ 6 4 3 ~ 6 4 5 , 6 6 7 ~ 6 7 1 までの前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 1 のたるみ量は、前記電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 , 6 3 6 に近い側の前記留め具 6 8 6 , 7 0 8 , 7 1 4 から前記電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 , 6 3 6 までの前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 1 のたるみ量よりも大であってもよい。

40

【 0 3 2 5 】

前記各ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 は前記中継基板 6 4 1 に近い側の前記留め具 6

50

8 6 , 6 9 4 , 7 1 4 と前記基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 9 ~ 6 7 1 との間に、前記ハーネス 6 5 5 , 6 5 8 ~ 6 6 0 の接続に必要なたるみ量を有するたるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a を備え、前記各たるみ部 6 5 5 a , 6 5 8 a ~ 6 6 0 a は前記基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 9 ~ 6 7 1 の間又は前記基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 9 ~ 6 7 1 の後側に設けられたたるみ配置部 6 8 0 に配置されていることもある。前記遊技部品 5 1 6 は前後方向に複数の前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 を備え、前側の前記中継基板 6 3 4 は後側の前記中継基板 6 4 1 よりも面方向の外側に張り出す張り出し部 6 3 4 A , 6 3 4 B を備え、前記張り出し部 6 3 4 A , 6 3 4 B に前記基板側コネクタ 6 4 3 , 6 4 4 を備えたものでもよい。

【 0 3 2 6 】

10

第 3 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、第 1 電気部品 6 4 1 と、前記第 1 電気部品 6 4 1 を該遊技部品 5 1 6 以外に設けられた第 1 外部電気部品 5 2 5 に接続するための第 1 ハーネス 6 7 4 と、第 2 電気部品 6 3 4 と、前記第 2 電気部品 6 3 4 を該遊技部品 5 1 6 以外に設けられた第 2 外部電気部品 5 2 6 に接続するための第 2 ハーネス 6 6 6 とを備えた遊技機において、少なくとも前記第 1 電気部品 6 4 1 , 6 7 2 と前記第 2 電気部品 6 3 4 との何れかの近傍で前記第 1 ハーネス 6 7 4 と前記第 2 ハーネス 6 6 6 とを一纏めに留める留め具 7 1 6 を備えたものである。

【 0 3 2 7 】

前記遊技部品 5 1 6 は、前記所定部位 5 0 1 の装着孔 6 0 9 に挿入される挿入部 6 1 0 を備え、前記第 1 電気部品 6 4 1 , 6 7 2 と前記第 2 電気部品 6 3 4 , 6 4 5 との少なくとも一方は、前記挿入部 6 1 0 の近傍に配置されることもある。前記第 1 電気部品は、前記第 1 ハーネス 6 7 4 が接続された第 1 中継基板 6 4 1 であり、前記第 2 電気部品は、前記第 2 ハーネス 6 6 6 が接続された第 2 中継基板 6 3 4 であり、前記留め具 7 1 6 は、前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 の近傍で前記第 1 ハーネス 6 6 6 と前記第 2 ハーネス 6 7 4 とを一纏めに結束することもある。

20

【 0 3 2 8 】

第 4 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、該各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 と、該ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が複数の基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 を介して接続された中継基板 6 3 4 , 6 4 1 とを備えた遊技機において、前記電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 との間の配線経路 6 5 0 上で前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに留める留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 を備えたものである。

30

【 0 3 2 9 】

前記配線経路 6 5 0 には、前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が並行に配線された第 1 並行配線区間 6 9 0 と、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の一部の前記ハーネス 6 5 7 が前記電気部品 6 3 5 へと分岐して他の複数のハーネス 6 5 5 , 6 5 6 が並行に配線された第 2 並行配線区間 6 9 1 とがあり、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を留める前記留め具 6 9 4 と、前記第 2 並行配線区間 6 9 1 の前記ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を留める前記留め具 7 0 8 とを備えたものでもよい。

40

【 0 3 3 0 】

前記電気部品 6 3 5 へと分岐する前記ハーネス 6 5 7 の分岐位置 7 2 0 から前記第 2 並行配線区間 6 9 1 の前記留め具 7 0 8 までの距離は、前記分岐位置 7 2 0 から前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記留め具 6 9 4 までの距離よりも大でもよい。前記電気部品 6 3 5 へと分岐する前記ハーネス 6 5 7 の分岐位置 7 2 0 と、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記留め具 6 9 4 との間に、前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を前記配線経路 6 5 0 に沿って湾曲状に案内する配線案内部 6 7 8 a を備えたものでもよい。

【 0 3 3 1 】

第 5 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1

50

6 は、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、該各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 と、後側へと突出する突出部 6 1 8 , 6 2 0 , 6 2 8 , 6 7 6 とを備えた遊技機において、前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに留める留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 を備え、前記留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 は前記突出部 6 1 8 , 6 2 0 , 6 2 8 , 6 7 6 の後端より前に配置されるものである。

【 0 3 3 2 】

前記留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 の周辺近傍に 1 又は複数の前記突出部 6 1 8 , 6 2 0 , 6 2 8 , 6 7 6 があってもよい。前記突出部 6 1 8 , 6 2 0 , 6 2 8 , 6 7 6 は、遊技球の通路 6 2 2 、内部部材を収容する収容部 6 1 5 、又は前記遊技部品 5 1 6 の裏側に装着された構成部材であってもよい。

10

【 0 3 3 3 】

第 6 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、該各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続され且つ配線経路 6 5 0 に沿って並行に配線された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備えた遊技機において、前記配線経路 6 5 0 は、前記各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が集合する集合位置又は前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が分岐する分岐位置を挟んで、その両側で並行に配線されるハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の数が変化する複数の並行配線区間 6 9 0 , 6 9 1 を備え、前記各並行配線区間 6 9 0 , 6 9 1 毎に前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに留める留め具 6 9 4 , 7 0 8 を備えたものである。

20

【 0 3 3 4 】

前記電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 は、並行に配線されるハーネス数が最も多い前記並行配線区間 6 9 0 から遠い側の第 1 電気部品 6 2 3 及び第 2 電気部品 6 3 3 と、前記最も多い並行配線区間 6 9 0 に近い側の第 3 電気部品 6 3 5 とを少なくとも含み、前記並行配線区間 6 9 0 , 6 9 1 は、少なくとも前記第 1 ハーネス 6 5 5 と前記第 2 ハーネス 6 5 6 と前記第 3 ハーネス 6 5 7 とが並行して配線された第 1 並行配線区間 6 9 0 と、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 から前記第 3 ハーネス 6 5 7 が分岐して少なくとも前記第 1 ハーネス 6 5 5 と前記第 2 ハーネス 6 5 6 とが並行して配線された第 2 並行配線区間 6 9 1 とを含み、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに留める前記留め具 6 9 4 と、前記第 2 並行配線区間 6 9 1 の前記ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を一纏めに留める前記留め具 7 0 8 とを備えてもよい。

30

【 0 3 3 5 】

前記第 3 ハーネス 6 5 7 は線径の細いハーネス 5 8 3 C とし、前記第 1 ハーネス 6 5 5 と前記第 2 ハーネス 6 5 6 との少なくとも一方は、前記第 3 ハーネス 5 8 3 C よりも線径の太いハーネス 5 8 3 A , 5 8 3 B としてもよい。前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記留め具 6 9 4 と、前記第 2 並行配線区間 6 9 1 の前記留め具 7 0 8 は、複数本の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに結束可能な同種構造又は共通の結束具であってもよい。

【 0 3 3 6 】

第 7 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、複数の基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 を有する中継基板 6 3 4 , 6 4 1 と、前記複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 及び前記複数の基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 を接続する複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備えた遊技機において、前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 と前記電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 との間に、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線経路 6 5 0 に沿って留める経路方向に少なくとも 1 つの留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 を備え、前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 に最も近い側の前記留め具 6 9 4 , 6 9 6 と前記基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 との間の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 のたるみ量は、前記電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に最も近い側の前記留め具 6 9 4 , 7 0 8 と前記電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 との間の前記各ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 のたるみ量よりも大としたものである。

40

【 0 3 3 7 】

50

前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 の前記基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 8 と前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 から遠い側の前記電気部品 6 2 3 , 6 3 3 とを接続するハーネス 6 5 5 , 6 5 6 は線径の太いハーネス 5 8 3 A , 5 8 3 B とし、前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 の前記基板側コネクタ 6 4 4 と前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 に近い側の前記電気部品 6 3 5 とを接続するハーネス 6 5 7 は、前記太いハーネス 5 8 3 A , 5 8 3 B よりも線径の細いハーネス 5 8 3 C とし、前記太いハーネス 5 8 3 A , 5 8 3 B の前記基板側コネクタ 6 6 7 , 6 6 8 と前記留め具 6 9 4 , 6 9 6 との間のハーネス長さは、前記細ハーネス 5 8 3 C の前記基板側コネクタ 6 4 4 と前記留め具 6 9 6 との間のハーネス長さよりも大であってもよい。

【 0 3 3 8 】

10

第 8 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の第 1 電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、前記各第 1 電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に対応する複数の部品側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 を有する第 2 電気部品 6 3 4 , 6 4 1 と、前記各第 1 電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 及び前記各部品側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 を接続する複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備えた遊技機において、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線経路 6 5 0 上に留める結束具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 を経路方向に複数備え、前記第 2 電気部品 6 3 4 に最も近い側の前記結束具 6 9 6 と前記部品側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 , 6 6 8 との間の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 のたるみ量は、経路方向に隣り合う前記結束具 6 9 4 , 7 0 8 間のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 のたるみ量よりも大にしたものである。

20

【 0 3 3 9 】

前記結束具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 は、挿通部 5 7 5 を有するヘッド部 5 7 6 と、一端側が前記ヘッド部 5 7 6 に連結され且つ他端側から前記挿通部 5 7 5 に挿通可能なバンド部 5 7 7 とを備え、前記バンド部 5 7 7 は、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 に巻き付けて前記挿通部 5 7 5 に挿通したときに前記挿通部 5 7 5 から反挿通方向に抜け出し不能であってもよい。

【 0 3 4 0 】

第 9 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 と、前記各電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 2 3 , 6 3 2 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 6 0 と、前記各ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 0 が接続可能な複数の基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 ~ 6 7 1 を有する中継基板 6 3 4 , 6 4 1 とを備えた遊技機において、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 0 は、該ハーネス 6 5 5 ~ 6 6 0 を前記基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 ~ 6 7 1 に接続するに必要なたるみ量を有するたるみ部 6 5 5 a ~ 6 6 0 a を前記基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 ~ 6 7 1 に近い側に備え、前記たるみ部 6 5 5 a ~ 6 6 0 a は、前記基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 ~ 6 7 1 間又は前記基板側コネクタ 6 4 4 , 6 6 7 ~ 6 7 1 の後近傍に設けられたたるみ配置部 6 8 0 に配置されるものである。

30

【 0 3 4 1 】

前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 6 0 の前記たるみ部 6 5 5 a ~ 6 6 0 a は、前記たるみ配置部 6 8 0 に重ねて配置されることがある。前記たるみ部 6 5 5 a ~ 6 6 0 a は、前記中継基板 6 3 4 , 6 4 1 の管理情報表示部 6 7 5 と重ならない位置に配置されることが望ましい。

40

【 0 3 4 2 】

第 10 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 4 5 , 6 7 2 と、前記複数の電気部品 6 4 5 , 6 7 2 を該遊技部品 5 1 6 以外に設けられた外部電気部品 5 2 5 , 5 2 6 に接続するための複数のハーネス 6 6 6 , 6 7 4 とを備えた遊技機において、前記電気部品 6 4 5 , 6 7 2 から離れた側へと引き出された前記複数のハーネス 6 6 6 , 6 7 4 を前記遊技部品 5 1 6 の裏側で一纏めに留める留め具 7 1 6 を備えたものである。

【 0 3 4 3 】

50

前記遊技部品 5 1 6 は、前記所定部位 5 0 1 の装着孔 6 0 9 に挿入される挿入部 6 1 0 を有し、前記留め具 7 1 6 は前記挿入部 6 1 0 の裏側に備えたものでもよい。前記留め具 7 1 6 に対してハーネス長手方向に前記電気部品 6 4 5 , 6 7 2 と反対側の前記ハーネス 6 6 6 , 6 7 4 は、前記挿入部 6 1 0 の外周又は前記装着孔 6 0 9 の内周よりも内側に屈曲可能であってもよい。

【 0 3 4 4 】

第 1 1 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、裏側へと突出する突出部 6 2 0 , 6 2 8 と、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、該各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備えた遊技機において、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 の裏側を経由して配置されており、前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 は前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の位置ずれを止めるずれ止め部 7 0 1 , 7 1 1 を備えたものである。

【 0 3 4 5 】

前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線する配線経路 6 5 0 は、前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 の後側を経由する後側経路部 7 0 0 , 7 1 0 を備え、前記後側経路部 7 0 0 , 7 1 0 の前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 の少なくとも一側に、前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに留める留め具 6 9 6 , 7 0 8 を備え、前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 の後側に、前記後側経路部 7 0 0 , 7 1 0 上の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の位置ずれを止める前記ずれ止め部 7 0 1 , 7 1 1 を備えたものでもよい。

【 0 3 4 6 】

前記突出部 6 2 8 は、遊技球を前記所定部位 5 0 1 の裏側へと案内する通路 6 2 2 であってもよい。前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 は、該突出部 6 2 0 , 6 2 8 の一側の前記留め具 6 9 6 , 7 0 8 と前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 の他側のハーネス位置とを結ぶ線分の近傍にハーネス回避部を備え、前記突出部 6 2 0 , 6 2 8 の前記ハーネス回避部の上側に前記ずれ止め部 7 0 1 , 7 1 1 を備え、前記後側経路部 7 0 0 の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は、前記一側の留め具 6 9 4 と前記他側の留め具 6 9 6 との間に配線されることもある。

【 0 3 4 7 】

第 1 2 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、前記各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備え、前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 は、少なくとも線径の太いハーネス 5 8 3 A と、前記太いハーネス 5 8 3 A よりも線径の細いハーネス 5 8 3 B , 5 8 3 C とを含む遊技機において、前記太いハーネス 5 8 3 A と前記細いハーネス 5 8 3 B , 5 8 3 C とを一纏めに纏めて配線したものである。

【 0 3 4 8 】

前記太いハーネス 5 8 3 A と前記細いハーネス 5 8 3 B , 5 8 3 C とを前記遊技部品 5 1 6 の配線経路 6 5 0 上に並行して配線し、前記太いハーネス 5 8 3 A と前記細いハーネス 5 8 3 B , 5 8 3 C とを前記配線経路 6 5 0 に纏めて留める留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 を経路長手方向に 1 又は複数設けたものでもよい。

【 0 3 4 9 】

第 1 3 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 を備え、前記遊技部品 5 1 6 は、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、前記各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続され且つ配線経路 6 5 0 に沿って配線された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備えた遊技機において、前記複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 には長いハーネス 6 5 5 , 6 5 6 と短いハーネス 6 5 7 とがあり、前記配線経路 6 5 0 の内、前記長いハーネス 6 5 5 , 6 5 6 と前記短いハーネス 6 5 7 とが並行して配線された並行配線区間 6 9 0 に、前記長いハーネス 6 5 5 , 6 5 6 と前記短いハーネス 6 5 7 とを一纏めに留める留め具 6 9 4 を備えたものである。

【 0 3 5 0 】

少なくとも複数の前記長いハーネス 6 5 5 , 6 5 6 と前記短いハーネス 6 5 7 とが並行に配線される第 1 並行配線区間 6 9 0 と、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 から分岐する前記

短いハーネス 6 5 7 を除いた複数の前記長いハーネス 6 5 5 , 6 5 6 が並行に配線される第 2 並行配線区間 6 9 1 とを備え、前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を一纏めに留める前記留め具 6 9 4 と、前記第 2 並行配線区間 6 9 1 の前記ハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を一纏めに留める留め具 7 0 8 とを備えたものでもよい。前記第 1 並行配線区間 6 9 0 の前記留め具 6 9 4 と、前記第 2 並行配線区間 6 9 1 の前記留め具 7 0 8 との間に湾曲経路部 6 5 0 a を備え、前記湾曲経路部 6 5 0 a の内周部分に前記ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を案内する配線案内部 6 7 8 a を備えたものでもよい。

【 0 3 5 1 】

第 1 4 の技術は、所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 を備え、前記遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 は、複数の電気部品 5 4 1 ~ 5 4 4 , 6 3 4 , 6 4 1 と、前記各電気部品 5 4 1 ~ 5 4 4 , 6 3 4 , 6 4 1 に接続されて該遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 の外部に引き出される複数のハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 , 6 6 6 , 6 7 4 とを備えた遊技機において、全ての前記ハーネスハーネス 5 5 6 ~ 5 5 9 , 6 6 6 , 6 7 4 を一纏めに留める留め具 5 6 3 , 7 1 6 を備えたものである。

10

【 0 3 5 2 】

所定部位 5 0 1 に設けられた遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 を備え、遊技部品 5 1 6 , 5 1 7 は、遊技に係る複数の第 1 電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 3 2 , 6 2 3 , 6 3 3 と、前記複数の第 1 電気部品 6 1 2 , 6 1 3 , 6 3 2 , 6 2 3 , 6 3 3 が接続された第 1 中継基板 6 4 1 と、第 1 中継基板 6 4 1 に接続され且つ主制御基板 5 2 5 に直接的又は間接的に接続される第 1 ハーネス 6 7 4 と、演出に係る複数の第 2 電気部品 6 3 5 , 6 3 6 と、前記複数の第 2 電気部品 6 3 5 , 6 3 6 が接続された第 2 中継基板 6 3 4 と、第 2 中継基板 6 3 4 に接続され且つ演出制御基板 5 2 6 に直接的又は間接的に接続される第 2 ハーネス 6 6 6 とを備え、前記留め具 7 1 6 は前記第 1 ハーネス 6 7 4 と前記第 2 ハーネス 6 6 6 とを一纏めに留めることもある。

20

【 0 3 5 3 】

以上、本発明の実施形態について詳述したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。例えば、第 2 ~ 第 8 の実施形態は、夫々第 1 の実施形態を一部変更したものとなっているが、第 2 ~ 第 8 の実施形態のうちの 2 以上を適宜組み合わせてもよい。また、第 1 ~ 第 8 の実施形態と、第 9 , 第 1 0 の実施形態とは、全く別の遊技機として具現化されているが、前者と後者とを適切に結合することによって同一の遊技機として具現化できることは言うまでもない。例えば、第 9 , 第 1 0 の実施形態に係る遊技機上で、第 1 ~ 第 8 の実施形態に係る遊技機と同様の演出を実行するように構成することが可能である。その際、図 1 7 に示す遊技盤 5 0 1 に、図 1 に示す「カップ伝説」の装飾が施された可動体 3 1 を有する可動演出手段 3 0 を搭載するなど、両遊技機を、それらの相違点に伴って適宜適合させればよい。

30

【 0 3 5 4 】

第 3 の実施形態 (図 1 1) の変形例として、非当りリーチ演出の結果表示前演出で対戦型の演出を行い、引き分けと負けの何れかの演出結果となるように構成し、引き分けの場合に次のリーチ演出に発展させることにより、図柄が大当り演出態様 (特定態様) となることを想起させない演出を実行するように構成してもよい。

40

【 0 3 5 5 】

第 6 の実施形態 (図 1 4) では、操作対象画像 1 0 6 の形成完了 (ボタン形成期間の終了) から第 1 時間 (0 . 5 s) 経過後に進行状況報知画像 1 0 8 を表示するように構成した例を示したが、操作対象画像 1 0 6 の形成完了と略同時に進行状況報知画像 1 0 8 を表示し、その後のボタン形成後待ち期間は進行状況報知画像 1 0 8 を開始待ちの状態に表示するように構成してもよい。

【 0 3 5 6 】

第 7 の実施形態 (図 1 5) では、強リーチ演出の場合は操作有効示唆演出の演出時間が操作有効時間よりも長く、弱リーチ演出の場合は操作有効示唆演出の演出時間が操作有効時間よりも短くなるように設定した例を示したが、弱リーチ演出と強リーチ演出との何れ

50

かの場合に操作有効示唆演出の演出時間と操作有効時間とを略同じに設定してもよい。

【0357】

第8の実施形態(図16)では、発展予告演出が出現した場合についても煽り、タメの結果表示前演出を実行するように構成したが、発展予告演出が出現した場合は煽り、タメの結果表示前演出を実行することなく発展結果表示を行うように構成してもよい。また、第8の実施形態(図16)では発展予告演出を通常変動中に実行するように構成したが、発展予告演出をリーチ後(例えばNリーチ演出中)に実行するように構成してもよい。

【0358】

また第8の実施形態(図16)では、当該図柄変動中に発展予告演出を実行する例を示したが、発展予告演出を、当該図柄変動(ターゲット変動)の開始前に実行する先読み演出として実行してもよい。この先読み演出は、上述した先読み連続演出と先読み保留変化演出のどちらでもよい。先読み連続演出を発展予告演出とする場合、ターゲット変動がSPリーチ変動パターンとなる旨の先読み判定結果が得られることを条件に、ターゲット変動までの複数回の演出図柄変動で「雪」の背景画像を使用することが考えられる。また先読み保留変化演出を発展予告演出とする場合、ターゲット変動がSPリーチ変動パターンとなる旨の先読み判定結果が得られることを条件に、そのターゲット変動に対応する保留表示画像を「(赤丸)」等の特定画像とすることが考えられる。

10

【0359】

第9,第10の実施形態では、所定部位として遊技盤501を例示し、その遊技盤501に設けられる遊技部品として、複合入賞手段516、第1特別図柄始動手段517を例示しているが、遊技盤501以外の所定部位に設けられる各種の遊技部品についても同様に実施可能である。

20

【0360】

例えばパチンコ機では、遊技盤501に設けられたセンターケース507又は取り付け枠を所定部位とし、その所定部位に直接的又は間接的に演出用、その他の可動体ユニット等の遊技部品を装着する場合にも採用できる。その他、遊技盤501が着脱自在に装着される機枠、遊技盤501の前側に対応して機枠に開閉自在に装着される前扉等を所定部位とし、その所定部位の前側に、発光操作ボタン等の操作演出手段、遊技球の発射用の発射ハンドル等の遊技部品を設ける場合にも採用可能である。更に雀球機、スロットマシン等の遊技機においても採用可能である。

30

【0361】

第9,第10の実施形態では電気部品として、主制御基板525、演出制御基板526、LED基板543,544、634~636、第1始動スイッチ541、電波センサ542、入賞スイッチ612,623、駆動ソレノイド613、磁気センサ632,633、基板側コネクタ643,672等を例示しているが、これら以外のものでよいし、またLED基板543,544を含む発光表示手段529,530等がハーネスの接続対象となる場合には、その発光表示手段529,530等自体が一つの電気部品を構成することもある。

【0362】

遊技盤501の遊技領域内に配置される入賞手段等の遊技部品の場合、遊技部品自体が裏側に挿入部547,610を有し、その挿入部547,610を遊技盤501の装着孔537,609に前側から挿入して固定手段により固定されているが、挿入部547,610等を備えておらず、遊技盤501、機枠等の装着対象に対して前側から当接した状態でネジ等の固定手段で固定するような遊技部品でもよい。

40

【0363】

留め具563,716等の各留め具は、実施形態に例示する構成の結束式でもよいし、その他の構成の結束式でもよい。また留め具は必要箇所で複数のハーネスを遊技部品516,517側に留め得るものであれば十分であり、特定の留め形式に限定されるものではない。

【0364】

50

組立て時の作業能率を考慮すれば、ハーネスを容易に留め得るものが望ましいことは言うまでもない。また留め具により複数のハーネスを一纏めに留めるに当たってのハーネスの締め付け度合いは、その周辺の状況等に応じて適宜決定すればよく、必ずしも各ハーネスが動かないように締め付ける必要はない。例えば、多くのハーネスがあり、それらのハーネスを集合箇所で一纏めに束ねて留める場合には、ある程度の余裕がある状態で各ハーネスを留める程度でもよい。

【0365】

ハーネスには、使用する素線583の線径が太いハーネス583A（又は583A，583B）と、これよりも線径が細いハーネス583B，583C（又は583C）とがあり、線径が太いほど素線583単位での引張強度が大になる。従って、ハーネスの引っ掛け等が問題となるような配線経路に沿って複数のハーネスを配線するに際しては、線径の太いハーネス583A（又は583A，583B）と、線径の細いハーネス583B，583C（又は583C）とを組み合わせる配線することにより、線径の太いハーネス583A（又は583A，583B）が線径の細いハーネス583B，583C（又は583C）を補強することができる。

10

【0366】

ハーネス655～661の一端側を電気部品612，613，623，632，633，635，636に接続し、ハーネス655～661の他端側を中継基板634，641の基板側コネクタ643～645，667～670にハーネス側コネクタを介して着脱自在に接続する場合には、中継基板634，641に近い側の留め具685，694，696，714から基板側コネクタ643～645，667～670又はハーネス側コネクタまでのハーネス655～661のたるみ量（前者たるみ量）を、電気部品612，613，623，632，633，635，636に近い側の留め具686，708，714から電気部品612，613，623，632，633，635，636までのハーネス655～661のたるみ量（後者たるみ量）よりも大にすることが望ましい。

20

【0367】

しかし、ハーネス655～661の一端側をハーネス側コネクタを介して電気部品612，613，623，632，633，635，636側のコネクタに着脱自在に接続する場合には、そのコネクタ同士を着脱できるように後者たるみ量を確保する必要がある。従って、前者たるみ量と後者たるみ量とが略同じである場合もある。

30

【0368】

前後又は上下に複数の中継基板634，641を配置する遊技部品516において、一方の中継基板641側から他方の中継基板634のハーネス側コネクタにハーネス側コネクタを接続する場合、他方の中継基板634は一方の中継基板641よりも面方向の外側に張り出すように配置して、その張り出し部634A，634Bに基板側コネクタを設ければよい。

【0369】

第10の実施形態では、配線経路650を中継基板634，641側の基板側並行配線区間692と、中継基板634，641とは反対の電気部品並行配線区間690，691とに分けて、この配線経路に650に3本のハーネス655～657を配線するに当たって、電気部品並行配線区間690，691には、3本のハーネス655～657を並行に配線した第1配線区間690と、この第1配線区間690の電気部品623，633側に2本のハーネス655，656を並行に配線した第2並行配線区間691とを設け、また基板側並行配線区間692には、2本のハーネス656，656を並行に配線している。

40

【0370】

しかし、電気部品並行配線区間690，691の2箇所以上でハーネスが分岐する場合には、第1並行配線区間690からハーネスが分岐する毎に第2並行配線区間691、第3並行配線区間を順次設ければよい。この場合にも、電気部品並行配線区間690，691の最終の部分まで配線されるハーネスには、線径の太いハーネス583A及び／又は583Bを設けることが望ましい。

50

【 0 3 7 1 】

なお、電気部品の種類との関係で電気部品並行配線区間 6 9 0 , 6 9 1 の末端まで線径の太いハーネス 5 8 3 A 及び / 又は 5 8 3 B を設けることができず、線径の細いハーネス 5 8 3 C を設けざるをえない場合には、素線の本数の多いハーネスとすることが望ましい。

【 0 3 7 2 】

電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と中継基板 6 3 4 , 6 4 1 との間の配線経路 6 5 0 に沿って複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線する場合、配線経路 6 5 0 上に配置する留め具 6 9 4 , 6 9 6 , 7 0 8 は、経路方向に一つでもよいし、複数でもよい。また複数の留め具を設ける場合には、留め位置の周辺の条件、状況等に応じて留め具の種類を変えてもよい。

10

【 0 3 7 3 】

配線経路 6 5 0 に、複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が並行に配線された第 1 並行配線区間 6 9 0 と、第 1 並行配線区間 6 9 0 の一部のハーネス 6 5 7 が電気部品 6 3 5 へと分岐して他の複数のハーネス 6 5 5 , 6 5 6 が並行に配線された第 2 並行配線区間 6 9 1 とを設ける場合、第 1 並行配線区間 6 9 0 のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を留める留め具 6 9 4 、第 2 並行配線区間 6 9 1 のハーネス 6 5 5 , 6 5 6 を留める留め具 7 0 8 は、一つ、二つ又はそれ以上でもよい。

【 0 3 7 4 】

裏側へと突出する突出部 6 2 0 , 6 2 8 と、複数の電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 と、この各電気部品 6 2 3 , 6 3 3 , 6 3 5 に接続された複数のハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 とを備えた遊技部品 5 1 6 において、ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を突出部 6 2 0 , 6 2 8 の裏側を経由して配置する場合に、突出部 6 2 0 , 6 2 8 にハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の位置ずれを止めるずれ止め部 7 0 1 , 7 1 1 を設けることが望ましい。この場合のずれ止め部 7 0 1 , 7 1 1 は、ハーネス回避部側へとハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が移動しないように、ハーネス回避部側に設けるだけでもよいし、ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の上下両側に設けてもよい。

20

【 0 3 7 5 】

また突出部 6 2 0 , 6 2 8 の後側を経由する後側経路部 7 0 0 , 7 1 0 を経由してハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を配線する場合、突出部 6 2 0 , 6 2 8 の両側にハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の留め具を設けることが望ましいが、突出部 6 2 0 , 6 2 8 の片側に留め具 6 9 4 , 7 0 8 を配置して、反対側はハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 の合流部又は分岐部とすることもできる。その場合、反対側の合流部側又は分岐部側でハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 を緩やかに縫り合わせる等して、ハーネス 6 5 5 ~ 6 5 7 が分離しないように連携部を設けることも可能である。

30

【 0 3 7 6 】

第 1 ~ 第 1 0 の実施形態のうちの 2 以上を適宜組み合わせてもよい。また本発明は、アレンジボール機、雀球遊技機等の各種弾球遊技機他、スロットマシン等の弾球遊技機以外の遊技機においても同様に実施することが可能である。

【 符号の説明 】

40

【 0 3 7 7 】

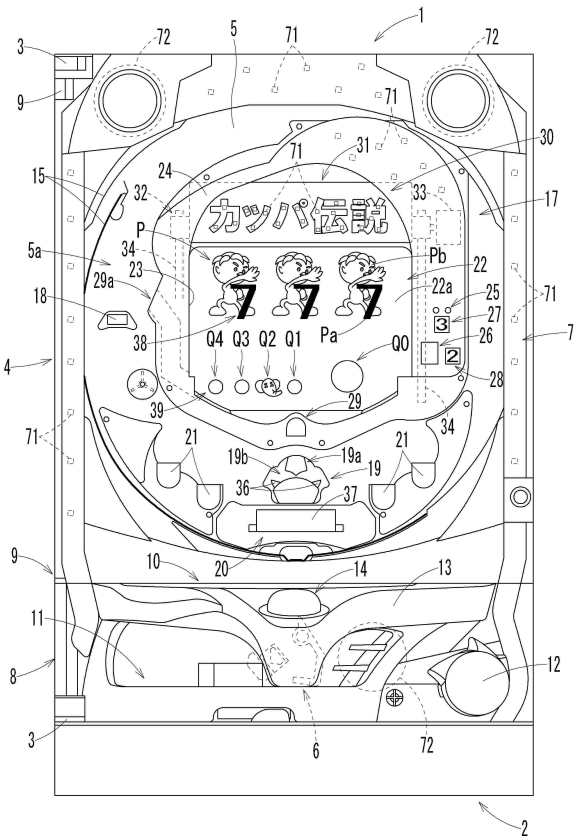
- 3 8 演出図柄表示手段 (図柄表示手段)
- 4 2 演出制御基板 (演出制御手段)
- 6 4 a 大当たり判定手段 (抽選手段)
- 5 4 0 可動電飾装置
- 5 4 8 演出図柄表示手段 (図柄表示手段)
- 5 7 3 L E D (光源)
- 5 7 7 非透光部
- 5 7 8 透光文字部 (透光部)
- 5 7 8 a

50

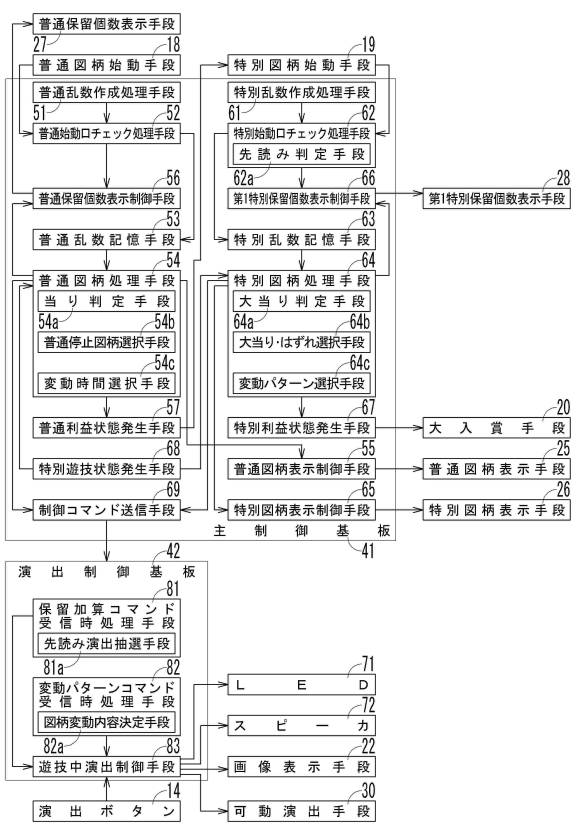
- ~ 5 7 8 n 透光領域
- 7 0 2 演出制御基板（演出制御手段）
- 7 2 4 a 大当り判定手段（抽選手段）
- 7 5 3 L E D（光源）
- 7 5 7 a 非透光文字部（非透光部）
- 7 5 7 b 非透光枠部（非透光部）
- 7 5 8 透光部

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

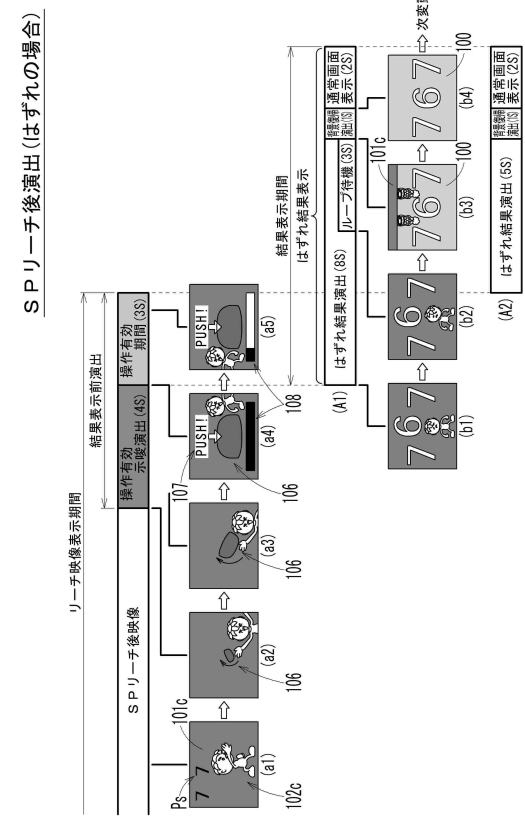
20

30

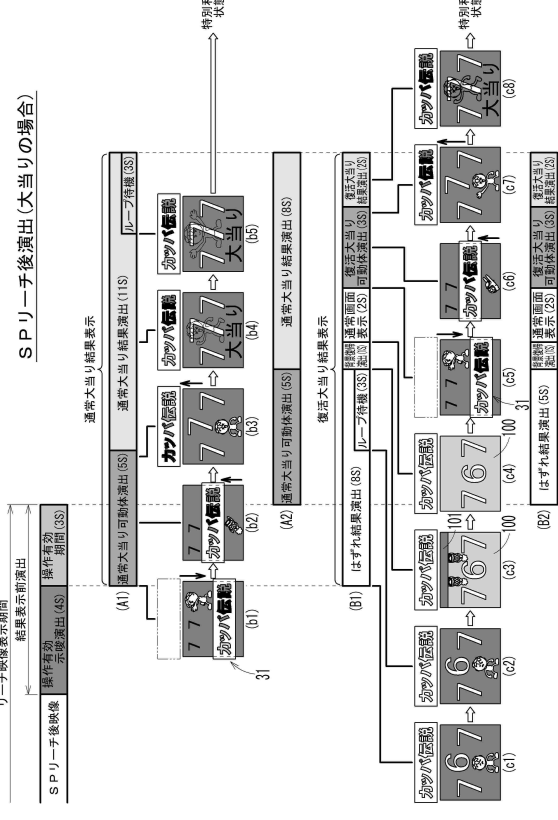
40

50

【図 7】



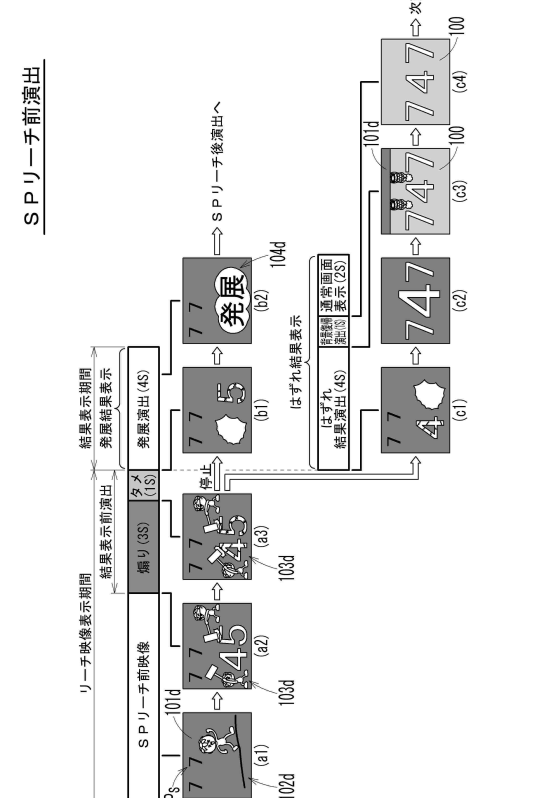
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

20

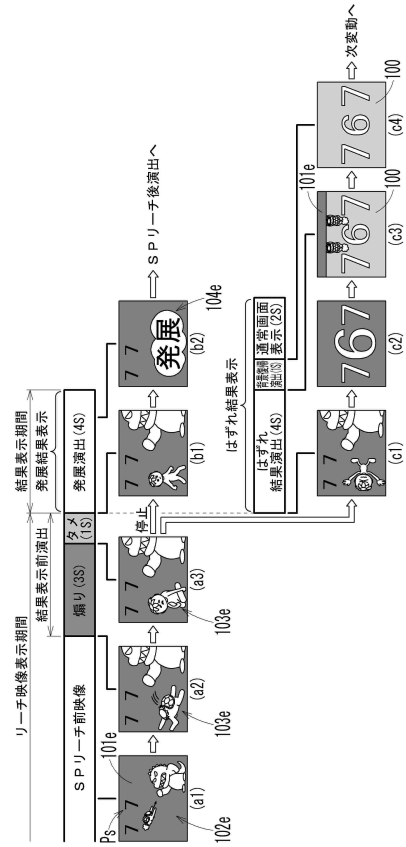
30

40

50

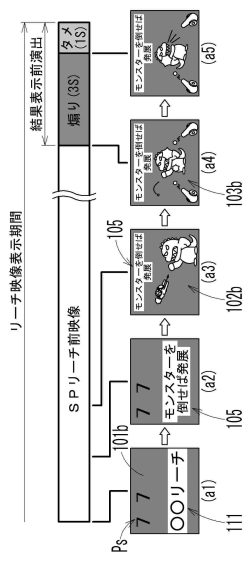
【図 1 1】

SPリーチ前演出



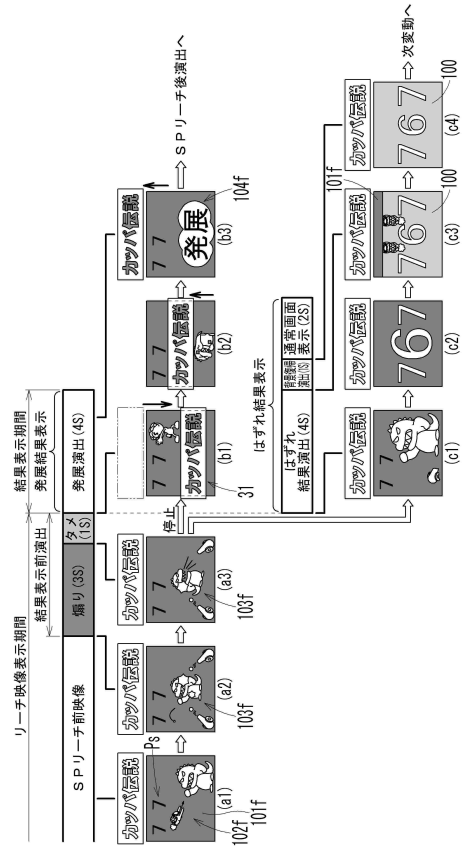
【図 1 3】

SPリーチ前演出



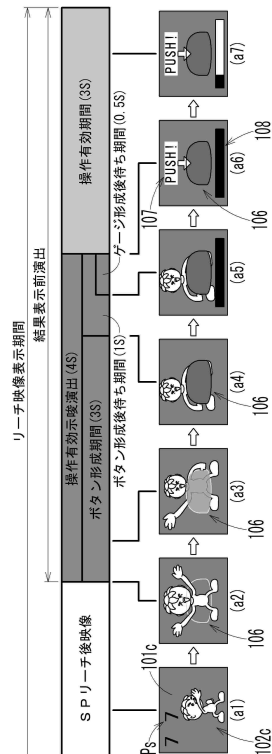
【図 1 2】

SPリーチ前演出

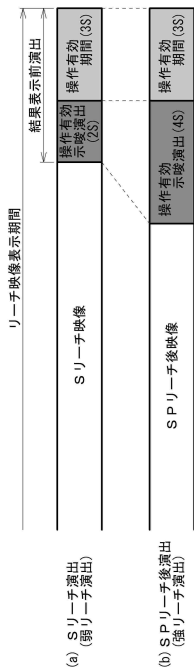


【図 1 4】

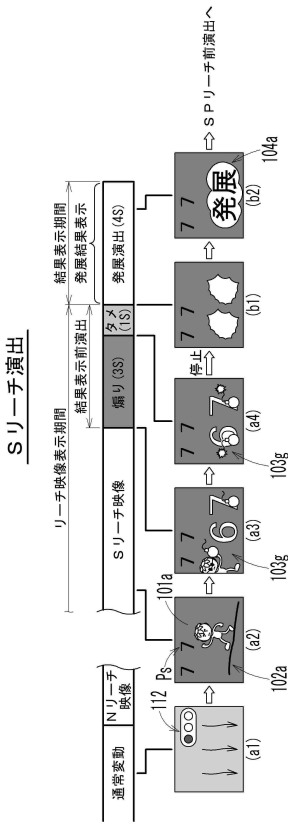
SPリーチ後演出



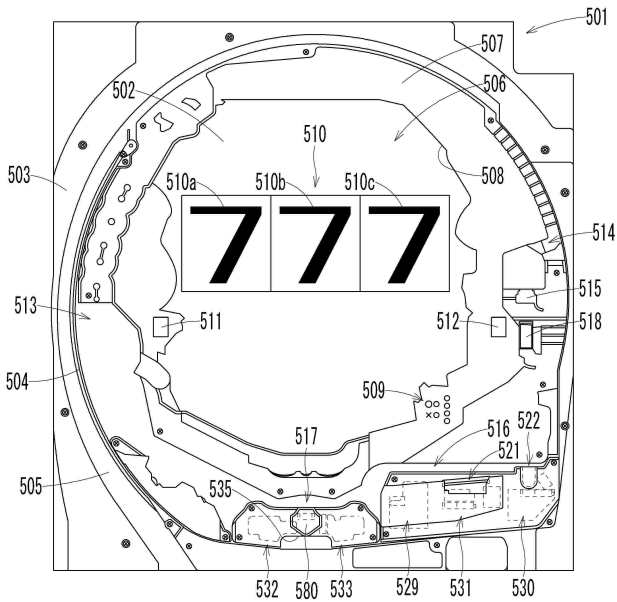
【図 1 5】



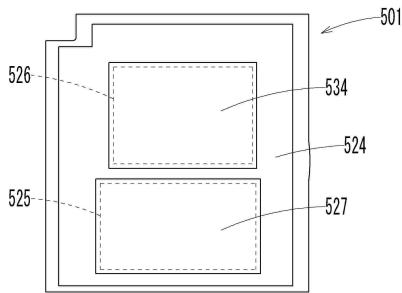
【図 1 6】



【図 1 7】



【図 1 8】



10

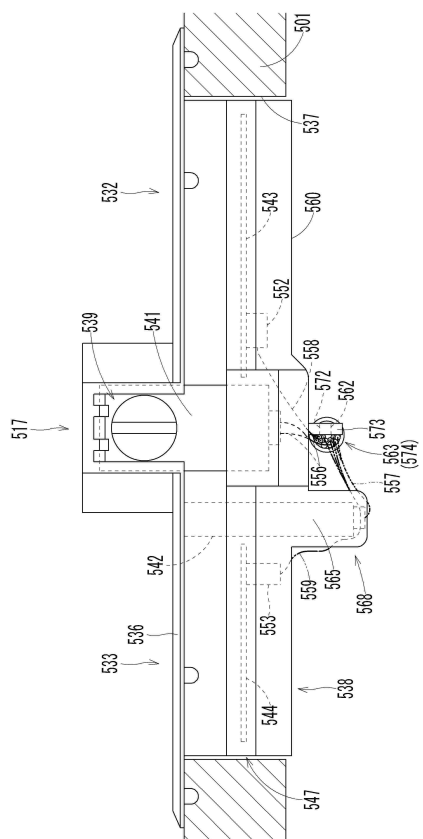
20

30

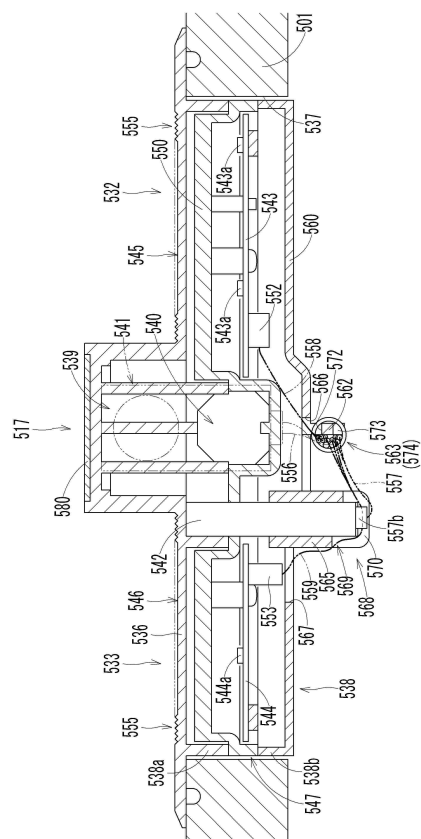
40

50

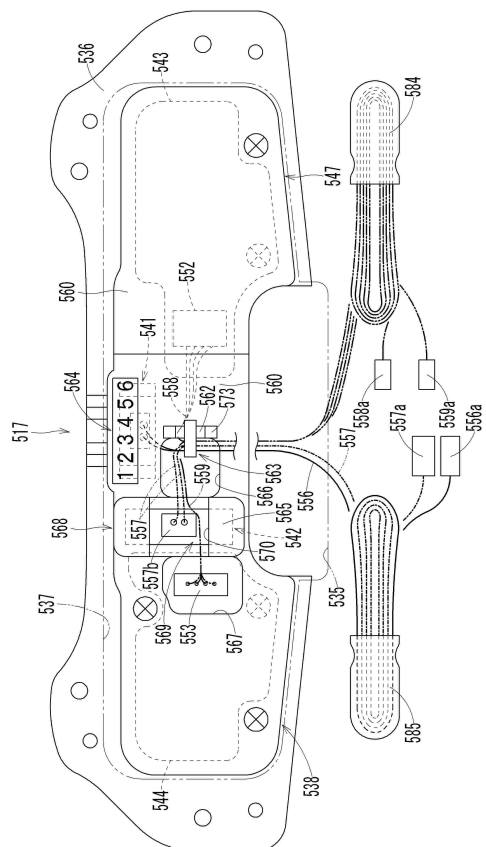
【 図 1 9 】



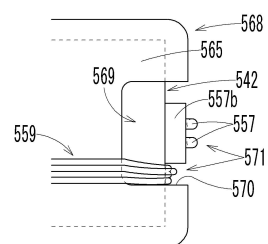
【 図 2 0 】



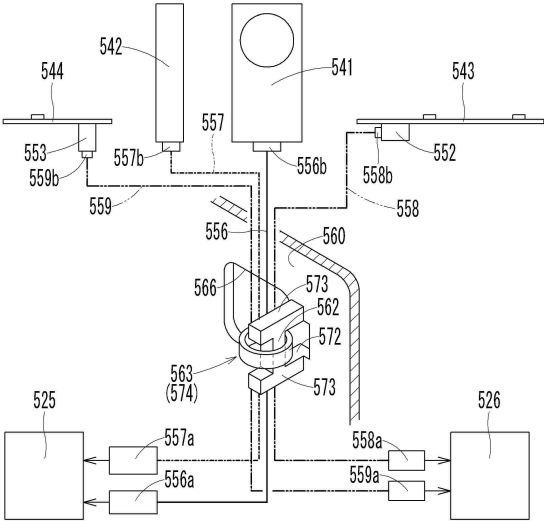
【 図 2 1 】



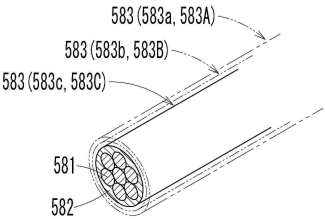
【 図 2 2 】



【 図 2 3 】

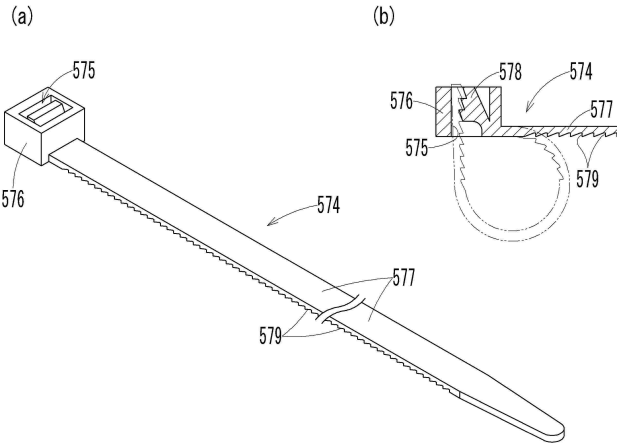


【 図 2 4 】

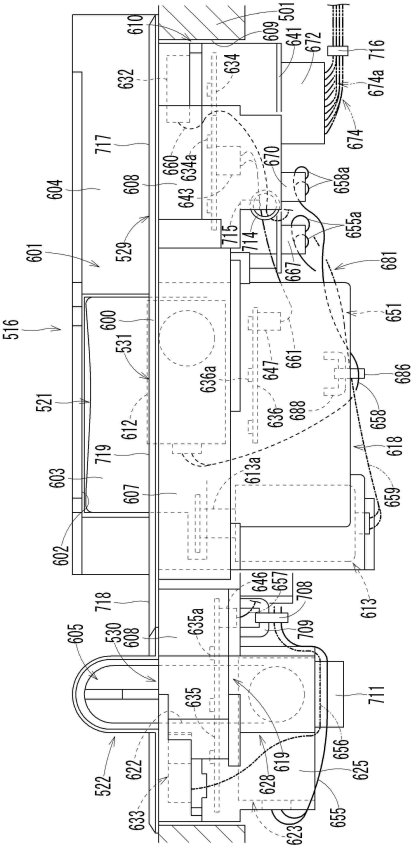


10

【 図 2 5 】



【 図 2 6 】



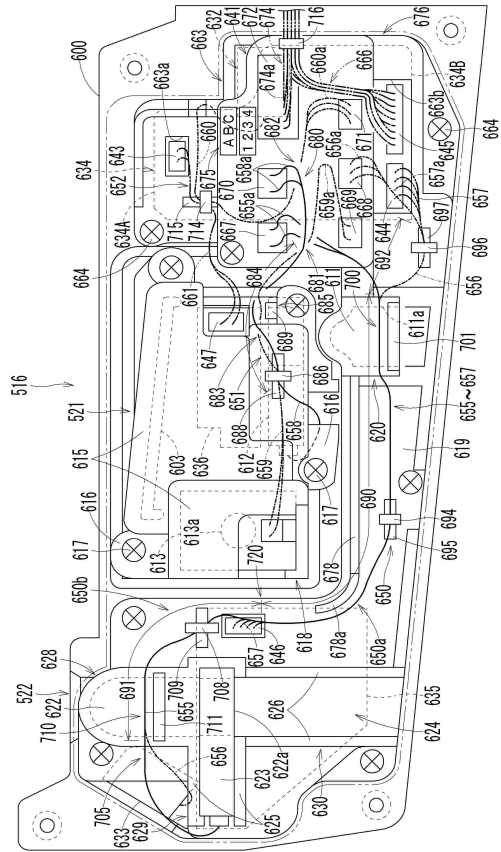
20

30

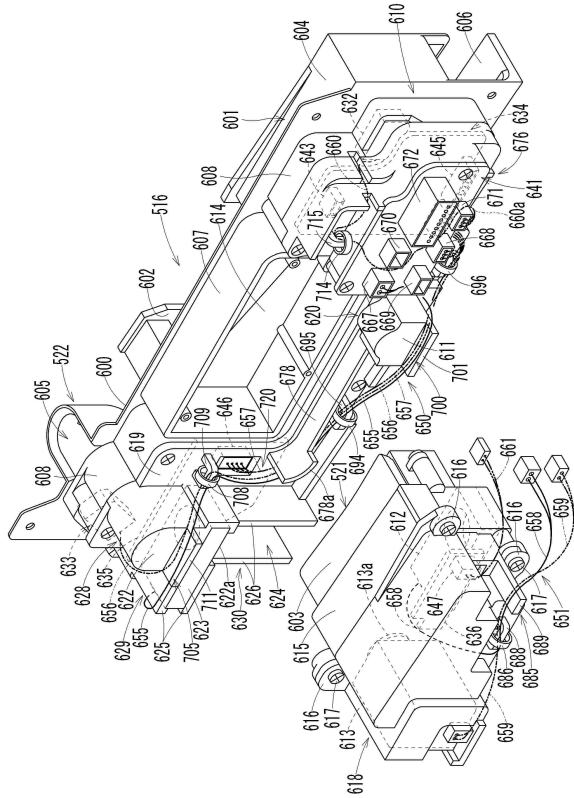
40

50

【 図 2 7 】



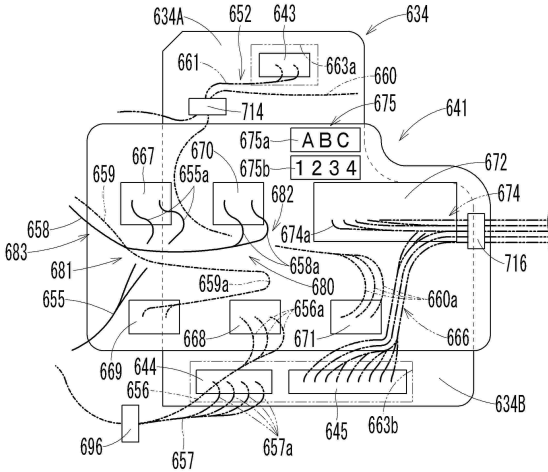
【 図 2 8 】



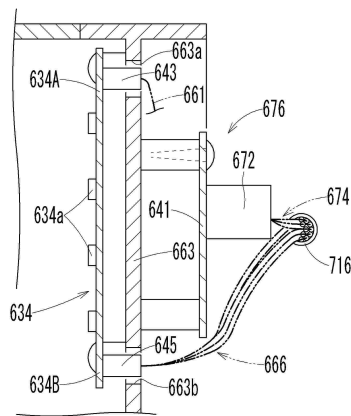
10

20

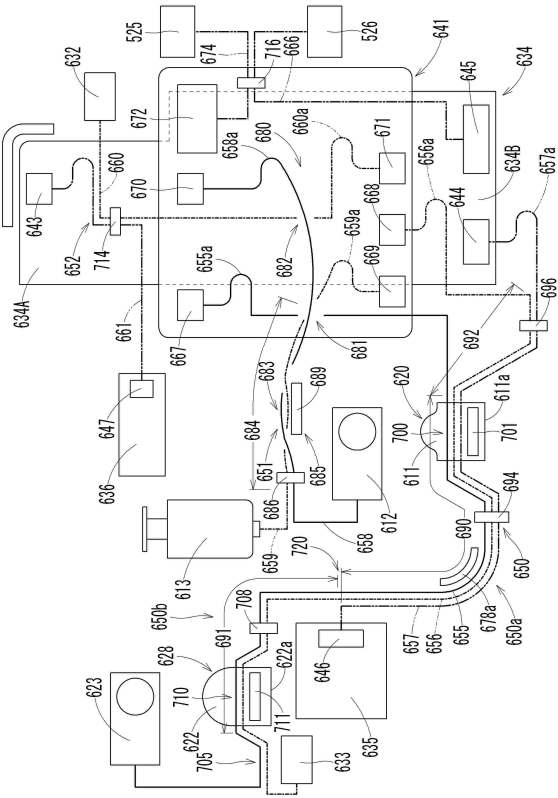
【 図 2 9 】



【 図 3 0 】



【 図 3 1 】



10

20

30

40

50